

クリエイティブなデータの管理



Extensis™

PortfolioTM8

ユーザーガイド



連絡先

Extensis

1800 SW First Avenue,
Suite 500 Portland, OR 97201 USA
電話 : +1 (503) 274-2020
FAX: +1 (503) 274-0530
インターネット : <http://www.extensis.com>

Extensis Europe

First Floor, Century House
The Lakes
Northampton NN4 7SJ
United Kingdom
電話 : +44(0)1604 636 300
Fax +44 (0)1604 636 366
info@extensis.co.uk

©2005 Extensis, a division of Celartem, Inc. 本書ならびに本書に記載されているソフトウェアは著作権保護の対象であり、無断複写・複製・転載が禁止されています。本書または本書に記載されているソフトウェアの全部または一部を、Extensisの書面による承諾なしに複製することはできません。ただし、ソフトウェアの通常の利用やソフトウェアのバックアップ作成は除きます。この例外であっても他者に対する複製は許可されません。登録済みおよび申請中の米国特許に基づいてライセンス化されています。

Extensis は Extensis の 商 標 で す。Extensis の ロ グ、Extensis Library、Font Reserve、Font Reserve Server、Font Vault、Font Sense、Portfolio、Portfolio Server、Portfolio NetPublish、NetPublish、Suitcase、Suitcase Server は Extensis の 商 標 で す。Celartem、Celartem, Inc.、Celartem の ロ グ、PixelLive、PixelSafe は Celartem, Inc. の 商 標 で す。Adobe、Acrobat、Illustrator、Photoshop、PostScript は Adobe Systems, Incorporated の 商 標 で す。Apple、Apple Script、FontSync、Macintosh、Mac OS 9、Mac OS X、PowerPC、QuickDraw は Apple Computer, Inc. の 登 録 商 標 で す。Microsoft、Internet Explorer、Windows、Windows XP、Windows 2000、Windows NT、Windows ME、Windows 98 は Microsoft Corporation の 登 録 商 標 で す。その他すべての商標は各社が所有しています。

株式会社セラーテムテクノロジー

電子メール : sales_ap@celartem.com
<http://www.celartem.com/jp/>

プレスに関するお問い合わせ

電話 : (503) 274-2020 x129
電子メール : press@extensis.com

カスタマーサービス

インターネット上 : <http://www.extensis.com/customerservice/>
電話 : (800) 796-9798

テクニカルサポート

インターネット : <http://www.extensis.com/support/>

マニュアルに関するご意見

インターネット : <http://www.extensis.com/helpfeedback/>

本製品の一部では、さまざまなオープンソースプロジェクトで開発されたソフトウェアコンポーネントを使用しています。そうしたコンポーネントのソースコードのライセンスおよび使用可能性については、本製品に付属する著作権表示ファイルである LICENSES.TXT に示されています。ソフトウェアコンポーネントの利用に関する情報については、該当するライセンスを参照してください。

Extensis は、製品の購入日より 30 日間、通常の使用状況において、ソフトウェアが記録されているディスクに材質上および製造上の欠陥が無いことを保証します。製品を Extensis から直接購入し、30 日以内に障害が発生した場合、ディスクを Extensis に返送いただければ交換いたします。交換用に送付されたすべての製品は、交換の前に Extensis で登録する必要があります。販売店から購入した Extensis 製品は販売店によって保証され、販売店の返品規定の対象となります。この保証は交換に限定され、その他の損害を含みません。その他の損害には、利益の損失、特殊な要求、付随的な要求、その他の同様の要求などがありますが、これらに限定されるものではありません。本ソフトウェアは、「現状のまま」提供されます。上記の明示的な保証を除き、Extensis は、同梱のソフトウェアの品質、性能、商品性、または特定目的の適合性に関して、明示的または暗黙的を問わず他のいかなる保証もいたしません。



目次

Portfolio について	1
混乱を解消する	1
なぜ Portfolio が必要なのか	1
Portfolio が動作するしくみ	2
インストール	2
システムおよびソフトウェアの必要条件	2
登録とパーソナライズ	3
このユーザーガイドについて	3
技術サポート	3
Portfolio 8 の新機能	5
はじめに	7
Portfolio の概要	7
Portfolio の設定	13
カタログの作成	13
Portfolio カatalogを新規作成するその他の方法	14
Portfolio でカタログを開く	15
Portfolio の旧バージョンからのカタログの変換	15
カタログのアクセスレベルとセキュリティ	16
Portfolio へのアイテムの追加	18
高速カタログ化	19
仮レコードの追加	20
カタログ作成オプション	20
カタログ作成の詳細オプション	26
画面プレビューの作成	32
Portfolio の環境設定	33

Portfolio カタログのカスタマイズ	35
Portfolio の環境	35
Portfolio の環境	36
パレット	37
「スクリプト」メニュー	38
自動カタログ化	39
カタログプロパティ	41
ファイルのギャラリーへの整理	42
表示	48
ギャラリー表示のカスタマイズ	49
Portfolio によるファイルの管理	55
ファイルのプレビューと編集	55
ファイルに関する情報の取得	57
「アイテムのプロパティ」を使用した情報の編集	57
オリジナルファイルの編集	58
ファイルの移動、コピー、削除	58
画像の新しいファイル形式へのバッチ変換	59
画像の回転	60
ファイル名を変更	60
新規ファイルへリンク	61
カタログからのアイテムの削除	61
カタログ化された画像の他のソフトウェアへのドラッグ	62
継続的なカタログの更新	63
カタログの印刷	66
PixelLive および PixelSafe ファイル	68
QuarkXPress ファイルからのサムネールの抽出	70

フォルダ同期の使用.....	71
フォルダ同期とは.....	71
フォルダパレットの表示.....	72
新しい監視フォルダの追加.....	72
監視フォルダのフォルダ同期設定の編集.....	74
監視フォルダの削除.....	74
フォルダパレットによるフォルダの内容の表示.....	74
フォルダパレットによるファイルのコピー.....	75
フォルダパレットによるファイルの移動.....	75
フォルダ同期による新しいフォルダの作成.....	75
フォルダの同期.....	76
フォルダ同期の使用に関する重要な注意事項.....	77
Windows エクスプローラまたは Macintosh Finder への切り替え.....	78
オートシンクフォルダ.....	78
Portfolio によるファイルの整理.....	79
キーワード.....	79
カスタムフィールド.....	83
アイテム情報の編集と置換.....	87
アイテムのソート.....	89
カテゴリーの使用.....	90
Portfolio によるファイルの検索.....	93
QuickFind.....	93
パレットからの検索.....	94
「検索」（複雑な検索）コマンドの使用.....	95
「検索条件」オプション.....	96
「検索条件」オプション（続き）.....	97
検索方法を保存.....	98
複数のカタログを検索.....	101
複数カタログの検索結果を保存するには（Mac）.....	102
「仮レコードアイテム」の検索.....	102
消失ファイルの検索.....	103
検索に関する注意事項.....	104

Portfolio によるファイルの配布.....	105
ファイルの電子メールによる送信	105
ファイルのディスクへの書き込み	106
ファイルの収集	109
Portfolio での Web デザイナー	112
スライドショー	119
Portfolio Express パレットの使用.....	123
Portfolio Express の設定	124
Portfolio Express パレットでカタログを開く	125
Portfolio Express ホットキー	125
非表示と終了	126
Portfolio Express パレットでのファイルの検索	126
Portfolio Express パレットからのファイルへのアクセス（および使用）	127
カタログ管理	129
カタログのアクセスレベル	129
管理者モードについて	130
カタログのパスワード保護	131
マスターキーワードリストの作成	133
カタログの起動時オプションの設定	135
プレビューオプションの設定（画面プレビュー）	136
データのインポートとエクスポート	136
カタログの維持	140
Portfolio のネットワーク上での使用	140
公開されたカタログの管理	141
索引	143

Portfolio について

混乱を解消する

Portfolio へようこそ。Portfolio は整理という単調な仕事を引き受け、デジタルファイルに名前を付け、追跡し、アクセスの処理によって生じる混乱状態を終わらせるソフトウェアです。Portfolio は、個人やワークグループがファイルを常に整理したり、必要なときにすばやく検索したり、電子メール、CD、DVD、ネットワーク、Web を通じて配布したりといった処理を、最小限の操作で行えるように設計されています。このソフトウェアは数千から数十万ものファイルを同時に処理できるように設計されているため、個人でも大規模なワークグループでも整理された状態を維持することができます。

なぜ Portfolio が必要なのか

デジタルメディアが日常的に使われるようになり、膨大な数のデジタルファイルがコンピュータやサーバーのあちこちに保管されると、ファイルの管理が混乱します。この混乱を整理しないで放置すると、写真がなくなったり、本来のドキュメントでフォントが使用できなくなったり、画像のバージョンが更新されなくなったりします。その結果、正しいファイルを探すのに時間を浪費してしまうことにつながります。

Portfolio はユーザーの環境からそうした問題を取り除くように設計されています。Portfolio は次のような作業でユーザーを支援します。

- デジタルカメラからダウンロードしたファイルをコピーおよび名前変更する。

- 単語またはフレーズを入力するだけで、システム上にあるデジタル写真やその他の画像ファイルを検索する。
- CD-ROM に保管してある写真全体を、CD を挿入しないでプレビューする。
- お気に入りの画像のスライドショーを作成する。
- 画像に対するメタデータおよび Portfolio キーワードの埋め込みおよび編集を行う。
- 収集された画像を含む Web サイトを構築する。
- 一組の画像を集め、Portfolio から直接 CD または DVD に書き込む。
- 複数のフォルダを参照することなく、単にダブルクリックするだけでファイルにアクセスする。
- 画像を JPG または TIF ファイル形式へバッチ変換およびサイズ変更する。



Portfolio が動作するしくみ

Portfolio カタログの中の画像を表示および検索するのは高速かつ容易です。カタログは完全な文書または画像ではなく、ファイルのサムネール画像のみを保存するからです。Portfolio はオリジナルファイルへのポインタを作成します。このため、オリジナルファイルは常にアプリケーションによるコピー、プレビュー、編集などが可能である一方、カタログそのものは高速で効率的な処理を行うことができます。

Portfolio Server（別売）をワークグループ設定で使用して、すべてのユーザーがすべてのカタログ機能を使用したり、カタログ管理者を指定してワークグループ全体のカタログの作成、管理、アクセス制御を行ったりすることができます。

各コンピュータに Portfolio をインストールし、カタログを Portfolio Server によって共有することで、ワークグループのメンバーは Macintosh と Windows の両方から同時にカタログの項目を検索、表示、および使用できます。このとき、元のファイルは 1 つ以上のネットワークサーバー、共有ボリューム、CD-ROM またはリムーバブルドライブにあるものが使用できます。

インストール

製品に付属する CD-ROM ですばやく簡単にインストールするための操作手順を確認できます。Extensis 製品インストーラーを Web サイトからダウンロードした場合、インストーラーを実行すると、リリースノートファイルがハードディスクに作成されます。



コンピュータ上にインストールされるファイルの完全なリストやこのガイドに含まれていない最新の変更点については、コンピュータの Portfolio ディレクトリにインストールされるお読みくださいファイルを参照してください。

システムおよびソフトウェアの必要条件

Portfolio をインストールおよび使用するには、次のハードウェアとソフトウェアが必要です。

Portfolio Macintosh:

- Mac OS X 10.3 以降
- Apple Macintosh G3 以降（1GHz 以上推奨）
- XGA またはそれ以上のフルカラーディスプレイ
- 256MB 以上の物理 RAM（512MB 以上推奨）
- 200MB 以上のハードディスク空き容量
- サーバー接続のためのネットワークインターフェイス
- QuickTime 6.5 以降
- Macromedia Flash 7 以降のプラグインがインストールされた Web ブラウザ

Portfolio Windows:

- Windows 2000、Windows XP Home または Professional
- Pentium クラスのプロセッサ（1GHz 以上推奨）
- XGA またはそれ以上のフルカラーディスプレイ
- 256MB 以上の物理 RAM（512MB 以上推奨）
- 200MB 以上のハードディスク空き容量
- サーバー接続のためのネットワークインターフェイス
- QuickTime 6.5 以降
- Macromedia Flash 7 以降のプラグインがインストールされた Web ブラウザ

Portfolio をアップグレードする場合は、新しいバージョンをインストールする際に、以前のバージョンのシリアル番号をお手元にご用意ください。

登録とパーソナライズ

弊社から最大限のサービスを提供させていただくために、Portfolio のユーザー登録していただくことが重要です。Portfolio の登録ユーザーは、技術サポート、新バージョンや新製品に関する情報、新製品の割引および特別提供を受けることができます。

ユーザーのシリアル番号は、Portfolio CD のジャケット、または製品パッケージに記載されているか、Web サイトから購入した場合は電子メールで通知されます。その番号を入力して、Portfolio のコピーをパーソナライズします。

パーソナライズしない場合、Portfolio はデモモードで動作し、製品の使用は30日間に限定されます。Extensis カスタマサービスからシリアル番号を追加購入できます。連絡先の詳細については、このガイドの冒頭にあるお問合せ先ページを参照してください。

このユーザーガイドについて

このユーザーガイドは Macintosh および Windows 用の Portfolio を対象にしています。Macintosh の場合、キーボードショートカットの記述として「command」は **⌘** キーを指します。メニュー選択の参照は、「メニュー」>「メニュー項目」を選択、のように示します。

特定の Portfolio 機能の詳細については、以下を参照してください。

- ・ リリースノートファイルー Portfolio フォルダにあります。
この HTML ファイルは最新の情報を提供します。
- ・ 次の Extensis Web サイトにある Portfolio ページ：
<http://www.extensis.co.jp>

技術サポート

詳細は、登録はがきをご覧ください。

* サポートを受けるには、ユーザーの登録が必要になります。

Portfolio 8 の新機能

Portfolio はデジタル写真、イラスト、ページレイアウトおよびプレゼンテーションを驚くほど視覚的なカタログに整理するための、業界を代表するソリューションです。

ファイルは必要なときに見つけることができてこそ資産になります。Portfolio の強力な新機能によって、ファイルの表示、整理、再利用が容易になり、ファイルを資産として有効に活用できるようになります。

カスタムソート

ギャラリー、スマートギャラリー、ディスクのフォルダ内でファイルをドラッグアンドドロップして自由に並べ替えができるようになりました。各ユーザーのワークグループ環境でカスタムソート順が自動的に保存され、最適な順序でファイルを表示できます。カスタムソート順が共有カタログのすべてのユーザーに適していれば、そのソート順をカタログレベルで有効なものとして、すべてのユーザーが同じソート順を利用するよう設定することが可能です。

一時ギャラリー

一時ギャラリーは、複数ギャラリーからのファイルのコレクションをソート、編集、マージしたり、検索結果を1つのギャラリーに保存できるようにする一時的な作業領域です。このようなギャラリーは、印刷したり他のユーザーと共有するアイテムを収集したりする場合に便利です。

パブリックおよびプライベートギャラリー

自分だけが見ることのできるプライベートギャラリーを作成できるようになりました。また、パブリックギャラリーとして公開し、他のユーザーが見たり変更したりできるギャラリーを選択することもできるようになりました。さらに、ギャラリーをロックして変更できなくすることも可能です。

高速カタログ化

Portfolio 8 では、ファイルをカタログにすばやく追加し、すぐに操作を開始できるようになりました。新しいアイテムをカタログに追加する最初のパスの後、Portfolio は一番最初のファイルに戻り、バックグラウンドでファイルを厳密に検査するので、作業をすばやく再開することができます。高速カタログ化を使用すると、Portfolio にアイテムが表示された直後に、メタデータのソート、削除、変更が可能になります。

カスタム XMP および CS ファイル情報パネル

XMP メタデータのサポートが強化され、より広範なファイルタイプが含まれるようになりました。カスタムネームスペースに保存されている情報を読み取る機能が追加されました。これには、Adobe CS2 アプリケーションで使用される新しい XMP ベースの IPTC コアメタデータおよびカスタムファイル情報パネルのサポートも含まれます。Adobe Creative Suite アプリケーション用のサンプルカタログとカスタム XMP パネルが自動的にインストールされるようになりました。

フォルダ同期の改善

新しい監視フォルダをカタログに追加するとき、フォルダをスキャンする頻度を定義することや、新しい各フォルダにカタログ作成オプションのプリセットを付加できるようになりました。フォルダ同期も強化され、無視または除外されたアイテムによってフォルダのステータスが自動的に変更されなくなりました。

ファイル形式サポートの改善

Portfolio 8 では、次のファイル形式のサポートが追加されました。

- Microsoft Windows の Word および Excel ファイルからサムネール、プレビュー、テキストのインデックス、およびメタデータの読み取り。
- Adobe DNG の生ファイルからの全画面プレビューの作成。
- 複数の新しいプロフェッショナルデジタルカメラから生ファイルを直接カタログ。
- DV や .3GPP2 など、いくつかの新しいプロ向けビデオ形式のサポート。

QuickTime ムービーのメタデータ

Portfolio 8 では、フレームレート、持続時間、オーディオトラックなどの一般的なメタデータ、および QuickTime でサポートされているムービーファイルからのメタデータを抽出できます。

ヘルプの改善

検索可能な HTML ベースのヘルプシステム、ビデオチュートリアル、サンプルカタログが追加されました。これによって、短時間で Portfolio 8 を使い始め、Portfolio をニーズに合わせてより簡単にカスタマイズできるようになります。

プレビュー画像の使用法の改善

画面のプレビュー画像を使用して、CD、DVD、Web サイト、電子メールを作成できるようになりました。これによって、（オフラインのファイルも含めて）ファイル共有プロセスが著しくスピードアップできます。

アイテムプロパティの強化

アイテムプロパティのダイアログが小さく、使いやすくなりました。最も一般的に使用される情報が最初のタブに表示され、「フィールド」タブをフィルタして、EXIF や IPTC など特定タイプのメタデータだけを表示することもできるようになりました。これによって、「プロパティ」ダイアログを開くだけで、どのファイルのメタデータでも検索したり編集できるようになりました。

デジタル写真の自動回転

画像をカタログに追加すると、写真の向きを記録するデジタルカメラからのサムネールとプレビュー画像が自動的に回転されます。

評価、ラベル、およびワークフローの追跡

デフォルトの Portfolio カタログに評価とラベル用の組み込みフィールドが追加されました。ワークフローがスムーズになるように、スマートギャラリーが迅速簡単に作成でき、どのワークフローからでも追跡できるようになりました。

はじめに

Portfolio の概要

Portfolio は、デジタルファイルに関する情報を、扱いやすい視覚的なカタログに保存することによってファイルを整理するのに役立ちます。ファイルを探すのに深い階層のフォルダを探したり、必要な画像を見つけるために文書を次から次へと開いたりする代わりに、ファイルのサムネイルをすばやく参照したり、Portfolio の強力な検索エンジンを使用して必要なアイテムの検索を実行したりできます。

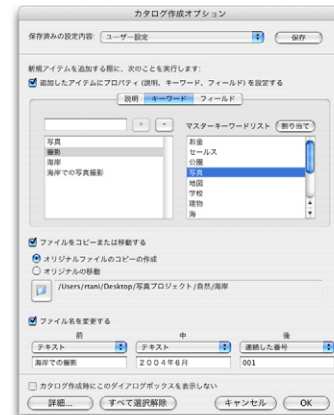
以下は、Portfolio の設定方法および使用方法に関するすべての画像について説明しています。各基本操作では簡単なサマリーに続いて、このユーザーガイドの中でより詳細な手順を参照できるページ情報を示しています。このセクションで“全体像”を理解したら、後の章で Portfolio の各機能に対するステップバイステップのガイドを参照してください。

マニュアルを読まずに、できるだけ早く Portfolio を使ってみたい場合は、Portfolio のユーザーコピーに付属する簡易な『Portfolio クイックスタートガイド』を参照してください。『クイックスタートガイド』は少ないページで、『ユーザーガイド』で説明している詳細の多くには触れず、Portfolio の設定と使用に関する簡略化された操作手順を示しています。

1. カタログ

ファイルは「カタログ化」(Portfolio カタログに追加) する必要があります。これによって、Portfolio はファイルの検索、プレビュー、および追跡が可能になります。この処理に含まれる作業としては、新規カタログ文書の作成と、その後のさまざまな方法によるデジタルファイル (写真、イラスト、プレゼンテーション、オーディオまたはビデオクリップなど) のカタログへの追加があります。

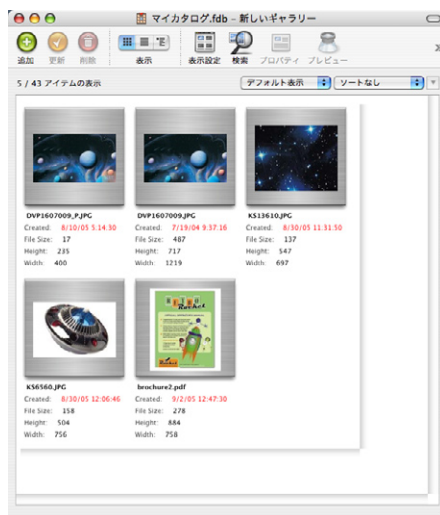
ファイルをカタログに追加するには、開いているカタログウィンドウにドロップするという簡単な方法のほか、Portfolio が実行中でなくても使える「Portfolio へ追加」メニュー、Windows エクスプローラで右クリック、または Macintosh の Finder で Ctrl キーを押しながらクリックを使用する方法があります。



- ・新しいカタログを作成するには、13 ページを参照してください。
- ・既存のカタログを開き、アクセスするには、15 ページを参照してください。
- ・カタログにアイテムを追加するには、18 ページを参照してください。

2. 設定

必要な情報の検索と表示を容易にするために、カタログの外観を定めます。サムネール表示、リスト表示、アイテム表示から選択します。Portfolio の表示オプションを設定および保存して、背景色、サムネールサイズ、フレーム、フォント、スタイル、間隔、およびソートの順序を表示します。

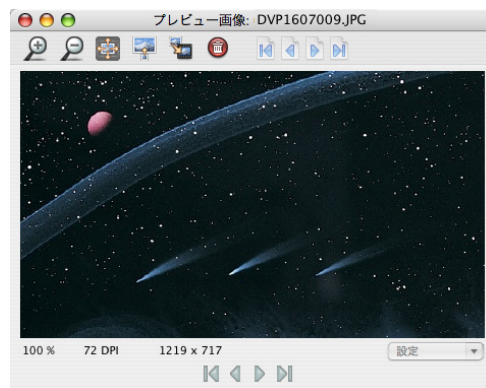


- Portfolio ツールバーを設定するには、36 ページを参照してください。
- ファイルをギャラリーに整理するには、42 ページを参照してください。
- ギャラリーの外観を設定するには、48 ページを参照してください。
- カスタム表示を保存するには、53 ページを参照してください。

3. アクセス

ファイルを直接 Portfolio 内でプレビューし、別ディスクへコピーし、Adobe Photoshop® や Microsoft PowerPoint® などのソフトウェアへドラッグし、作成元アプリケーションで開いて編集を行います。

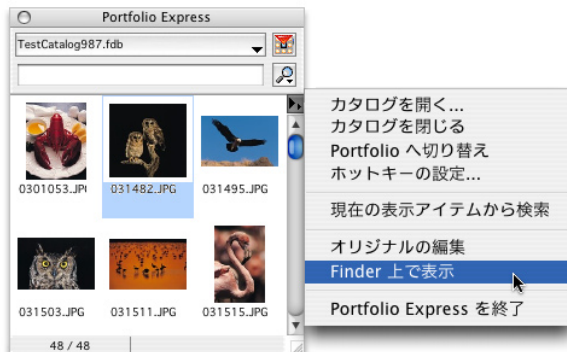
Portfolio Express パレットを使用すれば、Portfolio を起動しなくてもカタログ化された画像を開き、アクセスできます。QuarkXPress、Adobe Photoshop などのアプリケーションから画像を開くこともできます。



- Portfolio 内の画面プレビューファイルを開くには、55 ページを参照してください。
- オリジナルファイルを編集するには、58 ページを参照してください。
- ファイルを他のアプリケーションで使用するには、62 ページを参照してください。
- Portfolio Express パレットを使用するには、123 ページを参照してください。

4. 整理

Portfolio 内の機能を使用して、キーワード、説明、その他のカスタムデータを追加することにより、ファイルをグループ化、整理、およびカテゴリ化することができます。作成可能なキーワードおよびカスタムフィールドの数に制限はありません。

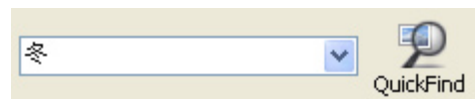


Portfolio では、ファイルを論理的に整理するだけでなく、物理的に整理することもできます。フォルダ同期機能を使用して、ハードドライブまたはネットワーク上のフォルダの追加、削除、移動を Portfolio から直接実行することができるので、今までより簡単にファイルを管理できるようになります。

- フォルダ同期機能を使用してディスク上のファイルを整理するには、71 ページを参照してください。
- キーワードを作成し、割り当てるには、79 ページを参照してください。
- カスタムフィールドを使用するには、83 ページを参照してください。
- ファイルに関する情報を編集するには、87 ページを参照してください。

5. 検索

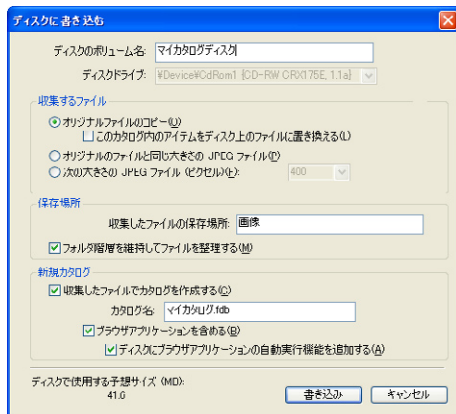
メインツールバー上の「QuickFind」ボックスに単語またはフレーズを入力して、カタログ化されたファイル特定し、すぐにアクセスします。Portfolio の強力な検索エンジンを使用し、多数の異なる条件によってファイルを検索します。個別のカタログを検索するか、複数のカタログにまたがって検索します。



- Portfolio の「QuickFind」ボックスを使用してファイルをすばやく検索するには、93 ページを参照してください。
- 「検索」コマンドを使用するには、95 ページを参照してください。
- 将来の使用のために検索条件のセットを保存するには、98 ページを参照してください。
- 複数カタログ検索を実行するには、101 ページを参照してください。
- PDF ファイルおよびテキストファイル内のテキストを検索するには、103 ページを参照してください。

6. 配布

Portfolio はファイルの整理に役立つだけでなく、他のユーザーへのファイル配布も支援します。1 回のクリックで電子メール経由のファイル送信を行うか、カタログ化された画像のグループ全体を集め、CD または DVD に書き込むことができます。「Web ページの作成」コマンドを使用すると、ギャラリー内で選択した画像が公開可能なページのセットに変わります。



- Portfolio から画像を電子メールで送信するには、105 ページを参照してください。
- Portfolio から直接ディスクに書き込むには、106 ページを参照してください。
- 配布用の画像を収集するには、109 ページを参照してください。
- カatalog化された画像を Web ページに変換するには、112 ページを参照してください。

ユーザーガイドの概要

このユーザーガイドで必要な情報を見つけやすくするために、各章の内容を簡単に説明します。

第 1 章 : Portfolio について

インストール、システム条件、登録、サポート情報について

第 2 章 : Portfolio の新機能

Portfolio の新機能の説明

第 3 章 : はじめに

Portfolio の設定手順および使用手順に関する“全体像”を含む概要

第 4 章 : Portfolio の設定

カタログの作成とオープン、カタログに対するアイテムの追加に関する手順の概要

第 5 章 : Portfolio カタログのカスタマイズ

カタログの外観を設定する方法、カスタム表示の作成と保存について

第 6 章 : Portfolio によるファイルの管理

Portfolio を使用したオリジナルファイルのプレビュー、移動、コピー、名前変更、編集について

第 7 章 : フォルダ同期の使用

フォルダ同期を使用して、ディスク上のファイルを管理し、カタログを最新状態に維持する方法

第 8 章 : Portfolio によるファイルの整理

キーワード、カスタムフィールド、ギャラリー、その他の機能を使用したファイルのグループ化、カテゴリ化、整理について

第 9 章 : Portfolio によるファイルの検索

Portfolio の検索エンジンを使用した迅速なファイルの特定について

第 10 章 : Portfolio によるファイルの配布

電子メール送信、CD への書き込み、ネットワーク上のある場所への収集、プロフェッショナルなデザインの Web サイト作成によるファイルの発行について

第 11 章 : Portfolio Express パレットの使用

Portfolio Express アプリケーションを使用し、コンピュータシステムの任意の場所からファイルにアクセスする方法

第 12 章 : カタログ管理

アクセスレベルとセキュリティパスワードの設定、カスタムフィールドの作成、Portfolio におけるその他の管理オプションの設定について

Portfolio の設定

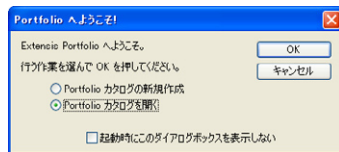
この章では、デジタルファイルの整理、追跡、および配布を行うために、Portfolio を設定する方法について説明します。新しいカタログの作成、カタログへのアイテムの追加、および Portfolio の強力なカタログ作成オプションを使用した、デジタルファイルコレクションのカタログ作成処理の簡素化に関する方法を紹介합니다。

カタログの作成

Portfolio は、画像やグラフィック、デジタル写真などのメディアファイルのコレクションを、カタログという 1 つの文書に整理します。カタログはファイルのサムネイル画像（必要な補足情報とともに）とオリジナルファイルへのポインタのみを保存し、ファイルそのものは保存しません（保存場所は自由に選択可能）。したがって、カタログは比較的サイズが小さく凝縮された文書で、重く扱いにくくなる心配をしないで、ファイルのプレビューや整理を行うことができます。

Portfolio 起動時の新規カタログの作成

Portfolio を最初に起動するとき、「カタログ選択」画面では 2 つの選択肢があります。ここに示すように新しい空のカタログを作成するか、既存のカタログを開くことができます。



「カタログ選択」ダイアログボックスのオプション

「Portfolio カatalogの新規作成」

このオプションを選択すると、はじめにカタログに名前を付け、保存するように要求されます。

ダイアログが表示されたら、画面プレビューを生成するかどうかを選択します。画面プレビューは 72dpi のプレビューで、最大 2,000 ピクセルの幅まで可能です。画面プレビューの利点は、サイズが非常に大きい可能性があるオリジナルファイルを開かずに、すばやく開けることです。

アイテムを 1 つも含まない空のカタログが作成され、画面上に開きます。「Portfolio へのアイテムの追加」で説明している方法のいずれかを使用して、カタログにアイテムを追加する準備ができました。

「Portfolio カatalogを開く」

このオプションを選択すると、標準の「開く」ダイアログボックスが表示されます。Portfolio カatalogを選択して、開きます。



Windows で Portfolio を起動するたびに「カタログ選択」ダイアログボックスが開かないようにすることができます。このためには、「環境設定」(「編集」から「環境設定」を選択)の「起動時に [ようこそ] ダイアログボックスを表示する」オプションをオフにするか、「カタログ選択」ダイアログボックスの「起動時にこのダイアログボックスを表示しない」チェックボックスをオンにします。

☒ 起動時に [ようこそ] ダイアログボックスを表示する (⌘)



Macintosh の場合、「カタログ選択」ダイアログボックスは Portfolio を最初に起動したときのみ表示されます。その後、Portfolio が起動されると、「開く」ダイアログボックスが表示されます。

Portfolio カタログを新規作成するその他の方法

Portfolio カタログを新規作成するには他に2つの方法があります。Portfolio カタログ自体の中から作成するか、デスクトップからカタログ作成を実行中に作成します。

Portfolio 内の新しいカタログの作成

- 「ファイル」から「新規」を選択するか、command キーを押しながら N キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーを押しながら N キーを押します (Win)。アイテムを1つも含まない空のカタログが作成され、画面上に開きます。

本章の「Portfolio へのアイテムの追加」で説明している方法のいずれかを使用して、カタログにアイテムを追加する準備ができました。

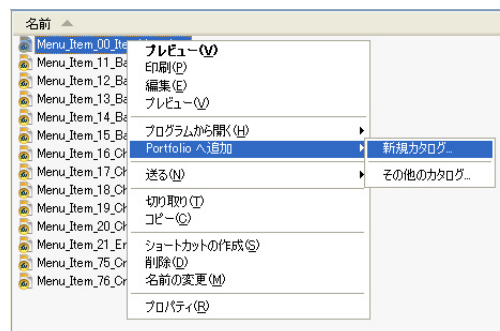


デフォルトで、Portfolio はカタログ名の末尾に .fdb という拡張子を追加します。技術的には、この3文字の拡張子は Macintosh プラットフォームで不要ですが、これを維持することにより、Portfolio の Mac ユーザーと Windows ユーザーの両方がカタログを読み取ることができます。

デスクトップからのカタログ作成

Portfolio ではアイテムをハードドライブまたはネットワークから直接カタログに追加できます。この処理を行うには Windows エクスプローラでアイテムを右クリックするか、Macintosh の Finder で Ctrl キーを押しながらアイテムをクリックするだけです。カタログの作成中に、こうしたアイテムを受け取るための準備ができていないカタログがない場合、Portfolio がカタログ作成を同時に行うようにすることができます。

1. カタログ化するファイル、フォルダ、またはディスク上で、Ctrl キーを押しながらアイテムをクリックするか (Mac)、アイテムを右クリックします (Win)。
2. 「Portfolio へ追加」から「新規カタログ」を選択します。
3. 新しいカタログに名前を付けて、保存します。



Portfolio でカタログを開く

「カタログ選択」ダイアログボックスのほかに、Portfolio で既存のカタログを開く方法がいくつかあります。

- Finder または Windows エクスプローラからカタログファイル (.fdb ファイル名拡張子を持つもの) をダブルクリックします。
- Portfolio の「ファイル」メニューで最近開いたカタログリストを使用します。Mac の場合は、「ファイル」、「最近のカタログを開く」、カタログ名の順に選択します。Windows の場合は、最近開いたカタログが「ファイル」メニューの「印刷」コマンドのすぐ下に表示されます。
- 「カタログ」パレットが表示されている場合（「ウインドウ」から「カタログパレットを表示」を選択）は、「開く」ボタンをクリックするか、パレットのフライアウトメニューで「開く」コマンドか、フライアウトメニューの「開く」コマンドを使用します。



Portfolio の旧バージョンからのカタログの変換

Portfolio のこの新バージョンに追加された新機能を利用するには、Portfolio の旧バージョンで作成されたカタログをバージョン 8 のカタログに変換する必要があります。Portfolio 8 は、バージョン 7 のカタログを変換せずに、限定された閲覧モードで開くことも可能です。



Portfolio 5（およびそれ以前）で作成されたカタログを開き、変換することも可能ですが、最高の結果を得るために、まず Portfolio 7 を使用して開き、変換した後で、以下に述べるようにカタログをバージョン 7.x から 8 へ変換することを推奨します。

Portfolio 7.0 のカタログを変換するには

1. 元の 7.x カatalogのバックアップコピーを作成します。
2. 更新するカタログを開きます。
3. Portfolio 8 は自動的に管理者モードに切り替わります。カタログが管理者レベルアクセスのためのパスワードを要求する場合は、適切なパスワードを入力します。



カタログが Portfolio 8 形式のカタログに変換されると、Portfolio 7.x を使用して開くことができなくなります。

4. 変換を確定するように要求されます。「OK」をクリックします。

カタログは変換され、すべてのオプション（カタログオプション、保存されたギャラリーなど）は保護されます。

カタログバージョンを変更せず、限定された閲覧モードで開く場合は、「キャンセル」を選択します。



Portfolio 7 カatalogでカスタムメタデータフィールドを作成した場合、マッピングの一部を、変換された Portfolio 8 カatalogで再作成しなければならないことがあります。

カタログのアクセスレベルとセキュリティ

すべてのPortfolioカタログはセキュリティのためにパスワードで保護することができます。また、カタログの管理者として、異なるユーザーにさまざまなレベルのアクセスを割り当てることができます。

4つのアクセスのレベル

管理者

このモードは、すべての機能に対する完全なアクセスを提供します。管理者は、他のユーザーへのパスワードの割り当て、カスタムフィールドの作成、およびカタログ作成と起動時オプションのコントロールといった、他のユーザーが不可能な処理を行うことができます。デフォルトでは、Portfolioカタログを新規作成すると、そのカタログへの管理者アクセスを持ちます。カタログが管理者モードで開かれている場合、他のユーザーはそれを使用できません。

発行者

発行者は、カタログ内のアイテムを追加、削除、エクスポート、および編集できますが、新規カスタムフィールドの作成、マスターキーワードリストの作成、パスワードの変更といった管理者機能を使用できません。

編集者

編集者モードでは、カタログ化されたアイテムに関する情報を検索、プレビュー、アクセス、および編集できますが、カタログへの新規アイテムの追加、ファイル名を変更、アイテムのWebまたはQuickTimeムービーへのエクスポートを行うことはできません。

閲覧者

閲覧者として、アイテムを表示、検索、プレビュー、およびコピーできますが、カタログ内の変更は一切できません。これは“読み取り専用”モードです。

Portfolioでは、こうしたレベルのそれぞれが独自のパスワードを持つことができます。また、カタログ管理者が個々のユーザーにアクセスレベルとパスワードを割り当て、カタログに対するアクセスを誰がどのレベルで持っているかについてより詳しくコントロールすることもできます。

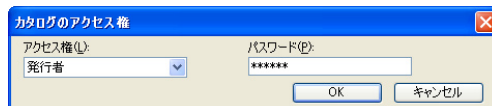


Portfolioカタログのアクセスレベルのパスワードの設定とユーザーレベルのアクセス特権の作成に関する詳細については、このガイドの「カタログ管理」の章を参照してください。

現時点でアクセス特権とセキュリティに関して理解しておく必要のある事項を以下に説明します。

パスワードで保護されたカタログを開く

カタログ管理者がパスワードを使用してカタログを保護している場合、ユーザーがカタログを開こうとするたびにパスワードの入力を要求されます。「アクセス権」ドロップダウンメニューから、使用するアクセス権のレベル（「管理者」、「発行者」、「編集者」、「閲覧者」のいずれか）を選択し、パスワードを入力して、「OK」をクリックします。

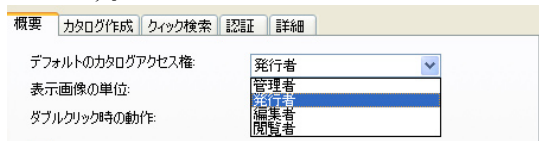


デフォルトのアクセスモードの設定

Portfolio のユーザーコピーを設定し、4つのアクセスレベルモードのいずれかをデフォルトにしてカタログを開くことができます。たとえば、カタログに対して発行者レベルの特権を持っていることがわかっている場合、Portfolio が自動的に発行者モードでカタログを開くようにすることができます。Portfolio カatalogの管理者である場合、自分のコンピュータではPortfolio が常に管理者モードでカタログを開くようにすることを推奨します。

デフォルトのアクセスモードを設定するには

1. 「編集」>「環境設定」(Win) または「Portfolio」>「環境設定」(Mac) を選択します。
2. 「概要」環境設定タブで、ドロップダウンメニューからデフォルトのアクセスモードを選択し、アクセスレベルを選択します。これはPortfolio が各カタログを開こうとするレベルです。



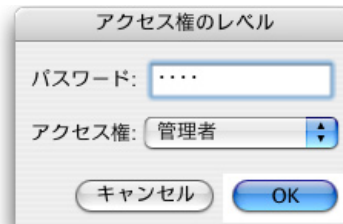
もちろん、設定されているレベルにかかわらず、カタログを開くためにはパスワード（存在する場合）を知っている必要があります。

アクセスレベルの変更

現在カタログにアクセスしているレベルはいつでも変更できます。たとえば、発行者モードでカタログを開いているときに、管理者アクセス権を必要とする変更を行う必要が生じることがあります（新規カスタムフィールドの追加など）。カタログを閉じたり、Portfolio を終了したりせずに、アクセスレベルを発行者から管理者に変更し、必要な変更を行った後、再度アクセスを発行者に戻すことができます。

アクセスレベルを変更するには

1. 「カタログ」から「アクセス権のレベル」を選択するか、command キーを押しながらJ キーを押すか（Mac）、またはCtrlキーを押しながらJキーを押して（Windows）、「アクセス権のレベル」ダイアログボックスを開きます。
2. 「アクセス権」ドロップダウンメニューからアクセスレベルを選択します。



カタログが既に別のユーザーによって開かれているため、アクセスレベルを変更できない旨のエラーが表示され、自分がカタログ内のただ1人のユーザーであることがわかっている場合は、Portfolio Express バレットで開いているすべてのカタログを閉じてください。

3. 必要があればパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

サーバーから提供されるカタログを開く

ワークグループが Portfolio Server を使用している場合、「サーバーへの接続」コマンドを使用して Portfolio カタログを開くことができます。Portfolio Server は、ネットワークを通じて Portfolio カタログを共有するワークグループにとって最適なパフォーマンスを提供します。

Portfolio Server 上のカタログを開くには

1. 「ファイル」から「サーバーへの接続」を選択するか、⌘ キーと option キーを押しながら O キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーと Shift キーを押しながら O キーを押します (Windows)。「サーバーへの接続」ダイアログボックスが表示されます。
2. サーバーとカタログのリストが表示される場合は、ステップ 4 に進みます。



リストが空白の場合、またはアクセスしたいサーバーが表示されない場合は、「サーバーの追加」をクリックします。「サーバーの追加」ダイアログボックスが表示されます。

3. 接続するサーバーの名前と IP アドレスを入力します。Portfolio は該当するサーバーに接続し、そのサーバー上で使用可能なカタログのリストを表示します。



4. 三角形 (Mac) または “+” 記号 (Windows) をクリックして、各サーバーエントリを展開し、サーバーから使用可能なカタログを表示します。リストから必要なカタログを選択し、「カタログを開く」をクリックするか、選択したカタログをダブルクリックして開きます。



カタログが必要とする場合は、パスワードの入力を求められます。

次回、「サーバーへの接続」コマンドを使用するときは、追加したすべてのサーバーとそれらのサーバー上の使用可能なすべてのカタログがリストに表示され、開ける状態になっています。



カタログとサーバーの管理に関する詳細については、「カタログ管理」の章および『Portfolio Server ユーザーガイド』を参照してください。

Portfolio へのアイテムの追加

Portfolio を使用してファイルの整理と追跡を行うためには、まずファイルを Portfolio カタログに追加する必要があります。Portfolio カタログにアイテムを追加するには、カタログに対する発行者または管理者のアクセスを持っている必要があります。編集者または閲覧者モードのとき、カタログにアイテムを追加することはできません。

個別のファイル (JPEG 画像や EPS グラフィックなど)、フォルダ、またはボリューム全体 (ハードドライブ、CD-ROM、DVD など) をカタログ化できます。Portfolio カタログにアイテムを追加する方法は 5 つあります。

インスタントカタログ作成

これは Portfolio にアイテムを速く追加するための方法です。Macintosh の Finder または Windows エクスプローラ内の任意の場所でファイル、フォルダ、またはディスクアイコンを Ctrl キーを押しながらクリックするか (Mac)、または右クリックし (Windows)、「Portfolio へ追加」コマンドサブ

メニューを選択して、最近使用したカタログのリストを表示します。選択済みのアイテムを追加するカタログを選択します。必要なカタログが一覧表示されない場合は、「**その他のカタログ**」を選択して開きます。

ドラッグアンドドロップ

ファイル、フォルダ、またはディスクを開いているカタログウィンドウの中にドラッグするだけで、カタログ化します。

フォルダ同期

コンピュータまたはネットワークのフォルダを Portfolio の「フォルダパレット」に追加します。このためには、「フォルダパレット」の「**新規**」ボタンをクリックし、「**同期**」ボタンをクリックして、選択済みフォルダの内容をカタログ化します。フォルダ同期の使用方法については、このガイドの「**フォルダ同期**」の章を参照してください。

「追加」ボタン

Portfolio のメインツールバーの「**追加**」ボタンをクリックします。「開く」ダイアログボックスで任意のファイル、フォルダ、またはディスクを選択します。フォルダまたはディスクを選択する場合、「**サブフォルダを含める**」オプションをオンにして、選択したフォルダまたはディスクボリューム内にあるフォルダ内のすべてのファイルをカタログ化できます。

「カタログ」メニュー

「**カタログ**」メニューから「**アイテムを追加**」を選択します。「開く」ダイアログボックスで任意のファイル、フォルダ、またはディスクを選択します。フォルダまたはディスクを選択する場合、「**サブフォルダを含める**」チェックボックスをオンにして、選択したフォルダまたはディスクボリュームにネストされているフォルダ内のすべてのファイルをカタログ化できます。

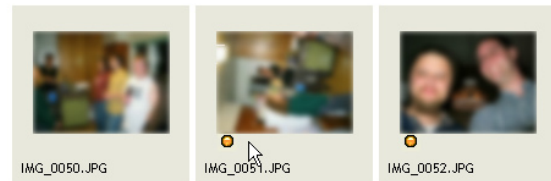


「自動カタログ化」を使用して、操作不要のバックグラウンド処理としてアイテムを Portfolio に追加することもできます。

高速カタログ化

前述の方法のいずれかを使ってファイルを追加すると、Portfolio は、2つのステップによる高速カタログ処理を使って、ファイルをカタログに追加します。最初のステップでは、すべてのファイルがすばやくスキャンされ、カタログに追加されます。ファイルがスキャンされると、埋め込まれたサムネールファイルが抽出され、黄色いアイコンとともにカタログに表示されます。これは、ファイルが利用できるが、完全にカタログ化されていないことを示します。

2つ目のステップはバックグラウンドで行われるので、この時点でカタログを使った作業を続けることができます。2つ目のステップでは、Portfolio がプレビューファイルを作成し、必要なテキストのインデックス化を行います。このステップが完了すると、各アイテムのサムネールから黄色いアイコンが消えます。



ファイルがカタログ化されている間には、ステータスバーにカタログ作成の進行状況が表示されます。ステータスバーには、1つ目のステップでカタログの作成を停止し、開始するコントロールや、2つ目のステップ中にカタログの作成を一時停止および再開するコントロールも含まれます。

処理しています。wl-fft-cursor.bmp - 84 / 163 個のファイルが



フォルダの同期により高速カタログ化が行われ、処理が中断されると、アイテムの一部がカタログ化されないままになることがあります。アイテムを完全にカタログ化するには、一部カタログ化したアイテムを選択し、「**アイテム**」>「**更新**」を選択します。

仮レコードの追加

通常、Portfolio はカタログ化する各デジタルファイルについてアイテム（レコードともいう）を作成します。しかし、存在しないファイル（まだ受信または作成していないもの）について、Portfolio カタログにアイテムを入力したい場合があります。これを「仮レコード」といいます。仮レコードは、カタログに含める予定だが実際にはまだ持っていないファイルの代用と考えてください。

仮レコードは Portfolio カタログ内の他のアイテムとまったく同様に動作します。仮レコードに対するキーワードの割り当て、説明の追加、検索の実行などが可能です。ただ1つ違うのは、仮レコードにはまだ特定のメディアファイルが関連付けられていないということです。将来の任意の時点で、仮レコードをディスク上の実際のファイルに結びつけ、通常の Portfolio カタログアイテムにすることができます。仮レコードに最終的に結び付けるファイルと同じ名前を付けた場合、Portfolio は仮レコードが更新された際に、自動的にファイルを見つけ、カタログ化することができます。

仮レコードを作成するには

1. 「カタログ」から「**仮レコードの作成**」を選択します。
2. 仮レコードに名前を付けます。「ファイル名」フィールドに名前を入力します。可能であれば、これは仮レコードが代用するファイル、つまり最終的に仮レコードを置き換えるファイルの名前にする必要があります。これによって後で行われる更新処理がより容易になります。
3. 場所を指定します（オプション）。「**ディスク上の保存場所を指定**」オプションをチェックして、仮レコードが代用するファイルを最終的に配置する場所を設定します。ファイルの保存場所が不明な場合は、空白にしておくことができます。保存場所を知っている場合は、この設定によって仮レコードの更新がはるかに容易になります。

4. 「OK」をクリックします。新しいアイテムは、カタログ内に「仮レコード」という単語を含むサムネールとともに表示されます。

仮レコードをファイルに結び付けるには

仮レコードをディスク上の実際のファイルに結び付けると、通常の Portfolio カタログアイテムになります。

1. 仮レコードを選択します。
2. 「**アイテム**」>「**更新**」を選択するか、command キーを押しながら U キーを押すか（Mac）、または Ctrl キーを押しながら U キーを押します（Win）。

仮レコードの名前が結び付けるファイルの名前と完全に一致し、検索するために正しいフォルダを指定した場合、「更新」コマンドは自動的にアイテムを対応するファイルに結び付けます。

Portfolio が現在のディレクトリに、仮レコードと同じ名前を持つファイルを認識できない場合、「開く」ダイアログボックスが開き、必要なファイルを特定できます。必要なファイルを選択し、「開く」をクリックします。

カタログ作成オプション

Portfolio にアイテムを追加するとき、どのようにして Portfolio がファイルに関する情報を保存するかを詳細に定める多くのオプションを使用できます。こうしたさまざまなオプションは、「カタログ」メニューから「**カタログ作成オプション**」コマンドを選択することでコントロールできます。デフォルトでは、「**カタログ作成オプション**」ウインドウの「**カタログ作成時にこのダイアログボックスを表示しない**」チェックボックスをオンにして明示的に指定しない限り、ファイルをカタログ化するたびに「**カタログ作成オプション**」ウインドウが開きます。

Portfolio の「カタログ作成オプション」により、最小限の操作で非常に強力なタスクを実行できます。カタログ作成オプションを保存することもできるため、カタログ作成設定をすばやく再利用するのは簡単です。画像のカタログを作成するとき、以下のような処理を行うことができます。

- ・ファイルの名前を変更する
- ・カタログ化される各ファイルについての説明的なテキストを挿入する
- ・キーワードを追加する
- ・各アイテムに関連付けられたカスタムフィールドに入力する
- ・ファイルのある場所から別の場所にコピーまたは移動する

「カタログ作成オプション」ダイアログボックスが最初に開くとき、ダイアログボックスはコンパクトな形式で表示されます。オプションを選択すると、ダイアログボックスは拡張し、使用可能なオプションの完全な範囲を表示します。

「カタログ作成オプション」を変更するには

- ・「カタログ」から「カタログ作成オプション」を選択します。
—または—

Windows では、**Ctrl キーと Shift キーを押しながら D キーを押します (Windows)**。「カタログ作成オプション」ウィンドウが開き、そこでカタログ作成オプションを設定します。



「カタログ作成オプション」プリセットの保存と使用

Portfolio でファイルのカタログを作成する際、実行可能な設定が多数あるため、Portfolio には設定を保存し、後で再利用できる機能が備わっています。

たとえば、レーシングカーに関するプロジェクトがあり、キーワードとして“自動車”および“レース”を追加すると同時に、新しいファイルを特定のプロジェクトディレクトリに移動したいとします。こうしたカタログ作成オプションを保存すると、将来のファイルについて、「ダイアログプリセット」ドロップダウンメニューからプリセットを選択し、「OK」をクリックするだけで済みます。

保存されたカタログ作成オプションは、アイテムを自動的に追加しているときにも使用できます。監視対象のフォルダと連携して用いられると、ファイルはユーザーが操作することなく、自動的に移動、キーワード追加、カタログ化が可能です。詳細については、「Portfolio カatalog のカスタマイズ」の章を参照してください。

カタログ作成オプションを保存するには

1. 「カタログ」から「カタログ作成オプション」を選択します。
2. 選択したカタログ作成オプションを入力します。
3. ダイアログボックス上部の「保存」をクリックし、設定を現在のダイアログプリセットに保存します。

—または—

- 「別名で保存」をクリックし、オプションを新しいダイアログプリセットに保存します。
4. 「OK」をクリックして「カタログ作成オプション」ダイアログボックスを閉じます。

プロパティの設定

Portfolio ではカタログ化するデジタルファイルのそれぞれについて、キーワードと説明を保存できます。また、必要な数だけカスタムフィールドを作成し、ファイルに関する日付、URL、番号、その他の情報を自由に保存できます。カタログ内にカスタムフィールドを設定するには、「Portfolio によるファイルの整理」に関する章を参照してください。

Portfolio の「カタログ作成オプション」ウインドウを使用して、ファイルに対するキーワード、説明、その他のフィールド値の割り当てを、アイテムのカタログ作成を待って行うのではなく、カタログの作成中に実行できます。

カタログ作成中に説明を割り当てるには

この機能を使用して、各ファイルのカタログ作成時に、説明を「説明」フィールドに挿入できます。たとえば、グランドキャニオンの写真のフォルダをカタログ化する場合、カタログの作成中に“グランドキャニオンの写真、2001 年 5 月 14 日撮影”という説明を各ファイルに自動的に割り当てることができます。説明は最大 32,000 文字まで可能です。

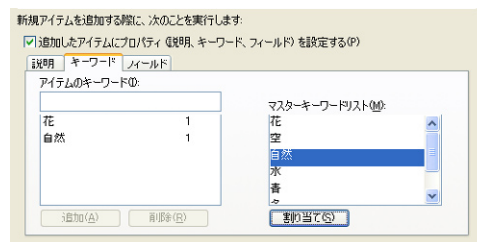


1. 「カタログ作成オプション」ウインドウで、「プロパティの設定」オプションをチェックし、「説明」をクリックします。
2. 「説明」フィールドに説明を入力します。
3. 「OK」をクリックします。
4. 入力した説明はカタログ作成するすべてのアイテムに保存されます。

カタログ作成中にキーワードを割り当てるには

この機能は指定したキーワードを Portfolio でカタログ化する各ファイルに追加します。たとえば、熱帯ビーチの写真を 100 枚カタログ化する場合、カタログ作成と同時にビーチ、海、熱帯、太陽、海岸といったキーワードを割り当て、後でこうしたキーワードを追加し、割り当てる手間を省くことができます。

1. 「カタログ作成オプション」ウインドウで、「プロパティの設定」オプションをチェックし、「キーワード」タブを選択します。



2. カタログ化しようとする各入力アイテムに追加したいキーワードを「キーワード」入力フィールドに入力します。ここに入力したキーワードは、カタログ化するすべてのアイテムに自動的に適用されることに注意してください。また、既にマスターキーワードリストに表示されているキーワードを使用するには、リスト内の単語を選択し、「割り当て」ボタンをクリックします。



「カタログ管理」ダイアログボックスのマスターキーワードリストを編集するには、「カタログ」から「管理」を選択してダイアログボックスを開き、「キーワード」タブを選択してこのカタログに対するマスターキーワードリストを編集します。

3. 「追加」ボタンを押して、キーワードを「キーワード」のリストに追加します。
4. 含めたいすべてのキーワードの挿入が終了したら、「OK」をクリックします。
5. 追加したキーワードがカタログ化するアイテムに適用されます。

カタログ作成中にカスタムフィールド値を割り当てるには

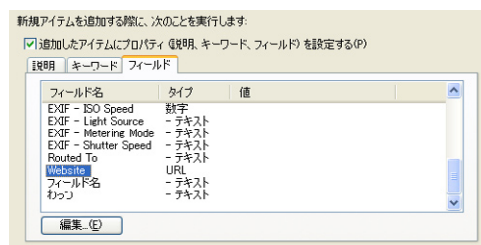
このオプションは、Portfolio 内でファイルをカタログ化するとき、Portfolio で作成した任意のカスタムフィールドに対する値を保存します。たとえば、カタログ化する各デジタル写真を撮影した写真家の名前を含むカスタムフィールドを作成した場合、画像のカタログ作成と同時に、Portfolio が写真家の名前を保存するように設定できます。



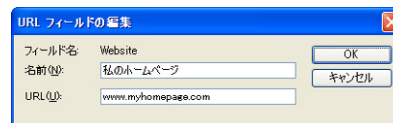
カタログ作成中にフィールド値を割り当てるためには、あらかじめ Portfolio カatalog内にカスタムフィールドを設定しておく必要があります。操作手順については、このガイドの「Portfolio によるファイルの整理」の章を参照してください。

1. 「カタログ作成オプション」ウインドウで、「プロパティの設定」オプションをチェックし、「フィールド」タブを選択します。カタログ内で使用可能なカスタムフィールドのリストが表示されます。ここにはメタデータが含まれます。詳細については、この章の後で説明する「メタデータ設定」を参照してください。

2. 値を割り当てるカスタムフィールドの名前をダブルクリックします。



3. フィールドを編集します。ここに入力した値は、次にカタログ化するすべてのアイテムに自動的に適用されることに注意してください。編集が終了したら、「OK」をクリックします。



4. カatalog作成時に割り当てたいすべてのカスタムフィールド値に対する内容の編集を終えたら、「OK」をクリックします。
5. カatalog化するアイテムのカスタムフィールドに、定義した値が割り当てられます。

カタログ作成中にファイルを移動およびコピーするには

Portfolio はファイルをカタログ化するときにコピーまたは移動して、ユーザーが必要とする適切な場所に配置することができます。これは、画像を CD、デジタルカメラ、またはメモリカードから取得し、Portfolio が元の CD またはストレージディスクではなく、システムまたはネットワーク上のフォルダに保存されているファイルの新規コピーにリンクするようにカタログ作成する場合に便利です。はじめに手動でファイルをコピーしてからカタログ作成する代わりに、Portfolio は両方のタスクを処理することができます。つまり、ファイルのコピーとカタログ作成を一つの操作で行います。

移動とコピー

カタログ作成の際、Portfolio はオリジナルファイルの移動またはコピーのどちらかを行うことができます。両者の違いを理解することは重要です。ファイルをコピーすると、新しい場所にコピーが作成され、オリジナルファイルはそのままです。ファイルを移動すると、新しい場所にファイルのコピーが配置され、元の場所からは削除されます。

カタログ作成時に Portfolio がファイルを移動またはコピーするには

1. 「ファイルのコピーまたは移動」オプションを選択します。
2. 適切なラジオボタンをクリックして、コピーまたは移動するファイルを選択します。ファイルをコピーすると新しい場所にコピーが作成され、ファイルを移動すると新しい場所にファイルのコピーが作成されて、元の場所からは削除されることに注意してください。
3. 新しいファイルの宛先を設定します。参照ボタン (Win) またはフォルダアイコン (Mac) をクリックし、Portfolio がカタログ化されたファイルを配置する場所を選択します。
4. 「OK」をクリックします。Portfolio は、カタログ化するファイルを指定された場所に移動またはコピーします。



カタログ作成中にファイルの名前を変更するには

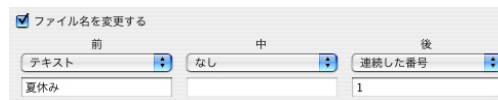
Portfolio はファイルをカタログ化する際に名前を変更することができ、各ファイルを個別に名前変更する手間を省きます。これはデジタルカメラから画像をダウンロードする場合に特に便利です。ファイルはカメラのメモリーカードに保存されるので、PIC000045.JPG や PIC000046.JPG といった属名が付いていることがあります。Portfolio を使用すると、そうした名前を“バミューダの休日 01、バミューダの休日 02、など”と説明的な名前に自動的に置き換えることができます。

保存されたカタログ作成オプションにより、Portfolio は新規ファイルの番号付けを終了した場所も記憶しています。したがって、ビーチの写真のセットを分割し、最後のファイルに“バミューダの休日 04”という名前が付けられた場合、これらのオプションでカタログ化された次のファイルの名前は“バミューダの休日 05”となります。

もちろん、最終的に個々のファイルにさらに具体的な名前を付けることをお勧めします。Portfolio は、画像のカタログ作成後にこれを行うための簡単な方法をいくつか用意しています。詳細については、「Portfolio によるファイルの管理」の章を参照してください。

カタログ作成中に Portfolio がファイルの名前を変更するには

1. 「ファイル名を変更する」オプションを選択します。



2. 3つのドロップダウンメニューを使用して、名前付けの方式を選択します。使用可能な名前付けのオプションは以下のとおりです。

「テキスト」。最大 31 文字の長さで説明的なテキスト文字列を入力します。

「整数」。任意の番号を入力します。複数のファイルをカタログ化する場合、Portfolio は各ファイルの名前を付けるときに番号を 1 ずつ増やします。たとえば、番号 001 を入力し、3つの画像をカタログ化すると、それらの名前には 001、002、および 003 という番号が含まれます。

「オリジナルファイル名」。新しい名前付け方式にオリジナルファイル名を含めます。

「なし」。ファイルに名前変更の方式を適用しません。

こうしたオプションを任意の順序と組み合わせで適用し、新しい名前付け方式の前、中、後を構成することができます。

3. 必要な名前付け方式の入力が完了したら、「OK」をクリックしてカタログ作成オプションを適用します。カタログ化する次のファイルは、この方式に従って自動的に名前が変更されます。



次回、アイテムをカタログ化するときに、同じ名前と番号の変更処理を行わない場合は、この設定を変更するのを忘れないでください。

「カタログ作成オプション」ウインドウを隠す

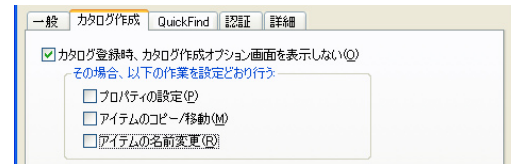
デフォルトで、Portfolio は新しいファイル、フォルダ、またはディスクをカタログ化するたびに「カタログ作成オプション」ウインドウを表示します。これによって、アイテムのカタログ作成を行う前にオプションの変更が可能です。ただし、オプションが正しく設定されていることがわかっていて、確認する必要がない場合、「カタログ作成オプション」ウインドウの下部にある「カタログ作成時にこのダイアログボックスを表示しない」オプションをチェックすることで、このウイン

ドウを隠しておくことができます。これにより、ダイアログボックスで中断されずにファイルをカタログ化できます。

「カタログ作成オプション」を隠す状態にした後で、変更のために再度表示する必要がある場合は、新しいアイテムのカタログを作成する前に「カタログ」から「カタログ作成オプション」を選択し、「カタログ作成時にこのダイアログボックスを表示しない」オプションをオフにするだけです。

「カタログ作成オプション」の環境設定

「環境設定」ダイアログボックスの「カタログ作成」タブで、「カタログ作成オプションのプロンプトの非表示」チェックボックスをオンにすることで、いつでも「カタログ作成オプション」ウインドウを隠しておくことができます。Windows の場合は、「編集」から「環境設定」を選択して、このダイアログボックスを開きます。Mac の場合は、「Portfolio」から「環境設定」を選択します。



「カタログ設定」タブの「その場合、以下の作業を設定どおり行う」セクションにある3つのオプションにより、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスが隠れたままになっている場合、どのカタログ作成オプションを実行し、どのカタログ作成オプションを無視するかを指定できます。

カタログ作成時に誤ってファイルの移動または名前変更を行わないように、これらのオプションをオフにすることもできます。たとえば、「アイテムの名前変更」オプションをオフにすると、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスを表示して名前を変更する方法を設定しない限り、Portfolio はカタログの作成時にファイルの名前を変更しません。

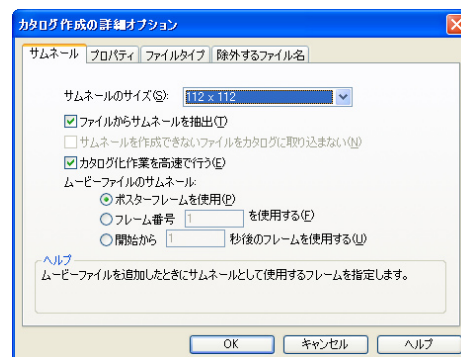
「カタログ作成時に発生したエラー」。このオプションは、ファイルのカタログ化を行おうとしたときに発生する問題を Portfolio がどのように処理するかを指定します。カタログ作成プロセス中に、ファイルが壊れていてカタログ化できないなどの問題に対して、Portfolio がアラートを出力するようにしたい場合は、「**カタログ作成時のエラーの報告**」オプションをオンにします。2 番目のオプションである「**カタログ作成レポートをファイルに記録する**」はアプリケーションと同じディレクトリにテキストファイルを作成し、すべてのカタログ作成の活動ログを保存します。

「**フォルダ同期**」。このカタログ作成オプションの設定は、Portfolio がカタログとハードディスクの内容に違いを検出した場合に「**フォルダ同期**」ダイアログボックスを表示するかどうかを制御します。詳細は、本ユーザーガイドの「**フォルダ同期**」を参照してください。

カタログ作成の詳細オプション

Portfolio がファイルのカタログを作成するプロセスをより詳細にコントロールしたい場合は、「**カタログ作成オプション**」ダイアログボックスの「**詳細**」ボタンをクリックします。これにより、「**カタログ作成の詳細オプション**」ダイアログボックスが開きます。「**カタログ**」から「**カタログ作成の詳細オプション**」を選択して、直接このウィンドウに移動することもできます。このウィンドウ内の 5 つのタブでは、新規アイテムのカタログ作成時に以下のオプションをコントロールします。

- サムネール画像のサイズ
- Portfolio がカタログ作成時にファイルから抽出する情報のタイプ
- ファイル名およびパスに基づくキーワードの作成
- Portfolio に対する TIF、IPTC、および EXIF データの自動インポート
- カタログ作成時に Portfolio が自動的に含めたり除外したりするファイルタイプ



「サムネール」オプション

このタブ上のオプションは、Portfolio カタログ内で使用される画像のサムネールを Portfolio がどのように作成または抽出するかを定めます。

サムネールのサイズ この設定は Portfolio によって作成および保存されるサムネールのサイズ（ピクセル）を定めます。112 × 112 ピクセルまたは 256 × 256 ピクセルのいずれかになります。カタログ内で 256 × 256 サムネールを表示する場合、サムネールサイズをより高い設定にする必要があります。カタログ表示に必要なサムネールが 112 × 112、64 × 64、32 × 32 ピクセルのみの場合は、この設定を 112 のままにしておくことができます。設定を低くすると、カタログのサイズが小さくなります。

ファイルからサムネールを抽出 グラフィックスソフトウェアとページレイアウトソフトウェアの多くは、自動的にサムネールサイズのプレビュー画像を作成し、それらを保存されるファイルに埋め込みます。たとえば、JPEG や TIFF ファイルには通常サムネール画像が埋め込まれています。「サムネールの抽出」チェックボックスをオンにすることで、カタログ作成プロセス中に Portfolio が独自のサムネールを生成するのではなく、こうした埋め込まれたサムネールを抽出するようになります。サムネール生成の利点は高い品質とカタログ内の一貫性ですが、カタログ生成プロセスは著しく遅く

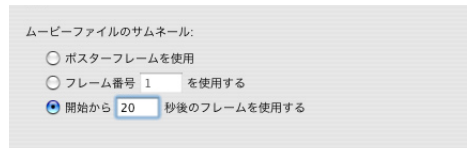
なります。サムネールの抽出オプションはデフォルトでオンになります。

サムネールの抽出も生成もできないファイルについて、Portfolio がカタログ作成しないようにするには、「サムネールを作成できないファイルをカタログに作成しない」オプションをチェックします。

カタログ化作業を高速で行う この機能を使うと、カタログにファイルを追加している間でもファイルを表示できます。詳細は、19 ページを参照してください。

ムービーファイルのサムネール Portfolio でデジタルムービーファイルをカタログ化する場合、いくつかの補足的なサムネールオプションがあります。

- ・「ポスターフレームを使用」は、カタログ化されるムービーの最初のフレームのサムネールを表示します。



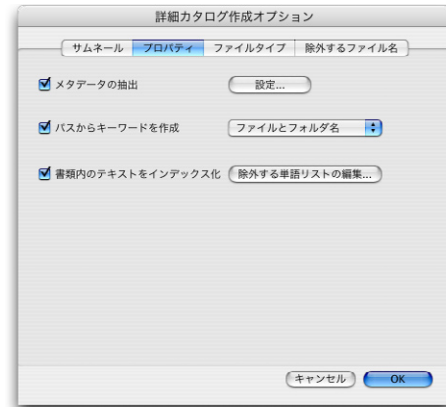
- ・「指定したフレーム番号を使用」オプションにより、サムネールの生成に使用される特定のフレームを選択できます。ビデオクリップ開始後、指定された秒数が経過した時点で表示されるフレームを選択できます。

「プロパティ」オプション

「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスの「プロパティ」タブは、カタログ作成時に Portfolio がファイルから抽出する情報の種類をコントロールするいくつかのオプションを含みます。

カタログ作成中のメタデータの抽出

デジタルカメラ、ソフトウェア、その他のデバイスの多くは、ファイルを作成するときに固有の情報をファイルに埋め込みます。たとえば、デジタルカメラは通常、しほり、シャッター速度、撮影日などの EXIF データを埋め込みます。Portfolio は埋め込まれている EXIF、XMP、IPTC、および TIFF メタデータを自動的に検出および抽出し、カタログに追加することができるため、情報を手動で再入力する手間が省けます。Portfolio は JPEG、TIFF、PixelLive (VFZ)、および PixelSafe (PFZ) ファイルからメタデータを抽出できます。



デフォルトで、Portfolio は埋め込まれたメタデータを広範囲に抽出できますが、メタデータフィールドをさらに拡張し、Portfolio が情報を保存するカタログ内の場所を選択することができます。「設定」ボタンをクリックし、「メタデータ設定」ダイアログボックスを開きます。

メタデータ設定

「メタデータ設定」ダイアログボックスで、抽出されるメタデータフィールドを定義し、Portfolio によって情報が保存されるカタログ内の正確な場所をマッピングできます。

Portfolio がメタデータをマッピングする方法をコントロールする 2 つの重要なリストがあります。

- **メタデータリストは、Portfolio が受け入れることのできるすべてのメタデータフィールドのリストです。**
- **「カタログのフィールド」リストは、Portfolio がカタログ内でメタデータを保存できるすべてのデフォルトおよびカスタムフィールドのリストです。**

抽出したい各メタデータについて、ダイアログボックスで適切な「カタログのフィールド」をマッピングする必要があります。デフォルトで、Portfolio は最も一般的なメタデータを抽出し、カタログ内に保存します。

埋め込まれたメタデータを元の JPEG、TIFF、PixelLive および PixelSafe ファイルに戻すこともできます。ダイアログボックスの「データの書き込み」タブで、任意の Portfolio カatalog のフィールドをオリジナルファイル内の XMP または IPTC メタデータフィールドにマッピングできます。



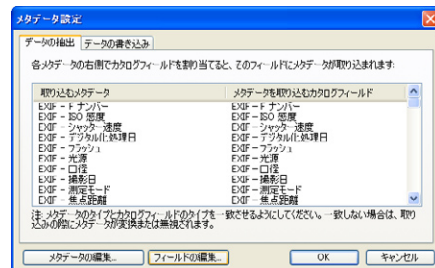
Portfolio 7 カタログでカスタムメタデータフィールドを作成した場合、マッピングの一部を、変換された Portfolio 8 カタログで再作成しなければならないことがあります。

Portfolio が特定のメタデータを保存する場所を変更するには

メタデータを異なるカタログのフィールドに保存する場合は、以下の手順に従います。

1. 「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスの「プロパティ」タブで、「設定」ボタンをクリックします。
—または—
「カタログ」から「メタデータの設定」を選択します。

2. 「メタデータ設定」ダイアログボックスの「データの抽出」タブで、更新する特定の「取り込むメタデータ」フィールドをクリックしてハイライト表示します。



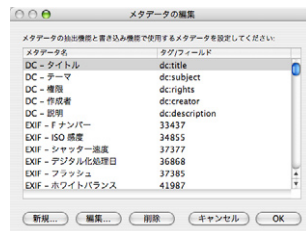
3. ダイアログボックスの右側で、対応する変更対象の「カタログのフィールド」をクリックし、リストからカタログのフィールドを選択します。

メタデータリストにメタデータフィールドを追加するには

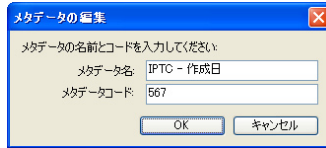


最もよく使われるメタデータフィールドは、既にメタデータリスト内に定義されています。ほとんどのユーザーは現在のフィールドを使用することができ、リストに新しいメタデータフィールドを追加する必要はありません。

1. 「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスの「プロパティ」タブで、「設定」ボタンをクリックします。
—または—
「カタログ」から「メタデータの設定」を選択します。
2. 「メタデータ設定」ダイアログボックスで、「メタデータの編集」ボタンをクリックします。
3. 「メタデータの編集」ダイアログボックスで、「新規」をクリックします。



4. 新しい「メタデータ名」と「メタデータコード」を入力します。「メタデータ名」はデータを適切に説明する任意のテキストを指定できますが、「メタデータコード」はファイル内のコードに正確に一致する必要があります。このコードは通常、ファイルを作成したデバイスのメーカーから取得できます。こうしたコードの多くはインターネット上ですぐに見つけることもできます。



IPTC コードは Portfolio が認識できるように変換する必要があります。IPTC コードがコロンで区切られた 2 つの数から構成されている場合、(最初の数 × 256) + 2 番目の数 = Portfolio メタデータコードという式を用いて入力するコードを取得します。

5. 「OK」をクリックして、変更をメタデータリストに保存します。

一般的でないメタデータの抽出例

追跡したいメタデータを含むファイルがあるが、現在 Portfolio では追跡されていないとします。これを行うには、はじめに新しいメタデータをメタデータリストに追加する必要があります。前に説明した手順を用いて、新しいデータアイテムをリストに追加します。

その後、Portfolio カタログ内に新しいカスタムフィールドを作成し、新しいメタデータを保存する必要があります。新しいカスタムフィールドの作成に関する詳細については、「Portfolio によるファイルの整理」の章を参照してください。

新しいメタデータフィールドを定義し、新しいカスタムフィールドを作成した後、新しいメタデータフィールドをカスタムフィールドにマッピングする必要があります。「メタデータ設定」ダイアログボックスを開き、新しいメタデータフィールドをクリックしてハイライト表示し、右側のリストから新しいカスタムフィールドを選択します。

次回、このメタデータタイプを含むファイルをカタログ化または更新する際、新しいデータが抽出されます。

メタデータの抽出

ファイルのカタログ作成の際にメタデータ抽出を有効にしていなかった場合、後でメタデータを抽出できます。

カタログ化されたファイルからメタデータを抽出するには

1. いずれかのギャラリーで処理対象のファイルをクリックしてハイライト表示します。
2. 「アイテム」から「プロパティの抽出」を選択します。

これにより、「メタデータ設定」ダイアログボックスでマッピングされたメタデータが適切な Portfolio フィールドに抽出されます。

メタデータの埋め込み

Portfolio は、メタデータおよびその他の情報をファイルに埋め戻すこともできます。このため、正しくキーワードおよびタグ設定されたファイルに対する作業を失うことがありません。



Portfolio は、メタデータを JPEG、TIFF、PixelLive (VFZ)、および PixelSafe (PFZ) ファイルにのみ埋め込むことができます。メタデータをその他のファイルタイプに埋め込もうとすると、Portfolio はファイルタイプがサポートされていない、というメッセージを表示します。

メタデータを埋め込むには

1. いずれかのギャラリーで処理対象のファイルをクリックしてハイライト表示します。
2. 「アイテム」>「プロパティの書き込み」を選択します。

これにより、「メタデータ設定」ダイアログボックスでマッピングされたメタデータが、オリジナルファイル内の適切な場所に埋め込まれます。

ドキュメントテキストのインデックス化

「書類内のテキストをインデックス化」オプションをオンにすると、カタログの作成時に、Portfolio は Adobe PDF (Portable Document Format) ファイルのほか、プレーンテキストの文書をインデックス化します（英単語のみ）。カタログ化される文書の各英単語はカタログインデックスに保存されるため、高速な検索と取得が可能になります。



テキストのインデックス化をオンにすると、PDF ファイルのカタログ作成が遅くなります。Portfolio を使用して文書を検索する際、PDF ファイル内でのテキスト検索が重要な意味を持つ場合に限り、このオプションをオンすることを推奨します。

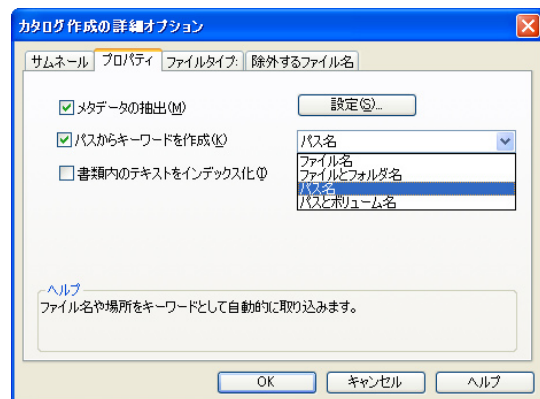
「除外」。Portfolio のテキストインデックス化処理から単語を除外するオプションがあります。インデックス化の処理速度を向上させ、Portfolio カatalogのサイズを減らすために、単語を除外することを推奨します。

テキストインデックス化から単語を除外するには

1. 「カタログ」>「カタログ作成の詳細オプション」を選択します。
2. 「除外する単語リストの編集」をクリックします。
3. エントリフィールドに、インデックス化の際に Portfolio が無視する単語を入力します。
4. 「追加」をクリックします。
5. ステップ3および4を繰り返し、必要な数の単語を除外リストに追加します。
6. 「OK」をクリックします。

パスからのキーワードの作成

これは何時間もの入力作業を節約できる Portfolio の強力な重要な機能です。「パスからキーワードの作成」オプションをオンにすることで、Portfolio はディスク上の各ファイルの名前と場所に基づき、カタログ化する各ファイルにキーワードを追加できます。Portfolio はこれを行うために、カタログ化される各ファイルのフルパスを調べ、そのパスのすべてまたは一部の単語を抽出してキーワードを作成します。ドロップダウンメニューは、キーワードを作成するために使用されるパスの範囲を定めます。



この機能のしくみを理解するために、コンピュータ上で次のパスを持つファイルのカタログ化を考えます。

Hard Drive: Current Projects: Newsletter:
Travel Photos: Bermuda: SUNSET.JPG

以下に示すのは、使用可能なドロップダウンメニューの各オプションと、このファイルをカタログ化するとき生成されるキーワードのリストです。

メニューオプション	生成されるキーワード
ファイル名	SUNSET.JPG
ファイルとフォルダ名	SUNSET.JPG Bermuda
パス名	SUNSET.JPG Bermuda Travel Photos Newsletter Current Projects
パスとボリューム名	SUNSET.JPG Bermuda Travel Photos Newsletter Current Projects Hard Drive

このように、フォルダおよびパス名からキーワードを作成することで、多くの意味のあるキーワードを入力することなく、カタログ内のアイテムに簡単に追加することができます。上の例では、Portfolio 内の SUNSET.JPG ピクチャを Sunset、Bermuda、または Travel といった単語を入力するだけで簡単に検索できます。なぜなら、これらはすべてキーワードとして自動的に入力されているからです。

ファイルタイプ

Portfolio は事実上、デジタルファイルのすべてのタイプをカタログ化することができ、デフォルトですべてのファイルタイプについてカタログ作成するように設定されます。ただし、Portfolio が特定のファイルタイプ（JPEG または TIFF ファイルなど）のみをカタログ化する、または特定のファイルタ

イプを無視する（したがって、カタログ作成しない）ようにしたい場合、そうした制限を「ファイルタイプ」パネルで設定できます。

たとえば、Portfolio が発見した JPEG および TIFF ファイルを除くすべてのファイルを無視するように指定し、ハードドライブ上のすべてのデジタル写真をカタログ化したい場合があります。また、あるフォルダ内のフォントファイルを除くすべてのファイルをカタログ化したい場合があります。こうした例外は「ファイルタイプ」パネルで指定できます。

特定のファイルタイプをカタログ作成から除外するには

1. 「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスの「ファイルタイプ」タブで、「次のファイルタイプのみをカタログ化」を選択します。
2. 「ファイルタイプ」リストで、Portfolio がカタログ化しないようにする各ファイルタイプの横のチェックマークを外します。

含める / 除外するファイルのリストにファイルタイプを追加するには



リストにファイルタイプを追加する必要があるのは、リストに表示されないタイプを除外する場合、またはリストに表示されないタイプを除外して他のタイプを含める場合だけです。

1. 「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスの「ファイルタイプ」パネルで、「追加」ボタンをクリックします。
2. ファイルタイプの情報を入力するか、「タイプ選択」をクリックして同じタイプのファイルを指定します。Portfolio はこのファイルタイプのパラメータをフィールドにコピーします。
3. 「OK」をクリックして、このファイルタイプをリストに追加します。

ファイルタイプの環境設定

「カタログ作成の詳細オプション」で「ファイルタイプ」を定義するとき、2つのチェックボックスがあり、ファイルタイプ定義をカタログそのものに保存するか、コンピュータ上のユーザー環境設定として保存するかについて、いずれか一方または両方を選択できます。

- ・「環境設定に保存」(Windows の場合、“ローカル”に保存): この環境設定の場合、特定のファイルタイプを含めたり除外したりする設定は、アイテムをカタログに追加することを選択する他の Portfolio ユーザーに影響しません。
- ・「カタログ内に保存」: このカタログのすべてのユーザーは、カタログ作成時にこのファイルタイプを含めたり除外したりします。

除外するファイル名

「カタログ作成の詳細オプション」の「除外するファイル名」タブを使用して、明示的なファイル名またはパターンのセットを指定する“除外”リストを作成することにより、特定のファイル名を持つファイルを Portfolio が無視することを強制できます。

除外リストにファイル名を追加するには

1. 「除外するファイル名」タブで、ドロップダウンメニューからファイル名検索パラメータを選択します。「で始まる」、「を含む」、「で終わる」のいずれかです。
2. カタログ作成から除外したいファイル名または名前の一部を入力します。大文字と小文字は区別されません。
3. 「追加」をクリックします。

Portfolio は各パス名とパスの各セグメントについて、入力したパラメータのいずれかと一致するテキスト文字列を検索します。たとえば、「で始まる」: DUP および 「で終わる」: 97 と入力すると、“Duplicate_PH050”、“Report_97”、“C:\¥Duplicates¥Image.jpg”を除外します。

画面プレビューの作成

Portfolio ではオリジナルファイルを直接開き、Portfolio 内に表示することにより、カタログを作成するたびにプレビューすることができます。ただし、ファイルのカタログを作成する際、画面プレビューを作成することもできます。これにより、オリジナルファイルがなくても、Portfolio 内で画像をプレビューできます。

初めてカタログを作成するとき、新規カタログの画面プレビューをオンにするかどうかを選択するよう要求されます。画面プレビューをオンにすると、Portfolio はカタログ内の指定された場所に各アイテムの独自のコピーを、オリジナルファイルとは別に JPEG 画像として保存します。画面プレビューの使用には以下の2つの利点があります。

- ・ Portfolio 内でより高速にアイテムをプレビューできます。なぜなら、Portfolio ははじめにファイルをレンダリングする必要がないからです。単純にプレビュー画像を開きます。
- ・ オフラインのアイテムをプレビューできます。たとえば、画面プレビューを作成した場合、CD がマウントされていなくても、CD または DVD からカタログ化されたアイテムのフルサイズのプレビューを表示できます。

もちろん、画面プレビューを使用するとカタログ作成プロセスが遅くなる場合があります (Portfolio はカタログ化された各画像についてプレビューファイルを作成するため)、カタログ化された各アイテムのファイルのプレビューにより多くのディスク容量を必要とします。



画面プレビューの作成は Portfolio の管理機能です。この機能を有効化するには管理者レベルのアクセスが必要です。

画面プレビューを作成するには

1. 「カタログ」から「設定」を選択し、「カタログ管理」ダイアログボックスで「プレビュー」タブを選択します。
2. 「低解像度プレビューの生成」オプションをチェックします。
3. フォルダアイコン (Mac) または「参照」ボタン (Windows) をクリックし、プレビュー画像の場所を選択します。これは、Portfolio が各画面プレビューファイルを、カタログ化する各アイテムに1つずつ保存する場所です。
4. プレビュー画像の最大サイズ (ピクセル) を設定します。プレビュー画像の長辺の最大サイズは2000ピクセルです。
5. 「OK」をクリックします。Portfolio はカタログ化する各新規ファイルについて、JPEG プレビューファイルを作成します。

既にカタログ化されているファイルの画面プレビューの生成

Portfolio では、以下の手順を用いて、カタログ化された後のファイルについても画面プレビューを生成できます。

1. 前述の手順に従って、「低解像度プレビューの生成」オプションをオンにします。
2. 画面プレビューを作成するカタログ内のアイテムを選択します。
3. 「アイテム」から「サムネールの再作成」を選択します。



画面プレビューは、「低解像度プレビューの生成」がオンになっていて、Portfolio 内の既存のアイテムを更新したときも生成されます。

Portfolio の環境設定

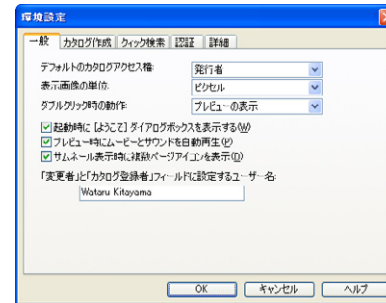
Portfolio の「環境設定」ダイアログボックスに含まれるユーザー環境設定のほとんどは、関連する特定の機能とともにこのユーザーガイドの別の場所で説明しています。ただし、比較的一般的な性質を持った環境設定の一部はこのセクションで簡単に説明しています。

「Portfolio 環境設定」ダイアログボックスを開くには

- ・ Windows の場合は、「編集」>「環境設定」を選択します。
- ・ Mac の場合は、「Portfolio」>「環境設定」を選択します。

環境設定 — 一般

このオプションは、主に、Portfolio が行うサムネールの表示、プレビューの表示、および現在のユーザー名に関連しています。



デフォルトのアクセスモード

Portfolio のユーザーコピーが、この章で前述した4つのアクセスレベル（閲覧者、編集者、発行者、管理者）のどれを使用してカタログを開くかを設定します。

画像単位

画像寸法を表示するための測定単位を選択します。これはギャラリーおよびプレビューウインドウの表示に適用されます。

アイテムをダブルクリック

このオプションにより、サムネールをダブルクリックしたときの Portfolio の動作を定義できます。アイテムの「アイテムのプロパティ」ウインドウを開くか、アイテムのプレビューを開くか、編集（ファイルの“親”アプリケーションを使用）のためにオリジナルのアイテムを開くことができます。

起動時に「カタログ選択」または「開く」ダイアログボックスを表示

Windows の場合、このオプションにより、Portfolio の起動のたびに、既存のカタログを開くか新規カタログを作成することができる「ようこそ」ダイアログボックスが表示されなくなります。Mac の場合、このオプションにより、Portfolio の起動のたびに、「開く」ダイアログボックスの表示が自動的にオンおよびオフに切り替わります。

プレビュー時にムービーおよびサウンドファイルを自動再生

選択すると、プレビューウインドウでムービーおよびサウンドファイルが自動再生されます。「再生」ボタンをクリックする必要はありません。

サムネールに複数ページアイコンを表示

選択すると、複数のページを含む PDF、PowerPoint®、および TIFF ファイルの右下隅に小さな複数ページアイコンが追加されます。

ユーザー名

このフィールドに入力するユーザー名は、ファイルのカタログ化および変更時に Portfolio によって追跡されます。デフォルトでは、Portfolio をインストールするユーザーのユーザー名がこのフィールドに入力されます。

カタログ作成

この環境設定の詳細については、この章の「カタログ作成オプションの環境設定」で説明しています。

QuickFind の環境設定

QuickFind の環境設定については、「Portfolio によるファイルの検索」の章の「QuickFind のカスタマイズ」で説明しています。

認証

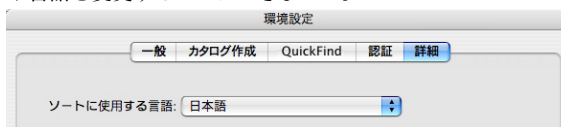
このタブで、PixelLive、PixelSafe および MrSID ファイルへのアクセス制御ができます。詳細については、「Portfolio によるファイルの管理」の章を参照してください。

詳細

通常、詳細設定を変更する必要はありません。デフォルトの設定は大多数の Portfolio ユーザーにとって適切です。

ソートに使用する言語

ソートに使用する言語は、カタログ内で使用されるテーブルの言語とソート順を設定します。この設定は、カタログを作成する前に選択してください。カタログを作成した後で、ソート言語を変更することはできません。



標準の Portfolio カタログではソート言語が作成時にロックされますが、SQL データベースに保存されるカタログのソート言語は、標準の SQL の方法を使って必要に応じて変更できます。

Portfolio カタログのカスタマイズ

Portfolio の強みの1つは、ファイルについて異なる多数のビューを表示できる点です。カタログ化された画像の小さなサムネイル、フルサイズのプレビュー、または簡単なテキストベースのリストを表示できます。多数のファイル詳細情報を表示するビューや、単に基本情報を表示するビューを作成できます。ギャラリーのフォント、背景色、その他の属性を変更して、カタログに必要な外観を設定できます。

この章では、Portfolio の環境をカスタマイズして、ニーズに完全に合ったカタログおよびギャラリーを作成する方法について説明します。



Portfolio の環境

Portfolio の環境

Portfolio は、ソフトウェアの主要なコンポーネントを設定およびコントロールするための多くのオプションを含む、非常に柔軟な作業環境を提供します。以下に、Portfolio メインウィンドウの各部分を説明します。

ツールバー

Portfolio の主な機能のいくつかに対応するボタンを含みます。ツールバーに表示されるボタンをカスタマイズできます。「スライドショー」、「電子メールで送信」、「CD-R に書き込む」、「Web ページの作成」などのボタンがあります。ツールバーにボタンを含めて、Portfolio の主要な 3 つのビューであるサムネール表示、アイテム表示、およびリスト表示を切り替えることもできます。



ツールバーをカスタマイズするには

- ・「表示」から「ツールバーの変更」を選択します。

QuickFind

ツールバーの最も強力な機能の 1 つは「QuickFind」フィールドです。「QuickFind」フィールドにテキスト文字列を入力して Return キーを押すだけで、検索可能な任意のフィールドの情報に基づき、現在のギャラリー内のアイテムを検索できます。

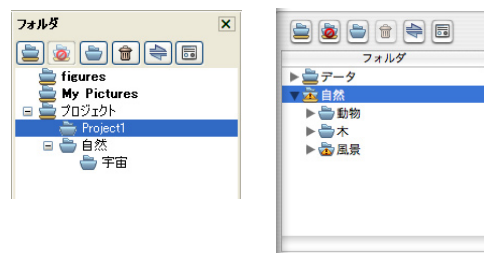


「QuickFind」フィールドの設定を変更するには

- ・「編集」から「環境設定」を選択します。

フォルダパレット

フォルダパレットでは、Portfolio 内のコンピュータシステムまたはネットワークから実際の階層フォルダを表示できます。Finder (Macintosh) またはエクスプローラ (Windows) に切り替えることなく、システムにおけるフォルダの作成、移動、および削除と、フォルダに対するファイルの移動を行うことができます。Macintosh の場合、フォルダパレットはメインウィンドウの横のパネル内に表示されます。Windows の場合、フォルダパレットはメインウィンドウ内にあります。



フォルダパレットでは、コンピュータまたはネットワーク上の任意のフォルダの内容を Portfolio カタログと同期させることも簡単です。フォルダパレットとフォルダ同期に関する詳細については、このガイドの「フォルダ同期」のセクションを参照してください。

ステータスバー

Portfolio の Windows バージョンでは、「表示」メニューの「ステータスバー」コマンドをアクティブまたは非アクティブにすることにより、ギャラリー下部の灰色のステータスバーの表示 / 非表示を切り替えることができます。Macintosh の場合は、ギャラリーの下端にステータスバーは表示されず、「表示」メニュー内に対応するコマンドはありません。

パレット

Portfolio カタログの作業をするとき、Portfolio はフローティングパレットのシステムを使用し、情報の表示およびアクセスを行います。こうしたパレットのそれぞれは、「ウインドウ」メニューの対応する「表示」および「隠す」コマンドを使用することで、表示 / 非表示を切り替えることができます。

Windows の場合、パレットの上部をクリックして、別のパレットの上にドラッグアンドドロップすることで、複数のパレットを任意に組み合わせてドッキングし、単一のタブ化されたパレットを形成できます。

使用可能なパレット（および対応する機能）は以下のとおりです。

カタログ

現在開いているすべてのカタログを一覧表示し、簡単に切り替えることができます。このパレットでは、複数のカタログで「検索」を実行したときに、検索対象となるカタログを指定することもできます。



カテゴリー

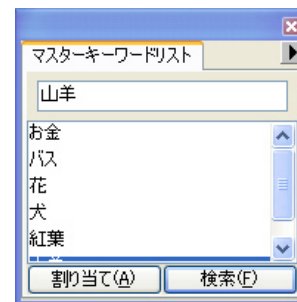
このパレットでは、ファイルを階層的なカテゴリーとサブカテゴリーに整理できます。カテゴリーパレットに表示されるフォルダはディスク上の“実際”のフォルダではなく、アイテムのグループを視覚的に整理する Portfolio 内の仮想的なフォルダです。



Portfolio を使用して、画像をハードディスクまたはネットワーク上の実際のフォルダにグループ化する場合は、カテゴリーの代わりにフォルダ同期を使用してください。

マスターキーワード

Portfolio の管理アクセス権を持っている場合、カタログ内のアイテムの整理、グループ化、およびカテゴライズに使用可能なマスターキーワードのリストを設定できます。



マスターキーワードを定義するには

1. 「カタログ」から「アクセスレベル」を選択します。
2. 管理パスワードを使用してログインします。
3. 「カタログ」から「設定」を選択します。
4. 「キーワード」タブで「追加」をクリックし、新しいキーワードをマスターキーワードリストに追加します。

マスターキーワードの設定終了後、このパレットを使用してアイテムに割り当てたり、パレットの「検索」コマンドを使用してキーワード化されたアイテムを検索したりすることができます。

保存済みの検索方法

「検索」コマンドを使用してファイルを検索するとき、将来使用するために検索のパラメータを保存できます。「保存済みの検索方法」パレットでは、保存済みの検索方法をダブルクリックしてすばやく実行できます。



カスタムフィールド

Portfolio カタログの管理者として、定義済みの値を含むカスタムフィールドを定義した場合、これらの各値のリストをパレットとして開き、アイテムに値を割り当てたり、値を含むアイテムを検索したりすることができます。

「スクリプト」メニュー

Portfolio は、Macintosh の AppleScript や、OLE Automation にアクセスするために使用可能な Visual Basic、Visual C++、Java、その他のスクリプティング言語による多彩なスクリプト処理サポートを提供します。

Portfolio の「スクリプト」メニューは、上記のタイプの有効なスクリプトが Portfolio アプリケーションと同じフォルダ内の「スクリプト」というフォルダに配置されている場合にのみ表示されます。「スクリプト」フォルダ内にあるスクリプトとアプリケーションは、新しい「スクリプト」メニューに追加され、通常のメニューコマンドとして使用できます。「スクリプト」メニューは、スクリプトが「スクリプト」フォルダに追加されるまで表示されません。

「スクリプト」フォルダ内の Macintosh スクリプトファイルは AppleScript ファイルでなければなりません。Windows スクリプトファイルはコンパイル済みの EXE または CMD ファイルでなければ、「スクリプト」メニューに含まれません。

自動カタログ化

Portfolio にアイテムを手動で追加する代わりに、Portfolio が指定された間隔でチェックする“監視”フォルダまたはディレクトリを指定することにより、カタログ作成処理を自動化できます。これらのフォルダにドロップされた新規ファイルは自動的にカタログに追加され、変更されたファイルは更新されます。

自動カタログ化の概要

アイテムが指定された“監視”フォルダに追加されると、現在のカタログ作成オプション（「カタログ」から「カタログ作成オプション」を選択）を使用して自動的にカタログ化されます。新規または変更されたアイテムのみがカタログ化されます。異なる自動化を必要な数だけ作成し、フォルダが段階的に増量しながらチェックされるチェック頻度を5秒から1日までの範囲で指定できます。

「自動カタログ化」ダイアログボックス（「**カタログ**」から「**自動カタログ化**」を選択）が開くと、Portfolio は監視フォルダへのパスを検証します。問題が発生した場合、自動化の横にアラートアイコンが表示されます。パスが修正されるか変更されるまで、自動化を有効にできません。

「自動カタログ化」をオンにして実際に Portfolio を使用する場合、カタログ化処理の際に作業を中断されたくない場合があります。「バックグラウンド処理」オプションをチェックすると、カタログ作成プロセスはバックグラウンドで発生するため、ファイルのカタログ化は Portfolio の他の作業を継続しながら行われます。

フォルダ同期と自動カタログ化

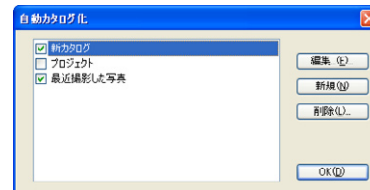
自動カタログ化とフォルダ同期機能を混同しないでください。両者とも Portfolio カタログとコンピュータまたはネットワーク上のフォルダおよびファイルとの相互作用に関連しますが、提供される機能は異なります。

自動カタログ化は、単にカタログ化プロセスを自動化するだけです。フォルダを監視し、新規ファイルがフォルダに追加されると、ユーザーが指定し、保存したカタログ作成オプションを使用してファイルをカタログ化します。自動カタログ化は一方方向の処理です。新規アイテムをカタログに追加しますが、削除することはありません。

フォルダ同期もディスク上のフォルダを“監視”しますが、目的はフォルダを Portfolio 内に表示し、そこに含まれるファイルを管理しやすくすることです。フォルダ同期は新規アイテムをカタログに追加するためだけではなく、Portfolio からファイルおよびフォルダを作成、移動、削除するためにも使用できます。フォルダ同期は、“監視されている”フォルダに変更が発生するとユーザーにアラートを通知し、新規アイテムのカタログ化、アイテムの削除、または更新など、カタログとディスク上のファイルとの“同期”を取るために必要なすべての作業を選択できます。

自動カタログ化を設定するには

1. 「**カタログ**」から「**自動カタログ化**」を選択します。「自動カタログ化」ダイアログボックスが表示されます。



2. 「新規」をクリックします。「アイテム自動追加の設定」ダイアログボックスが表示されます。



3. 名前を入力します。
4. フォルダアイコン (Mac) または「参照」ボタン (Windows) をクリックして、Portfolio が監視し、自動的にカタログ化するフォルダを指定します。



自動カタログ化と画面プレビューに対して、同じフォルダを選択しないでください。自動カタログ化が無効になってしまいます。

5. Portfolio にターゲットのフォルダ内にあるすべてのサブフォルダを監視（およびカタログ化）させる場合は、「ネストされているフォルダを含める」オプションをオンにします。
6. ドロップダウンメニューから更新をチェックする頻度を選択します。
7. ラジオボタンを選択して、カタログの処理状況ウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。カタログの処理状況を非表示にする場合、Portfolio が新規画像をカタログ化する際にユーザー操作は中断されません。

8. 保存されているカタログ作成オプションを使用する場合は、オプションを有効化するためにチェックし、ドロップダウンリストから保存されているカタログ作成オプションを選択します。

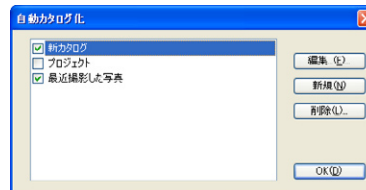


ドロップダウンリストには、自動カタログ化と互換性のあるカタログ作成オプションのみが表示されます。互換性のあるカタログ作成オプションは、オリジナルアイテムのファイルへの移動、または新規プロパティのファイルへの割り当てのみが可能です。

9. 自動カタログ化オプションの設定が完了したら、「OK」をクリックします。
10. カタログ作成名の左側をクリックして、自動カタログ化を有効にします。「自動カタログ化」ダイアログボックスで、アクティブなカタログ作成オプションの横にはチェックマークが付きます。
11. 「完了」をクリックします。

既存の自動カタログ化を有効にするには

1. 自動カタログ化を有効にするカタログを開きます。
2. 「カタログ」から「自動カタログ化」を選択します。Portfolio は既存の自動カタログ化処理についてパス名をチェックし、問題がある場合はアラートアイコンを表示します。



3. 有効にする各自動化の前にチェックマークを付けます。
4. 「完了」をクリックします。Portfolio は自動化のために指定された間隔で、監視フォルダのチェックを開始します。

自動化に関連付けられたアラートアイコンを消去するには

1. リストから自動化を選択し、「編集」をクリックします。
2. 「フォルダ」アイコン (Mac) または「参照」アイコン (Windows) をクリックし、適切な監視フォルダを再配置します。
3. 「完了」をクリックして、「アイテム自動追加の設定」ダイアログボックスを閉じます。
4. 「自動カタログ化」ダイアログボックス (「カタログ」から「自動カタログ化」を選択) を再度開き、アラートアイコンが表示されていないことを確認します。



「自動カタログ化」ダイアログボックスを再度開くと、Portfolio は強制的にパスを再チェックします。ダイアログボックスが再度開かない場合、Portfolio は修正が行われたことを知る方法がありません。

カタログプロパティ

「カタログ」から「プロパティ」を選択して「カタログプロパティ」ダイアログボックスを開くことで、任意のカタログに関する一般的な情報および統計を表示できます。「カタログプロパティ」ダイアログボックスでは以下の処理を行うことができます。

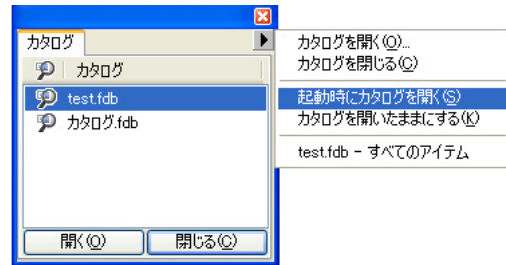
- カatalog内アイテムの総数、使用されているキーワードの総数、ディスク上のカタログサイズ、作成日、その他の詳細を得る。
- ディスク上のカタログファイルへのパスを表示およびコピーする。
- カatalog内で使用されているすべてのキーワードとその頻度を表示する。まず「統計」タブを選択し、「計算」ボタン (Mac、Windows とともに) をクリックします。Portfolio は各キーワードを一覧表示し、各キーワードが割り当てられているカタログ化済みアイテムの数を示します。
- 文書内で使用されているすべてのキーワードをテキストファイルに保存する。まず「計算」ボタンをクリックして、キーワードリストを生成します。次に、「キーワードのエクスポート」(Mac)、または「キーワードの保存」(Windows) をクリックして、リストをテキストファイルとして保存します。

起動時にカタログを開く設定

1つ以上のカタログを選択し、Portfolio を起動するたびに自動的に開くことができます。

起動時にカタログが開くように設定するには

- カatalogが開いている状態で、「カタログ」から「起動時に開く」を選択します。
- または –
- 「カタログ」パレットを開きます (「ウインドウ」から「カタログパレットを表示」を選択)。リスト内のカタログをハイライト表示し、パレットのフライアウトメニューから「起動時にこのカタログを開く」を選択します。



メニューコマンドの横にチェックマークが表示され、このカタログは Portfolio の起動時に自動的に開くことが示されます。この設定をさまざまな Portfolio カatalogでオンにすることで、Portfolio を起動するたびに複数のカタログを自動的に開くことができます。

起動時にカタログが開かないようにするには、「起動時に開く」コマンドを再度選択し、チェックマークを外します。

カタログを開いたままにする設定

通常、Portfolio カタログは、すべてのギャラリーを閉じると自動的に閉じます。ただし、すべてのウインドウが閉じていても、カタログを強制的に開いたままにすることができます。これにより、ギャラリーを開かずに、複数のカタログにまたがった検索を実行できます。

カタログを開いたままにするには

1. 「カタログ」パレットを開きます（「ウインドウ」から「カタログパレットを表示」を選択）。
2. 必要なカタログをハイライト表示します。
3. 「カタログ」パレットフライアウトメニューから、「カタログを開いたままにする」を選択します。

ファイルのギャラリーへの整理

Portfolio カタログをカスタマイズするときのオプションを理解するには、カタログ、ギャラリー、および表示の関係を理解することが重要です。

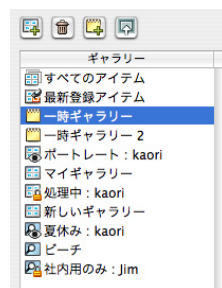
カタログ

カタログは、Portfolio を使用してカタログ化したすべてのアイテムを含むデータベース全体です。

ギャラリー

ギャラリーは、カタログ内のすべてのアイテム、またはそのサブセットを表示できます。たとえば、カタログ内に 5,000 個の画像があるとします。Portfolio の検索機能を使用して、「海」というキーワードでタグ化されたすべての画像を特定すると、一致した画像が 135 個ありました。この場合、カタログには 5,000 個の画像が含まれますが、ギャラリーに含まれるのは 135 個の画像です。

ギャラリーは、カタログ内の特定のファイルのみを整理および表示するのに適した方法です。写真家の場合、作品全体を含むカタログを作成し、あるギャラリーでは肖像写真のみを表示し、別のギャラリーには風景写真のみを含めることができます。



各アイテムがギャラリー内でどのように表示されるかについては、「表示」によって定義します。表示の設定方法については、後述の「表示」のセクションを参照してください。

デフォルトギャラリー

メインウインドウのデフォルトパレットからギャラリーにアクセスできます。すべてのカタログには、検索結果、最新登録アイテム、すべてのアイテムという 3 つのデフォルトギャラリーがあります。

- 「すべてのアイテム」ギャラリーには、カタログ内のすべてのアイテムが表示されます。
- 「検索結果」ギャラリーには、最新の検索に使った条件に一致するアイテムが表示されます。
- 「最新登録アイテム」ギャラリーには、新しく登録したアイテムが表示されます。Portfolio Server で共有しているカタログでは、現在のユーザーによってカタログ化されたファイルのみが表示されます。

ギャラリー名を一度クリックするだけでギャラリーが開き、メインウインドウに表示されます。名前をダブルクリックすると、Macintosh では新しいウインドウ内にギャラリーが表示されます。Windows では、メインウインドウ内にギャラリーが表示されますが、他のギャラリーのタブをクリックすることで、開いている他のギャラリーにもアクセスできます。

「最新登録アイテム」ギャラリーには、最後にカタログ化したファイルが表示されます。Portfolio Server の共有カタログについて、Portfolio は現在のユーザーがカタログ化したファイルのみをカタログ内に表示します。



「環境設定」ダイアログボックスの「一般」タブでユーザー名を設定する必要があります。設定しない場合、Portfolio は「最終カタログ登録日」ギャラリー内の、日付が最新であるすべてのファイルを表示します。

標準のギャラリー

デフォルトのギャラリーに加え、カタログに自動で保存されるその他のギャラリーを作成できます。

新しいギャラリーを作成するには



複数のギャラリーを作成しても、カタログ内のアイテムの数は増えません。ギャラリーは、カタログ内の一部のアイテムだけをまとめて表示するだけのものです。

1. 「ギャラリー」から「新規」を選択します。

—または—

command キーを押しながら G キーを押すか (Mac)、
Ctrl キーを押しながら G キーを押します (Windows)。

—または—

「ギャラリー」パレットで、「新規」ボタン  をクリックします。

2. Mac の場合はダイアログボックスで名前を入力し、「OK」をクリックします。Windows の場合は、「ギャラリー」パレットで名前を入力し、Enter キーを押します。

ギャラリーにアイテムを追加するには

次の方法を使ってギャラリーにアイテムを含めます。

- サムネールを別のギャラリーから新しいギャラリーにドラッグする。
- 「編集」メニューの「コピー」コマンドおよび「ペースト」コマンドを使用し、サムネールを別のギャラリーからコピーして新しいギャラリーに貼り付ける。

- 「編集」メニューの「カット」コマンドおよび「ペースト」コマンドを使用して、アイテムをギャラリーから切り取り、新規ギャラリーに移動する (アイテムをギャラリーから切り取ってもカタログから削除されないことに注意してください)。現在のギャラリーから削除されるだけです)。
- 特定のキーワードを含むアイテムなど、アイテムの選択されたセットについて検索を実行する。「ギャラリー」から「別名で保存」を選択し、検索結果を含む新しいギャラリーを作成します。

カタログから削除せずに、ギャラリーからアイテムを削除するには

アイテムがギャラリーから削除される場合、現在のギャラリーから削除されるだけで、カタログからは削除されません。ある画像セットのギャラリーを作成し、他の画像とともに表示したくない画像が含まれていることに気が付いた場合、ギャラリー内の不要な画像を単純に削除します。

1. 削除するアイテムを選択します。

2. ツールバーの「削除」ボタンを クリックします。

3. ダイアログボックスで「ギャラリーから削除」オプション

を選択し、「OK」をクリックします。

—または—

2. 「アイテム」から「削除」を選択します。

3. 「削除の確認」ダイアログボックスで、「ギャラリーから削除」を選択して、「OK」をクリックします。

—または—

2. 「編集」から「カット」を選択します。command キーを押しながら X キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーを押しながら X キーを押すこともできます (Windows)。

選択したアイテムはギャラリーから削除されますが、カタログからは削除されません。

ギャラリーを自動的にソートするには

Portfolio データベース内の任意のフィールド名に基づいて、ギャラリーを自動的にソートすることができます。

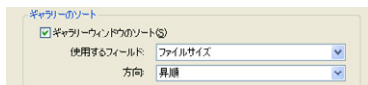


デフォルトのソートを設定すると、ギャラリーの右上隅にある並べ替えメニューが上書きされます。



ソート順で利用できないフィールドは、テキストブロックと URL フィールドです。テキストブロック（説明フィールドなど）と URL フィールドは、ソートに使うことはできません。

1. ソートするギャラリーを開きます。
2. 「ギャラリー」から「ギャラリーの設定」を選択します。
3. 「ソート」グループボックスで、「ギャラリーのソート」オプションをチェックします。
4. ドロップダウンメニューから「ソートフィールド」と「ソート順」を選択します。



5. 「OK」をクリックします。

このギャラリーを最初に開くとき、アイテムは指定されたソート順序で自動的にソートされます。ドロップダウンメニューから新しいソートを選択するまで、アイテムは割り当てられた方法でソートされたままになります。

ギャラリーを手動でソートするには

ギャラリーは、アイテムをドラッグすることにより、どのような順序にでも並べ替えることができます。この方法でギャラリーをソートすると、「カスタム」というソート順が作成されます。通常のギャラリーおよびスマートギャラリーでは、自動的にカスタムソート順が保存されます。

1. ソートするギャラリーを開きます。
2. ファイルを新しい場所にドラッグします。



カスタムソート順を自動的に保存するには、「ギャラリーの設定」でソート順を指定しないでください。「ギャラリー」>「設定」を選択してダイアログボックスを開き、「ギャラリーのソート」でソート順を指定していないことを確認してください。

カスタムのソート順はカタログ内に保存されます。複数のユーザーが同時にギャラリーのカスタムソート順を変更した場合は、カタログを開いている最後のユーザーのソート順が保存されます。またそれ以外のユーザーは、次にカタログを開いたときに、新しいソート順を確認することができます。

起動時にギャラリーが開くように設定するには

カタログが最初に開くとき、特定のギャラリーが表示されるように指定できます。

1. 選択したギャラリーを開きます。
2. 「ギャラリー」から「ギャラリーの設定」を選択します。
3. 「ギャラリーオプション」ダイアログボックスで、「カタログが開くときにこのギャラリーを開く」オプションをチェックします。



4. 「OK」をクリックします。

このカタログが開くときは常に指定されたギャラリーが自動的に開きます。

ギャラリーの名前を変更するには

1. ギャラリーで、ギャラリー名をクリックしてハイライト表示します。
2. Macintosh の Finder または Windows エクスプローラ内の操作と同様に、ハイライト表示されているギャラリー名を再度クリックし、ギャラリー名を編集します。

ギャラリーをコピーするには

1. ギャラリーで、ギャラリー名をクリックしてハイライト表示します。
2. 「ギャラリー」から「別名で保存」を選択します。
3. 新しいギャラリー名を入力し、「OK」をクリックします。
新しいギャラリーはギャラリーリストに追加され、前のギャラリーと同じすべてのアイテムを含みます。

ギャラリーを削除するには

1. ギャラリーパレットから、ギャラリーを選択します。
2. 「ギャラリーの削除」ボタン  をクリックします。
3. 「OK」をクリックすると、ギャラリーが削除されます。

一時ギャラリー

標準のギャラリーとは異なり、一時ギャラリーは、カタログ内に自動的に保存されません。この特殊なギャラリーは、ファイルを一時的に収集しておく場所として使用します。発行者または管理者としてログインしている場合は、一時ギャラリーを保存して、標準のギャラリーに変換することができます。その他の点では、標準のギャラリーとまったく同じです。一時ギャラリーを保存しないで Portfolio を閉じようとすると、警告メッセージが表示されます。

一時ギャラリーを作成するには

- ギャラリーパレットから  「新規一時ギャラリー」ボタンをクリックします。
- 「ギャラリー」>「新規一時ギャラリー」を選択します。
- 検索結果ギャラリーを右クリック (Win) するか ctrl キーを押しながらクリック (Mac) し、「新規一時ギャラリー」を選択して、QuickFind や検索条件を新しい一時ギャラリーに保存します。
- アイテムを選択し、選択したアイテムを右クリック (Win) するか、ctrl キーを押しながらクリック (Mac) し、メニューから「新規一時ギャラリー」を選択します。選択したアイテムが新しい一時ギャラリーに追加されます。

一時ギャラリーを保存するには

一時ギャラリーは、保存することにより通常のギャラリーに変換できます。



一時ギャラリーを保存するには、発行者または管理者レベルのアクセス権が必要です。

1. ギャラリーで一時ギャラリーを選択します。
2. 「ギャラリー」>「別名で保存」を選択します。

または、一時ギャラリーを右クリックして、メニューから「別名で保存」を選択します。

または、command + S (Mac) または Ctrl + S (Win) を押します。

スマートギャラリー

スマートギャラリーを開くと、Portfolio はカタログを自動的に検索し、表示するファイルを選択します。スマートギャラリーは、アイテムのプロパティにあるデータを基にファイルを検索し、選択するために設定できます。

スマートギャラリーを作成するには

1. 「編集」>「検索」>「検索」を選択するか (Mac)、または「カタログ」>「検索」を選択し (Win)、「検索」ダイアログボックスを開きます。
2. 検索条件を入力します。この検索条件は、スマートギャラリーが開くたびに検索に使用されます。
3. 「保存済みの検索方法」から「スマートギャラリーとして保存」を選択します。
4. スマートギャラリーの名前を入力し、「OK」をクリックします。

以上で、新しいスマートギャラリーが作成されます。スマートギャラリーが開くたびに、上記の手順3で指定した「保存済みの検索方法」の検索条件に基づき、アイテムが検索および選択されます。



スマートギャラリーと保存済みの検索方法には、同じ名前が使用されます。

標準のギャラリーをスマートギャラリーに変更するには

1. 選択したギャラリーを開きます。
2. 「ギャラリー」>「設定」を選択します。
3. 「ギャラリーの設定」ダイアログボックスで、「スマートギャラリー」オプションを選択します。
4. ドロップダウンメニューから、保存済みの検索方法を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

スマートギャラリーを選択するたびに、手順4で指定した保存済みの検索方法を使って、アイテムが検索され、選択されます。

ギャラリーのアクセス権

多くのユーザーが1つのカタログに作成する場合は、カタログ内に、1人のユーザーだけがアクセス権を持つギャラリーを作成しておく便利です。Portfolioの公開および非公開なギャラリー機能を使うと、自分だけが閲覧できるギャラリーや、ほかのユーザーが変更を加えることができない読み取り専用のギャラリーとして指定し、ギャラリーを保護することができます。

非公開ギャラリーは1人のユーザーによって所有されるので、ギャラリーを公開または非公開にするには、カタログでユーザー単位でのアクセスを使う必要があります。カタログを開く時にユーザー名とパスワードが必要な場合は、カタログがユーザー単位でのアクセスで設定されています。ユーザー単位でのアクセスでカタログを設定するには、「パスワードの設定 (ユーザー単位でのアクセス)」を参照してください。

非公開ギャラリーのアイコンには、ギャラリーアイコンに「目」のマークが付いています。



読み取り専用のギャラリーには、ギャラリーアイコンに「鍵」のマークが付いています。



ギャラリーのプライバシー設定を変更するには

1. 「ギャラリー」>「アクセス権」を選択します。

—または—

ギャラリー名を右クリック (Win) または ctrl キーを押しながらクリック (Mac) し、メニューから「アクセス権」を選択します。

2. ダイアログボックスで、「公開ギャラリー」または「非公開ギャラリー」のいずれかを選択して、アクセス権を指定します。

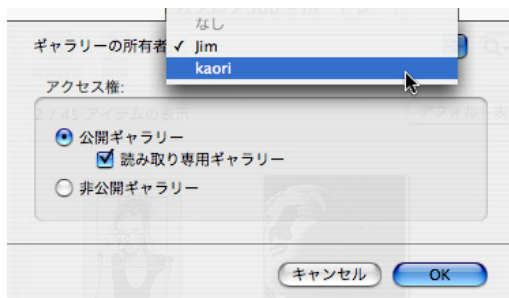
- 公開ギャラリーとして指定する場合は、読み取り専用にするかどうかを指定することもできます。これには、「読み取り専用ギャラリー」オプションを選択します。
- 「OK」をクリックして、新しいアクセス権をギャラリーに適用します。

ギャラリーの所有者を変更するには



ギャラリーの所有者を変更するには、現在ギャラリーを所有しているか、管理者としてログインしている必要があります。また、ギャラリーの新しい所有者が、カタログへのユーザー単位でのアクセス用にログイン名とパスワードを持っている必要があります。

- 「ギャラリー」>「アクセス権」を選択します。
—または—
ギャラリー名を右クリック（Win）またはctrl キーを押しながらクリック（Mac）し、メニューから「アクセス権」を選択します。
- ダイアログボックスで、ドロップダウンメニューから、新しいユーザーを選択します。



- 「OK」をクリックして、新しいアクセス設定をギャラリーに適用します。

ギャラリーのアイコン

	すべてのアイテムギャラリー
	最新登録アイテムギャラリー
	検索結果ギャラリー
	標準のギャラリー
	非公開ギャラリー
	読み取り専用ギャラリー
	一時ギャラリー
	スマートギャラリー
	非公開スマートギャラリー
	読み取り専用スマートギャラリー

新しいウィンドウでギャラリーを開く（Mac のみ）

Portfolio の Macintosh バージョンでは、ギャラリーパレットにもう 1 つ別のボタンがあります。このボタンは、選択したギャラリーを新しいウィンドウで開くためのボタンです。



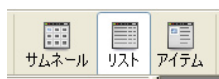
表示

1つのカタログは複数のギャラリーを含むことができ、各ギャラリーは保存されている多数の異なる表示方法を使用して表示できます。

背景色、フォント、フォント色、サムネールサイズ、グリッドの間隔、フィールドデータといった表示属性の定義や、こうした設定の「保存済みのビュー」への保存を簡単に行うことができます。

サムネール表示、リスト表示、アイテム表示

Portfolio では3つの主な表示“タイプ”を使用することができ、各表示をカスタマイズして独自の保存済みのビューを必要な数だけ作成できます。表示タイプを選択後、カスタマイズして保存済みのビューに保存します。その後、その表示を任意のギャラリーに適用できます。



Windows のボタン



Macintosh のボタン

サムネール表示

Portfolio のデフォルトの表示であるサムネール表示は、小さなサムネールサイズのプレビューで構成される調整可能なグリッドにカタログ化されたアイテムを表示します。カタログ化された各アイテムに関する情報は、各サムネールの下に表示されます。

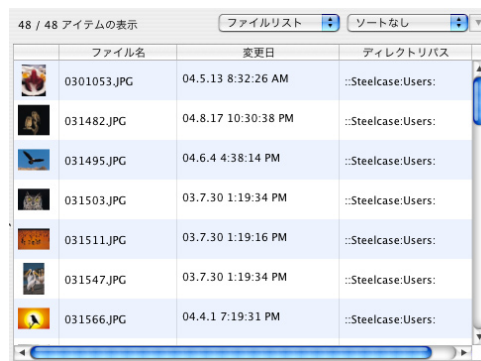


ツールバーの「サムネール表示」ボタンをクリックするか、command キーを押しながら T キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーを押しながら T キーを押す (Windows) ことにより、サムネール表示に切り替えることができます。

任意の Portfolio フィールドの内容をサムネールの下に表示することを選択できます。「表示」から「表示設定」コマンドを選択し、4つの異なるサムネールサイズからの選択や、表示するフォント、サイズ、形式、およびデータフィールドの選択を行います。

リスト表示

リスト表示では、Portfolio カタログに保存してある情報がスプレッドシートのようなリスト形式で表示されます。デフォルトで、ファイル名、ファイルサイズ、ファイルのタイプ、変更日、ディレクトリパスといったフィールドが一覧表示されますが、このフィールドセットは「表示」から「表示設定」コマンドを選択して編集できます。ここでは、リストの列に表示する詳細なフィールド情報を指定できます。



リスト表示に切り替えるには、メインツールバーの「リスト表示」ボタンをクリックするか、command キーを押しながら L キーを押す (Mac)、または Ctrl キーを押しながら L キーを押します (Win)。

アイテム表示

アイテム表示では、カタログ化された各アイテムと、それに関連付けられている並べ替え済みのデータを表示できます。この表示では、たとえば、ファイルに関連付けられたすべてのキーワードのリストを確認したり、説明の全体と入力したその他のカスタムフィールドデータを合わせて表示したりできます。各アイテムのプロパティを1つずつ開いて表示するのではなく、アイテムのセットに関する多くの詳細情報にアクセスするときにアイテム表示を選択します。

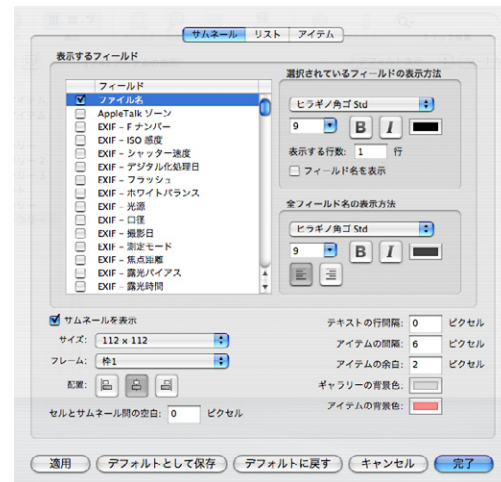
下の「ギャラリー表示のカスタマイズ」のセクションで概略を説明するように、アイテム表示のフォント、色、サムネールサイズなどをカスタマイズすることもできます。

アイテム表示に切り替えるには、メインツールバーの「アイテム表示」ボタンをクリックするか、command キーを押しながら R キーを押す (Mac)、または Ctrl キーを押しながら R キーを押します (Windows)。



ギャラリー表示のカスタマイズ

サムネール表示、リスト表示、およびアイテム表示をカスタマイズするには、「表示」から「表示設定」を選択します (Mac の場合は command キーを押しながら D キーを押し、Windows の場合は Ctrl キーを押しながら D キーを押す)。



表示するフィールド

3つの表示タイプ (サムネール、リスト、アイテム) のすべてにおいて、画面上に表示する正確なデータフィールドとフィールド形式を選択できます。そうしたフィールドが表示される順序も指定できます。

「表示設定」ダイアログボックス内のフィールドのスクロールリストから表示に含めるフィールドを単純にチェックします。

フィールドを表示 / 非表示にするには

- ・「表示設定」ダイアログボックスの「表示するフィールド」リストで、表示するフィールドを選択します。各フィールド名の左側のチェックマークは、フィールドがアクティブであることを示します。チェックマーク列をクリックすると、フィールドのオンとオフが切り替わります。



フィールドの順序を変更するには

- ・リスト内のフィールド名をクリックおよびドラッグして、必要な順序にします。

複数行のフィールド表示のコントロール

「説明」や「キーワード」など、一部のフィールドは複数行のテキストから構成されている場合があります。アイテム表示をカスタマイズするとき、画面上にスクロールなしで表示されるテキストの行数をコントロールできます。

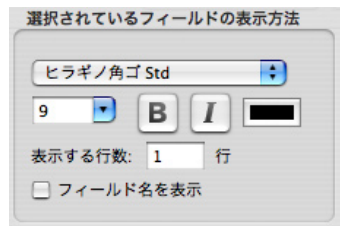
表示する行数: 行

フィールド形式

各フィールドのフォントタイプ、サイズ、およびフィールド名を選択できます。各フィールドは独自の形式を持つことができるので、表示設定を柔軟に行うことができます。

フィールド形式を変更するには

1. 「表示設定」ダイアログボックスで、フィールド名をクリックしてハイライト表示します。
2. ドロップダウンリストから、フォント、フォントサイズ、およびタイプを選択します。



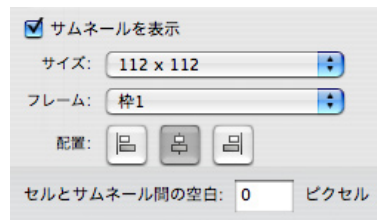
フィールド名を表示するには

- ・ビューにフィールド名を表示するには、フィールド名をクリックしてハイライト表示し、「このフィールドのフィールド名を表示」オプションをチェックします。
- これにより、保存済みのビューにフィールド名、たとえば“ファイル名: bunny.jpg”が表示されます。

サムネールオプション

(サムネール表示とアイテム表示でのみ使用可能)

32 ピクセル × 32 ピクセルから 256 ピクセル × 256 ピクセルまでの 4 つの異なる標準サイズから選択します。Portfolio はファイルの最初のカタログ作成で生成したサムネールより大きなサムネールを表示できないことに注意してください。デフォルトで、Portfolio は 112 × 112 ピクセルのサムネールを生成するので、カタログで 256 × 256 のサムネールを表示する場合は、前の章の説明に従ってアイテムがカタログ化される前に、「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスでサムネールサイズをより大きく設定する必要があります。



すでにカタログ化されているアイテムに対して、より大きなサムネールを作成するには、「カタログ作成の詳細オプション」を設定した後、「アイテム」から「サムネールの再作成」を選択し、Portfolio が新規サムネールを作成するように強制します。

フレーム

(サムネール表示とアイテム表示でのみ使用可能)

各サムネールの周囲にグラフィックな枠、つまりフレームを適用し、Portfolio カタログに独自の外観を与えることができます。フレームを適用するには、「フレーム」ドロップダウンメニューから定義済みのフレームのうちいずれかを選択します。任意のグラフィックアプリケーションを使用して、独自のフレームを作成することもできます。

新規フレームの作成

PICT、TIFF、または BMP ファイルなど、任意のビットマップ画像からカスタムフレームを作成できます。Photoshop などのグラフィックソフトウェアでフレームを作成後、フレームを Portfolio に単純にコピーおよび貼り付けし、カスタム表示に適用します。

カスタムフレームを追加するには

1. グラフィックアプリケーションでフレームを作成します。
サムネールの周囲にぴったり合ったフレームを作成するには、次の表に示すピクセル寸法に従います。

サムネールサイズ	フレームサイズ
32 x 32	40 x 40
64 x 64	80 x 80
112 x 112	140 x 140
256 x 256	320 x 320

2. フレームの透過色を設定します。

Portfolio はフレーム画像の中央のピクセルを認識し、それを指定された透過色として設定します。中央のピクセルと同じ色のフレーム部分は透明になります。このため、背景色の一部が透けて見えるフレームを作成できます。背景色がフレームのどの部分でも透けて見えないようにする場合は、中央のピクセルをフレーム設計の他のどの場所でも使用されていない色に設定してください。

3. 完成したフレーム画像をグラフィックソフトウェアのクリップボードにコピーします。



フレーム画像を Photoshop などの、レイヤーを扱えるソフトウェアで作成した場合は、必ず最終画像のレイヤーを統合し、単一レイヤーだけでなく、画像全体をコピーしてください。

4. 新規フレームを Portfolio に貼り付けます。

「表示設定」ダイアログボックスが開いていない場合は開き (Mac の場合は command キーを押しながら D キーを押す)、Windows の場合は Ctrl キーを押しながら D キーを押す)、「フレーム」ドロップダウンメニューから「編集」を選択します。「新規」をクリックして、「フレームの設定」ダイアログボックスを開きます。次に、「ペースト」をクリックして、フレーム画像を貼り付けます。



また、画像編集ソフトウェアからフレーム画像を標準の PICT、TIFF、または BMP ファイルとして保存した後、「フレームの設定」ダイアログボックスの「インポート」ボタンを使用してフレームを Portfolio にインポートすることもできます。

5. フレームに名前を付けて保存します。「フレームの名前」フィールドに名前を入力し、「**保存**」をクリックします。「フレーム」リストで「**OK**」をクリックし、「ギャラリーの設定」ダイアログボックスに戻ります。
6. フレームを表示に適用します。「フレーム」メニューから新しく保存したフレームを選択し、「**適用**」をクリックします。



Portfolio ディレクトリの「フレーム」フォルダに保存されたフレームファイルは、作成するすべての新規カタログに含まれることになります。

フレームのコピーと貼り付け

ある Portfolio カタログから別のカタログへカスタムフレームをコピーすることができ、お気に入りのフレームを新規カタログに転送できます。

フレームを別のカタログにコピーするには

1. 「表示設定」ダイアログボックスを開き（Mac の場合は command キーを押しながら D キーを押す、Windows の場合は Ctrl キーを押しながら D キーを押す）、「フレーム」ドロップダウンメニューから「編集」を選択します。
2. 「フレーム」ダイアログボックスに一覧表示される保存されたフレームからコピーするフレームを選択します。「**編集**」をクリックします。
3. 「フレームの設定」ダイアログボックスで「**コピー**」をクリックし、フレーム画像をクリップボードに転送します。
4. フレームを貼り付けます。フレームを別のカタログに貼り付けるか（上の「新規フレームの作成」のセクションで説明）、画像編集ソフトウェアに貼り付けて修正することができます。

アイテムをリストとしてギャラリー内に表示 (アイテム表示のみ)

アイテム表示でこのオプションを選択すると、画面上に複数のアイテムが同時に表示されます。

☒ アイテムをリストで表示する

このオプションが無効の場合、ギャラリーには一度に 1 つずつアイテムが表示されます。ギャラリーを下方向にスクロールすると、ギャラリー内の次のアイテムが表示されます。

間隔

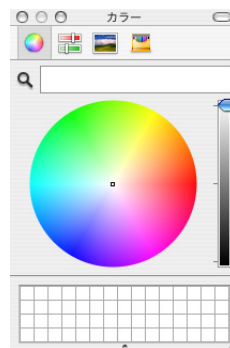
サムネール、テキストの行、アイテム行の間隔のほか、テキストがアイテムの端からどれくらい離れて挿入されるかをコントロールできます。使用可能な設定のタイプは選択されている表示タイプによって異なりますが、つねにピクセルで入力します。

テキストの行間隔: 4 ピクセル
アイテムの間隔: 10 ピクセル
アイテムの余白: 5 ピクセル

色

ギャラリー内のさまざまなアイテムの色を選択できます。ギャラリーの背景色、アイテムの背景色、行の色のほか、テキストの色も指定できます。多数のデフォルト色から選択するか、新しい色を定義できます。

Mac: 色見本をクリックして標準の Mac カラーピッカーを開き、必要な色を選択して、「OK」をクリックします。



Windows: 色ドロップダウンメニューから定義済みのいずれかの色を選択するか、メニューから「その他」を選択し、標準の Windows カラーピッカーを使用して新しい色を定義後、「OK」をクリックします。



デフォルト設定

現在の表示設定をカタログの新規デフォルト表示として割り当て、カタログで新しいギャラリーが作成されるたびにその表示を使用できます。このように保存された設定を「デフォルト設定」といい、自由にカスタマイズできます。

現在の表示をデフォルトとして保存するには

1. 「表示」 > 「表示設定」を選択し、「表示設定」ダイアログボックスを開きます。
2. 「デフォルトとして保存」ボタン（左下隅にある）をクリックします。



デフォルト設定を保存すると、サムネール、リスト、およびアイテムのすべてのタイプに対して保存されます。

デフォルト設定を読み込むには

1. 「表示」 > 「表示設定」を選択し、「表示設定」ダイアログボックスを開きます。
2. 「デフォルトに戻す」ボタンをクリックします。デフォルト設定が「表示設定」ダイアログボックスに読み込まれます。
3. 「OK」をクリックしてデフォルト設定を適用します。

カスタマイズしたビューの保存と適用

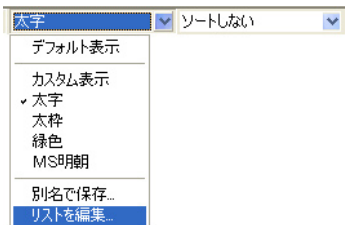
フォント、背景色、フレームの変更や、さまざまなフィールドの表示、非表示など、ビューのカスタマイズを行った後、こうしたすべての属性を保存済みのビューとして保存できます。その後いつでも、「保存済みのビュー」メニューを使用して、この表示をカタログ内の任意のギャラリーに適用できます。Portfolio のデフォルトのカタログ構成の一部として、あらかじめ定義されたいくつかの保存済みのビューが含まれています。

ビューを保存するには

1. 「表示設定」コマンド（前のセクションを参照）を使用し、必要な表示を設定して、その設定を現在のギャラリーに適用します。
2. ギャラリー上部に表示されるステータスバーの「ソート」メニューの左側で、「保存済みのビュー」ドロップダウンメニューから「名前を付けて保存」（または「別名で保存」）を選択します。
3. ビューに名前を付けて、「OK」をクリックします。
4. 保存した表示の名前が「保存済みのビュー」メニューに表示されます。

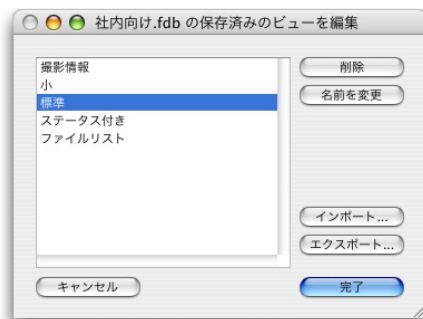
保存されているビューを適用するには

1. 「保存済みのビュー」メニューからビューの名前を選択します。



保存されたビューの名前変更または削除を行うには

1. 「保存済みのビュー」メニューから「リストの編集」を選択します。
2. 名前変更または削除するビューをリストから選択し、「名前変更」ボタンまたは「削除」ボタンをクリックします。



Portfolio によるファイルの管理

Portfolio カタログを作成し、独自のデジタルファイルを保存した後、作業の表示、整理、管理を簡単にする機能が多数用意されています。この章では、Portfolio を使用して以下の作業を行う方法について説明します。

- 画像、オーディオおよびビデオクリップ、その他の文書をプレビューする
- 各ファイルの詳細情報を取得する
- オリジナルファイルを編集する
- 画像を回転させる
- ファイルを新規ファイル形式にバッチ変換する
- ファイルの名前を変更する
- カタログを最新の状態に維持する
- カタログ化されたファイルを別のソフトウェアに容易にドラッグする
- ギャラリー内の画像を印刷する

ファイルのプレビューと編集

Portfolio はほとんどの画像、ムービー、およびサウンドファイルを直接開くことができるので、カタログ化されたアイテムをすばやくプレビューできます。このため、アイテムを表示するために、アイテムの作成に使用されたソフトウェアを起動する手間が省けます。



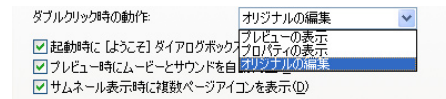
一部のファイルタイプはプレビューできません。Portfolio がファイルをプレビューできない場合、ファイルを作成したソフトウェアを使用して表示するかどうかを要求されます。

アイテムをプレビューするには

- 任意のギャラリーでサムネールをダブルクリックします。
- リスト表示に一覧表示されている任意のアイテムをダブルクリックします。
- アイテムを選択し、⌘ キーと option キーを押しながら I キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーと Shift キーを押しながら I キーを押します (Windows)。
- 「アイテムのプロパティ」ウインドウでサムネールをダブルクリックします。
- サムネールを Control キーを押しながらクリックするか (Mac)、右クリックして (Windows)、メニューから「オリジナルのプレビュー」コマンドを選択します。



デフォルトで、Portfolio はサムネールがダブルクリックされたときにファイルをプレビューしますが、この動作を「ユーザー環境設定」ダイアログボックスで変更することにより、「アイテムのプロパティ」ウインドウを開くか、ダブルクリックでオリジナルファイルを編集できます。「編集」から「環境設定」を選択するか (Windows)、「Portfolio」から「環境設定」を選択し (Mac)、「概要」タブでダブルクリックした結果を「プレビューの表示」、「プロパティの表示」、または「オリジナルの編集」に設定します。



カタログの画面プレビューを有効にした場合、ファイルをプレビューするとき、Portfolio は画面プレビューを表示します。

そうでない場合、Portfolio はプレビューするファイル特定できなければなりません。カタログ化されたオリジナルファイルが見つからない場合、Portfolio はなくなったファイルを見つけるよう要求します。カタログ化されたファイルが CD または DVD などのリムーバブルディスク上にあった場合、Portfolio はなくなったディスクを挿入するよう要求します。



Portfolio がオフラインになっている（たとえば、保管されている CD または DVD 上にある）画像のプレビューを表示できるようにするには、画面プレビュー機能を使用する必要があります。

「プレビュー」ウインドウ

「プレビュー」ウインドウは、以下の処理を行うことが可能なボタンを備えています。



拡大表示する



縮小表示する



画像を「プレビュー」ウインドウのサイズに合わせる



等倍表示



オリジナルファイルに切り替える

「オリジナル画像の表示」ボタンは、Portfolio の画面プレビュー機能を使用している場合にのみアクティブです。このボタンをクリックすると、Portfolio JPEG 画面プレビュー画像はオリジナルのソースファイルに置き換わります。

複数のファイルを一度にプレビューする場合、ナビゲーションコントロールにより、ファイルから次のファイルにページ変更したり、最初 / 最後のファイルに移動したりできます。



同様に、PowerPoint ドキュメントまたは PDF ファイルなど、複数ページの文書をプレビューしているとき、プレビューウインドウにある標準のナビゲーションコントロールを使用して、文書内のページ間を移動することもできます。

オーディオ / ビデオファイルのプレビュー

オーディオまたはビデオファイルをプレビューするとき、「プレビュー」ウインドウに標準の QuickTime コントロールバーが表示されるので、オーディオまたはビデオコンテンツを再生できます。デフォルトでは、プレビューウインドウを開くと自動的に再生が始まります。



プレビューの際にオーディオおよびビデオファイルを自動再生したくない場合は、「編集」>「環境設定」を選択するか (Windows)、「Portfolio」>「環境設定」を選択し (Mac)、「概要」環境設定タブで、「プレビュー時にムービーとサウンドを自動再生」オプションをオフにします。

ファイルに関する情報の取得

Portfolio は、カタログ化するすべてのファイルに関する非常に詳細な情報を保存します。この情報には、Portfolio そのものがカタログ作成中に収集するデータとして、各ファイルの作成日、ファイルサイズ、画像寸法、ファイルタイプなどが含まれます。また、Portfolio アイテムには、追加可能なメタデータ情報（たとえば説明やキーワード）や、カスタムフィールドを使用して追加できるその他のデータも含まれます。

こうした情報は「プロパティ」ダイアログボックスに表示されます。「アイテムのプロパティ」を開くには、サムネールを選択して、ツールバーの「プロパティ」ボタンをクリックするか、command キーを押しながら I キーを押すか（Mac）、または Alt キーを押しながら Enter キーを押します（Win）。「概要」、「キーワード」、「フィールド」の各タブを切り替えて、各ファイルの詳細を表示します。



サムネールをダブルクリックしたときに、デフォルトで「アイテムのプロパティ」を開くようにすることができます。このためには、「編集」から「環境設定」を選択するか（Win）、「Portfolio」から「環境設定」を選択し（Mac）、「概要」タブでダブルクリックした結果を「プロパティの表示」に設定します。

「アイテムのプロパティ」ナビゲーションボタン

「アイテムのプロパティ」ウインドウ下部の4つのナビゲーションボタン（「最初」、「次へ」、「前へ」、「最後」）を使用して、選択したアイテム間を移動できます。このため、「アイテムのプロパティ」ウインドウを繰り返し開いたり閉じたりせずに、一連のアイテムに関する情報へのアクセスが簡単になります。

以下のキーボードショートカットを使用して、「アイテムのプロパティ」内のアイテム間を移動することもできます。

操作	ショートカット
次のアイテムに移動する	Windows: Ctrl-⇒ Mac: ⌘-⇒
前のアイテムに移動する	Windows: Ctrl-⇐ Mac: ⌘-⇐

「概要」、「キーワード」、「フィールド」の各タブを切り替える
Windows: Ctrl-Tab

「アイテムのプロパティ」を使用した情報の編集

「アイテムのプロパティ」ウインドウの用途は情報の取得ではありません。このウインドウを使用して Portfolio アイテムを編集することもできます。「アイテムのプロパティ」を使用して説明の追加、ファイル名の変更、キーワードの追加、カスタムフィールドの入力を行うことができます。「アイテムのプロパティ」を使用してアイテムを編集する方法の詳細については、「Portfolio によるファイルの整理」の章を参照してください。

オリジナルファイルの編集

カタログ化されたファイルを編集するために、Portfolio から他の任意のソフトウェアに直接移動できます。

ファイルを編集するには

1. 任意の Portfolio ギャラリーで、編集するアイテムを選択します。
2. 「アイテム」、「オリジナルファイルの操作」、「編集」の順に選択するか、単に **⌘** キーを押しながら **E** キーを押す (Mac)、または **Ctrl** キーを押しながら **E** キーを押します (Windows)。



3. Portfolio はオリジナルファイルを編集するために必要なソフトウェアを起動し、そのプラグラムでファイルを開きます。

Portfolio は一般に、特定のファイルタイプを編集するために、最後に使用されたソフトウェアの名前と場所を記憶しています。必要があれば (特定のタイプのファイルを初めて編集しようとしたときなど)、アプリケーションを選択するように要求されます。Portfolio は選択した情報を将来のために記憶します。



オリジナルファイルを編集するために頻繁に Portfolio を使用する場合は、ソフトウェアの環境設定を構成して、サムネールをダブルクリックするとプレビューの代わりに編集用のオリジナルファイルが開くようにしておくことをお勧めします。「編集」から「環境設定」を選択するか (Windows)、「Portfolio」から「環境設定」を選択し (Mac)、「概要」タブで、ダブルクリックした結果を「オリジナルの編集」に設定します。

ファイルの移動、コピー、削除

オリジナルファイルの移動、コピー、名前変更、および削除のすべてを Portfolioの中から実行できます。オリジナルファイルで実行するすべてのアクションは、「アイテム」メニューの「オリジナルファイルの操作」サブメニューからアクセスできます。

ファイルをコピーするには

1. 任意の Portfolio ギャラリーで、コピーするアイテムを選択します。
2. 「アイテム」、「オリジナルファイルの操作」、「コピー」の順に選択します。
3. ダイアログボックスで、コピーされるアイテムの宛先フォルダを選択し、「選択」 (Mac) または「OK」 (Windows) をクリックします。
4. Portfolio は、選択されているファイルを指定されたフォルダにコピーします。オリジナルファイルはそのまま残ります。

ファイルを移動するには

1. 任意の Portfolio ギャラリーで、移動するアイテムを選択します。
2. 「アイテム」、「オリジナルファイルの操作」、「移動」の順に選択します。
3. ダイアログボックスで、移動されるアイテムの宛先フォルダを選択し、「選択」 (Mac) または「OK」 (Windows) をクリックします。



Portfolio はオリジナルファイルを指定された新規フォルダの場所に移動し、カタログを更新して、カタログ化されたアイテムの新しい場所を自動的に記録します。

アイテムのコピーはカタログに影響しません。ただし、ファイルを移動すると Portfolio 内で更新され、パスはファイルの新しい場所を指すようになります。

画像の新しいファイル形式へのバッチ変換

Portfolio は、画像をサポートされているファイル形式から JPEG、TIFF、PixelLive または PixelSafe 形式にバッチ変換することができます。ファイルを JPEG 形式または TIFF 形式に変換する場合、画像の解像度、サイズ、カラーモード、ディスク上の場所を変更できるほか、変換されたファイルをディスクに自動的に追加することもできます。ファイルを PixelLive 形式または PixelSafe 形式に変換する場合は、カラーモード、ディスク上の場所、パスワード保護を変更することができます。すでに PixelLive 形式、PixelSafe 形式に変換されているファイルは、PixelLive 形式または PixelSafe 形式にのみ変換することができます。



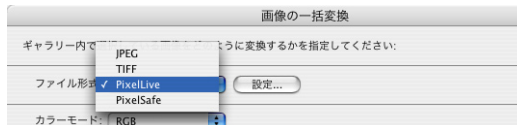
埋め込まれたメタデータは、新しいファイル形式でサポートされる場合、新規ファイルに転送されます。EXIF メタデータの TIFF ファイルへの埋め込みは現在サポートされていません。

画面のグループをバッチ変換するには

1. バッチ変換するアイテムを選択します。

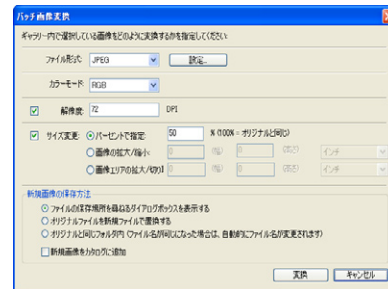
個別のサムネールを選択するか、複数のサムネールを選択できます。複数のサムネールを選択するには、command キー (Mac) または Ctrl キー (Windows) を押しながら、各選択対象をクリックします。

2. 「アイテム」から「画像の一括変換」を選択します。
3. 「画像の一括変換」ダイアログボックスで、宛先のファイル形式を選択します。



JPEG、PixelLive または PixelSafe を選択する場合、「表示設定」をクリックして圧縮率または画質レベルを設定します。

4. ドロップダウンボックスからカラーモードを選択します。



5. 画像解像度を変更するには、「解像度」オプションをチェックし、新しい DPI を指定します。
6. 画像サイズを変更するには、「サイズ変更」オプションをチェックし、新しいサイズを識別する方法を指定します。
 - ・「パーセントで指定」 1% から 500% までの範囲で倍率を変更します。
 - ・「画像の拡大 / 縮小」 このオプションは選択された高さと同幅に合うように画像を比例して倍率変更します。
 - ・「画像エリアの拡大 / 切り取り」 このオプションは、元の縦横比を維持しながら、新しい領域の 4 辺すべてに合うように画像を拡大します。定義された領域を超えた辺から画像の均等な部分がトリミングされます。
7. 新しい画像を保存する方法を選択します。
 - ・「ファイルの保存場所を尋ねるダイアログボックスを表示する」 「変換」をクリックすると、Portfolio はディレクトリを指定するよう要求します。
 - ・「オリジナルファイルを新規ファイルで置換する」
 - ・「オリジナルと同じフォルダ内」 新しいファイル拡張子により、ファイルの名前が現在のファイルと同じになる場合は、ファイルの名前が適切に変更されます。たとえば、「bunny.jpg」が「bunny1.jpg」になることがあります。
8. 変換された画像を現在の Portfolio カタログに追加する場合は、「新規画像をカタログに追加」オプションをチェックします。



新規画像をカタログに追加するには、管理者または発行者のアクセスレベルを持っていないけません。

9. 「変換」をクリックします。



PixelSafe 形式に変換する場合は、ユーザー名とパスワードの入力が求められます。この情報は大切に保存してください。新しい PFZ ファイルにアクセスする度に必要になります。

画像の回転

Portfolio は JPEG 画像を回転させることができ、ファイルを個別に開き、編集することなく、デジタル写真の向きを縦から横へ（またはその逆に）簡単に切り替えることができます。これは、デジタルカメラから多数の写真をカタログ化し、調整の必要な横向きまたは縦向きの写真が組み合わされている場合、特に便利です。

JPEG 画像を回転させるには

1. 回転させるアイテムを選択します。

個別のサムネールを選択するか、複数のサムネールを選択できます。複数のサムネールを選択するには、**command** キー（Mac）または **Ctrl** キー（Windows）を押しながら、各選択対象をクリックします。

2. 「アイテム」から「オリジナルファイルを回転（JPEG 画像のみ）」を選択し、3つのサブメニューオプション、「時計回りに 90 度回転」、「反時計回りに 90 度回転」、「180 度」のいずれかを選択します。

3. 各アイテムが回転する際、進行状況ダイアログボックスが表示されます。



画像をすばやく回転させるために、**command** キーを押しながら **]** キーを押すか（Mac）、または **Ctrl** キーを押しながら **]** キーを押して（Windows）、選択した画像を時計回りに回転させるか、**command** キーを押しながら **[** キーを押す（Mac）、または **Ctrl** キーを押しながら **[** キーを押して（Windows）、選択した画像を反時計回りに回転させることができます。



Portfolio は JPEG 画像のみを回転させます。他の形式で保存された画像を回転させるには、画像編集ソフトウェアでファイルを開き、編集アプリケーション内で回転を実行する必要があります。

サムネールのみを回転

Portfolio では任意の画像のサムネールのみを回転させ、オリジナルをそのままにしておくこともできます。上で説明したオリジナルの JPEG 画像の回転と同じ手順に従いますが、回転コマンドは「アイテム」の「サムネールを回転」サブメニューから選択します。

ファイル名を変更

Portfolio は、カタログ化するオリジナルファイルの名前を簡単に変更するための方法を 5 つ用意しています。

- ・「カタログ作成オプション」のファイル名の一括変換機能を使用し、ファイルをカタログ化するとき名前を変更できます。これは、デジタルカメラやスキャナからインポートするファイルに名前を付けるときに便利です。
- ・サムネールを選択し、「アイテム」、「オリジナルファイルの操作」、「ファイル名を変更」の順に選択して、「ファイル名を変更する」ダイアログボックスで新しい名前を入力することにより、個別のファイルを名前変更します。
- ・サムネールを選択し、**command** キーと **option** キーを押しながら **N** キーを押すか（Mac）、または **Ctrl** キーと **Shift** キーを押しながら **N** キーを押して（Windows）、「ファイル名を変更する」ダイアログボックスで新しい名前を入力します。
- ・「アイテムのプロパティ」を開くには、サムネールを選択して、ツールバーの「プロパティ」ボタンをクリックするか、**command** キーを押しながら **I** キーを押すか（Mac）、または **Alt** キーを押しながら **Enter** キーを押します（Windows）。
- ・スライドショーの途中で、スライドショーコントローラの「名前変更」ボタンをクリックし、「ファイル名を変更する」ダイアログボックスで新しい名前を入力します。

新規ファイルへリンク

特定の状況下で、Portfolio アイテム（その説明、キーワード、その他のデータを含む）を保持しながら、アイテムをまったく異なるファイルにリンクする場合があります。たとえば、画像を編集し、「別名で保存」コマンドを使用して、ファイルを新しい名前で保存することがあります。Portfolio はファイルの新しいバージョンを指しますが、古いアイテムに保存したすべての情報を保持する場合があります。

この処理は「別のファイルに再リンク」コマンドを使用して行うことができ、任意の既存アイテムを異なるオリジナルファイルに結びつけることができます。

既存のアイテムを新規オリジナルファイルにリンクするには

1. 再リンクするアイテムのサムネールを選択します。
2. 「アイテム」、「オリジナルファイルの操作」、「別のファイルに再リンク」の順に選択します。
3. 新規ファイルを指定します。
4. Portfolio はカタログ内の既存のアイテムにリンクされているファイルをカタログ化し、アイテムを新規情報（新規サムネール画像など）で更新します。



別のファイルに再リンク後、Portfolio カタログ内のメタデータを新規ファイルに埋め込むことができます。メタデータの埋め込みに関する詳細については、「Portfolio の設定」の章を参照してください。

カタログからのアイテムの削除

Portfolio は、カタログからアイテムを削除するための簡単な方法をいくつか提供します。Portfolio カタログからアイテムを削除しても、オリジナル画像は削除されないことに注意してください。ファイルに関する Portfolio の内部記録が削除されるだけです。オリジナルファイルはそのまま残ります。



Portfolio を使用してオリジナルファイルも削除できません。「アイテム」、「オリジナルファイルの操作」、「削除」の順に選択します。これにより、アイテムは Portfolio から削除され、オリジナルファイルはごみ箱に移動されます（Mac、Windows ともに）。Mac の場合、この方法で削除されたネットワークボリューム上のアイテムはごみ箱に移動されず、すぐに削除されます。

オリジナルファイルを削除せずに、アイテムをカタログから削除するには

- ・ ツールバーの「削除」ボタンをクリックします。
- ・ 「アイテム」から「削除」を選択します。
- ・ サムネールを Control キーを押しながらクリックするか（Mac）、右クリックして（Windows）、メニューから「削除」を選択します。
- ・ キーボードの Delete キーを押します。

「削除の確認」警告

上記のいずれかの方法を使用して、「すべてのアイテム」ギャラリーからアイテムを削除するときはいつでも、Portfolio は確認ダイアログボックスを表示して、意図したアクションの実行であることを確認します。ダイアログボックスでは、アイテムをギャラリーから削除するか、ギャラリーとカタログの両方から削除するかを選択できます。



アイテムをギャラリーからもカタログからも削除したくない場合は、「キャンセル」をクリックします。



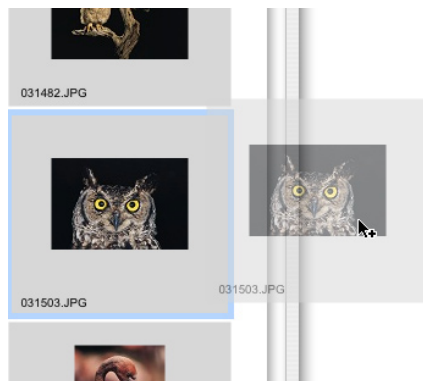
「すべてのアイテム」ギャラリーからファイルを削除する場合、Portfolio はカタログからアイテムを削除する場合にのみプロンプトを表示します。

ディスク上のオリジナルファイルを削除する場合は「キャンセル」をクリックし、代わりに「アイテム」、「オリジナルファイルの操作」、「削除」の順に選択します。

アイテムを削除するたびに「削除の確認」警告を表示したくない場合、Windows では Ctrl キーを押しながら Delete キーを押し、Macintosh では option キーを押しながら Delete キーを押します。これで、警告ダイアログボックスは省略されます。

カタログ化された画像の他のソフトウェアへのドラッグ

Portfolio はファイルの管理と整理を行うための完璧な機能ですが、創造的な作業のほとんどはおそらく Portfolio の外で発生するものです。つまり、画像の編集、文書の作成、プレゼンテーションの作成、印刷物のページレイアウト、Web コンテンツの開発などは、他のソフトウェアで行われます。



Portfolio からこうした他のアプリケーションへの移動は通常、単純なドラッグアンドドロップ操作で済みます。Portfolio を使用して、他のソフトウェアで簡単に画像の作業を行う方法をいくつか以下に示します。

- サムネールをドラッグアンドドロップ対応文書にドラッグし、その文書内に画像のコピーを配置する。
- サムネールを Adobe Photoshop®、Illustrator®、Macromedia FreeHand® といった画像編集ソフトウェアのエイリアス (またはショートカット) の上にドラッグし、そのソフトウェアで画像を開く。
- サムネールをデスクトップまたはフォルダウィンドウにドラッグし、その場所にオリジナルファイルのコピーを作成する。
- サムネールを電子メールメッセージにドラッグし、添付ファイルとして画像のコピーを送信する。
- Portfolio Quark XTension がインストールされている Macintosh の場合、サムネールを QuarkXPress® ドキュメントにドラッグし、画像を XPress レイアウトに配置する。サムネールをピクチャボックスにドロップした場合、選択されている画像は既存のピクチャボックスに配置されます。それ以外の場合、Portfolio は画像に対する独自の新しいピクチャボックスを作成します。



Macintosh の場合に、サムネールを Portfolio から QuarkXPress にドラッグするには、Quark の XTension フォルダにインストールする必要がある XTension として、QX-Drag&Drop がなければなりません。Portfolio XTension を Portfolio CD から Quark XTension フォルダに手動でコピーするか、最新の XTension を Extensis Web サイトからダウンロードする必要があります。



Portfolio Express バレットは、カタログ化されたファイルを他のソフトウェアで使用するためのより簡単な方法を提供します。Portfolio と同様にサムネールを他の文書にドラッグアンドドロップできますが、コンパクトなバレットが他のドキュメントウィンドウの上にフロートするため、他の任意のソフトウェアから 1 つのキーストロークでアクセスできます。詳細については、「Portfolio Express バレットの使用」の章を参照してください。

継続的なカタログの更新

Portfolio カatalogを有用なものにするためには、コンピュータおよびネットワーク上に保存している実際のファイルを正確に表すようにしなければなりません。このためには、Portfolio がカタログ内のすべてのファイルの場所と状態を把握するように、継続的にカタログを更新する必要があります。

次の章で説明するフォルダ同期を使用している場合、カタログの更新維持は簡単です。Portfolio はカタログ化されたファイルを含むハードドライブまたはネットワーク上のフォルダを自動監視し、ファイルが追加、移動、削除、または編集されると常にアラートを出します。「同期」ボタンを一度クリックすれば、ディスク上のファイルに基づいてカタログが更新されます（フォルダ同期の使用法に関する詳細な手順については、次の章を参照してください）。

フォルダ同期を使用しない場合でも、Portfolio には簡単にカタログのアイテムを更新できるいくつかの機能が用意されています。

Portfolio の“更新” ロジックの理解

Portfolio カatalogを用いた作業を行う場合、ファイルが新規アイテムなのか（したがって、カタログ化の必要あり）、単に更新が必要な既存のアイテムなのかについて、Portfolio が識別するしくみを理解することは重要です。

- Portfolio は、カタログ化されたどのアイテムにも一致しないファイル名を持つファイルを新規とみなし、カタログ化します。
- Portfolio は、既存のアイテムに一致するファイル名を持つが、場所（パス）が固有であるファイルについても新規とみなし、カタログ化します。

- Portfolio は、名前と場所の両方が一致するファイルを既にカタログ化済みのアイテムとして認識します。次にファイルの変更日を確認します。変更日が一致するアイテムは無視されます（なぜなら、カタログ内の既存のアイテムと同一であるから）。変更日が異なるファイルは更新されます。

変更されたファイルの更新

なぜカタログ内のアイテムを更新しなければならないかについては、以下のような理由があります。

- カatalog内のファイル、フォルダ、およびボリュームの一部を移動、名前変更、または削除したため
- 一部のファイルを編集したため、こうしたファイルに関する Portfolio の情報（サイズや変更日など）が正確でないため
- カatalog化された画像が変更されたため、Portfolio 内のサムネイルが画像の実際の内容に一致しなくなったため

Portfolio はこうした状況のそれぞれに対応する多数の“更新” コマンドを用意しています。

ファイルの場所を変更するための更新

ファイルが新しい場所に移動されたが他に何も変更がない場合、「パスの変更」コマンドを使用してすばやく更新できます。

1. パスを更新するアイテムを選択します。
2. 「アイテム」から「パスの変更」を選択します。
3. 「更新」ダイアログボックスが開き、指定されたファイルの新しい場所を見つけるように要求されます。
4. ファイルを選択し、「選択」(Mac)または「開く」(Windows)をクリックします。Portfolio 内のアイテムは、オリジナルファイルの正しい場所を指すようになります。

この方法を用いてファイルを更新すると、Portfolio は自動的に同じディレクトリ内で更新する必要がある他のファイルを検索し、同様に更新を提供します。「場所の更新」ダイアログボックスで「サブディレクトリの検索」オプションをオンにしている場合、Portfolio はサブフォルダについても一致するファイルを探します。

ドラッグアンドドロップによるパスの更新

カタログ内にある一部のファイルを移動したことが分かっている場合、新しいパス情報でカタログを更新するためのより簡単な方法があります。それは、ドラッグアンドドロップを使用する方法です。この方法は、カタログ化されたファイルを新しい場所に移動し、ファイル名を変更していない場合に限り使用できます。

1. Macintosh の Finder または Windows エクスプローラで、移動されたファイルのアイコンを選択します。
2. **option** キー (Mac) または **Ctrl** キー (Win) を押しながら、アイコンを Portfolio カタログにドラッグします。

必ず、ファイルが移動される前に、もともとカタログ化されたときと同じカタログの中にファイルをドラッグしてください。

3. Portfolio はダイアログボックスを表示し、これらのファイルのパスを更新することを確認します。
4. 「OK」をクリックします。これによって更新されるのはファイルのパスだけで、サムネールや他の設定は更新されないことに注意してください。



この方法を使用する場合のファイルの一致は、Portfolio の Windows バージョンではファイル名で、Portfolio の Mac バージョンではファイル名と作成日で、それぞれ行われます。Windows 環境でカタログ内に重複したファイル名がないことが確実でなければ、このドラッグアンドドロップによる更新方法を使用しないでください。

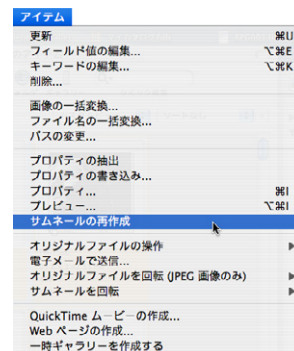
サムネールを再作成するための更新

この更新コマンドにより、Portfolio は選択された各ファイルを再確認し、最新のサムネール画像を作成します。これは最初、112 ピクセルのサムネール設定でアイテムをカタログ化した後、256 ピクセルのサムネールが必要になった場合などに便利です。



この機能は、「カタログ管理」の「プレビュー」タブで「画面プレビューの生成」がオンになっている場合（この設定を変更するには、「カタログ」から「設定」を選択）、既存の Portfolio レコードについて画面プレビューファイルを生成（または更新）するときも便利です。

1. 新規サムネールを作成するアイテムを選択します。
2. 「アイテム」から「サムネールの再作成」を選択します。



3. Portfolio は各ファイルを再確認し、新規サムネールを作成します。

すべての更新

「更新」コマンドは、選択された各アイテムについて、最初にカタログ化された後に変更されたものを完全に更新します。その処理には、各ファイルの場所の確定（必要があれば、ユーザーが特定する）、設定の抽出、新しいサムネールの作成が含まれます。



「更新」コマンドは、カタログ化された後に変更されたアイテム（新しい変更日で示される）のみを更新します。

1. 更新するアイテムを選択します。

すべてのアイテムを更新するには、「ギャラリー」パレットから「すべてのアイテム」ギャラリーを開きます。

2. 「編集」から「すべて選択」を選択します（Mac の場合は command キーを押しながら A キーを押す、Windows の場合は Ctrl キーを押しながら A キーを押す）。

3. 「アイテム」から「更新」を選択するか、command キーを押しながら U キーを押す（Mac）、または Ctrl キーを押しながら U キーを押します（Windows）。

Portfolio は、アイテムに保存されているパス名を使用して、各アイテムのソースファイルを検索します。ソースファイルが見つかり、その変更日が Portfolio 内にもともと記録されている日付より新しい場合、アイテムは更新されます。ソースファイルが見つからない場合は、特定するように要求されます。選択されているアイテムに対して新しいファイルを選択した場合、アイテムは現在の「カタログ作成の詳細オプション」設定に基づき、新しいファイルの情報によって更新されます。

ソースファイルが見つからず、ファイルを特定するように要求されて「このファイルをスキップ」をクリックした場合、選択されたアイテムはそのままの状態になります。

消失ファイルの検索

ファイルのカタログ化後、移動、名前変更、削除が行われると、Portfolio がファイルを追跡できなくなる可能性があります。「消失ファイルの検索」コマンドを使用して、そうした“迷子”のファイルを簡単に特定し、Portfolio に再リンクするか、カタログから削除することができます。



Portfolio はマウントされているボリュームでのみ、消失ファイルの検索を行います。カタログ化されたアイテムソースファイルを含むボリュームがマウントされていない場合、Portfolio はそれらのファイルについて報告しません。

消失ファイルをチェックするには

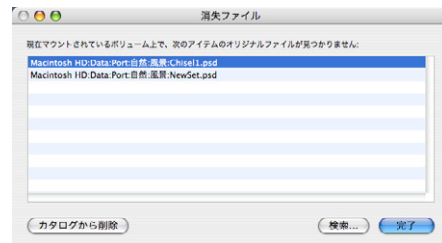
1. 「カタログ」>「その他の検索」>「消失ファイル」を選択するか（Win）、「編集」>「検索」>「消失ファイル」を選択します（Mac）。Ctrl キーを押しながら M キーを押すか（Win）を押して選択することもできます。

Portfolio はカタログ内に保存されている各アイテムのパス名を、マウントされているすべてのボリュームとディスクに対して比較し、ソースファイルがその場所で見つかるかを確認します。結果は「消失ファイル」ダイアログボックスに表示されます。

2. 消失ファイルが見つかった場合は、リスト内の各アイテムを選択します。

「検索」をクリックして、そのファイルの新しい場所を指定します。指定した場所で消失ファイルが見つかった場合は、カタログ内のアイテムが自動的に更新されます。

または、「カタログから削除」をクリックして、Portfolio カタログから選択したアイテムを削除してください。



カタログの印刷

通常はカタログアイテムを検索および選択して、ソースファイルの編集、表示、または別文書での使用を行います。カタログそのものから印刷する場合があります。たとえば、選択した画像をクライアントに見せたり、文書で使用するためにアイテムを評価したりする場合です。

画面上のギャラリーの表示を設定すると、表示設定は、ギャラリーからアイテムを印刷する際にも使用されます。

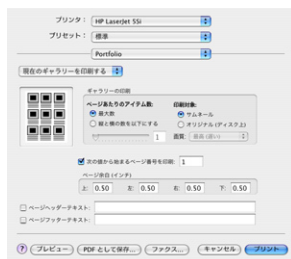
サムネールまたはカタログアイテムのリストを印刷するには

1. ギャラリーに含め、配置するアイテムを選択します。
2. 保存済みのビューを適用するか、ソート、手動によるアイテムの順序付け、フレーム、背景色など、必要な外観になるように表示を設定します。選択する表示「タイプ」(サムネール、アイテム、またはリスト)は、画像が印刷ページ上に配置される様式に直接影響します。
3. ギャラリーで必要な設定を行ったら、「ファイル」から「印刷」を選択します。

印刷オプション

「印刷」ダイアログボックスには、標準プリンタの選択、ページ範囲、コピー数のコントロールのほか、アイテムがページ上に表示される様式を指定するためのオプションが含まれています。

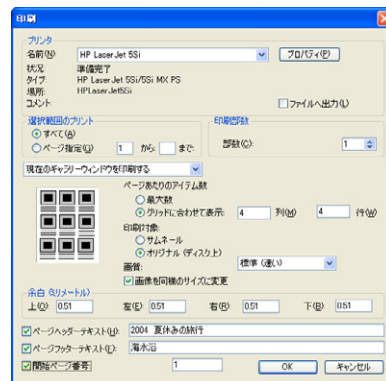
Mac で Portfolio 印刷オプションにアクセスするには、オプションメニューから「Portfolio」を選択します。



「プリンタ」: ドロップダウンボックスからプリンタを選択し、「表示設定」をクリックしてプリンタ固有のオプションを設定します。

「現在のギャラリー表示を印刷」/「ページ単位に指定されたアイテム数」: このドロップダウンボックスにより、1 ページに配置される画像の数、および現在の表示設定を使用するかどうかを指定できます。

「現在のギャラリーを印刷する」は、ギャラリーから任意の保存済みのビューのデータを使用します。他のすべての設定は、ページ単位に特定の数のアイテムをフレームやテキストなしで印刷します。



「ページあたりのアイテム数」: 現在のギャラリー表示の印刷を選択した場合、ページあたりのアイテム数を指定できます。

- ・「できるだけ多く」 このオプションは、すべてのアイテムフレームとテキストを含め、実際のサムネールサイズで可能な限り多くのアイテムを印刷します。
- ・「グリッドに合わせる」 このオプションはサムネールのサイズを変更し、グリッドに配置します。この設定ではフレームが印刷されないことに注意してください。

「印刷対象」: Portfolio がカタログ内に保存されている低解像度のサムネールのみを印刷するか (「サムネール」を選択)、フル解像度の画像を印刷するか (「オリジナル」を選択) を選択できます。

「画質」：この設定は、オリジナル画像を印刷するときに Portfolio が使用する解像度データのレベルを指定します。「最高」の設定にすると、プリンタの負荷が高くなります。一部のプリンタは十分なメモリが搭載されていないため、プリンタにダウンロードされるデータ量に対応できない場合があります。問題が発生する場合は、設定を「高い」または「標準」に切り替えてみてください。

「画像を同様のサイズに変更」：このオプションは、「グリッドに合わせる」オプションを選ぶか、「ページ単位に指定されたアイテム数」を選択した場合に使用できます。このオプションは、横向きの画像と縦向きの画像のレイアウトを、統一のとれた外観にする際に役立ちます。

たとえば、A4 サイズの用紙にページあたり 4 つの画像を配置するレイアウトを選択した場合、縦向きの画像はページ上ですべて同じサイズになりますが、横向きの画像はより狭い幅に合わせる必要があるためにサイズが小さくなります。このオプションを選択すると、縦向きの画像はサイズが変更され、横向きの画像のサイズに近くなります。

「ページ余白」：ページの余白をインチで設定します。デフォルトは、ページの上、下、左、右、いずれも 0.5 インチです。

「ヘッダー」/「フッター」：ヘッダーまたはフッターは、印刷されるページの上部または下部に表示する任意のテキストを含みます。

「ページ番号」：ページ番号の有無（オンまたはオフ）を設定したり、「開始ページ番号」テキストボックスに数値を入力することで、開始ページ番号を設定したりできます。

単一画像の印刷

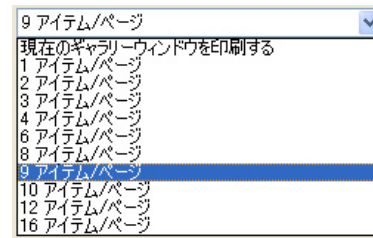
「プレビュー」ウインドウで、「ファイル」から「印刷」を選択することにより、単一のフルサイズ画像を印刷できます。ただし、最高の結果を得るために、「オリジナルの編集」コマンドを使用し、カタログ化された画像を元のアプリケーションで開き、そこから印刷することを推奨します。

コンタクトシートの印刷

“コンタクトシート”は基本的に、画像のグループを視覚的に表示するページです。コンタクトシートは、多数の画像の中から選択する際、クライアントに提供されるほか、特定のギャラリーに含まれる画像の印刷された参照としても提供されます。

コンタクトシートを印刷するには

1. 「ギャラリー」パレットから、コンタクトシートとして印刷するギャラリーを選択します。特に表示を設定する必要はありません。画像はフレームまたはテキストなしで“そのまま”印刷されます。
2. 「ファイル」から「印刷」を選択します。
3. 「印刷」ダイアログボックスで、ドロップダウンメニューからプリンタを選択します。
4. 「現在のギャラリー表示を印刷」ドロップダウンボックスから、各コンタクトシートに含める特定の画像数を選択します。



5. テキストボックスに、アイテム間の最小間隔を入力します。
この最小距離により、画像どうしが重なり合うのを防ぎます。
6. すべての画像をほぼ同じサイズに整える場合は、「画像を同様のサイズに変更」チェックボックスをオンにします。
7. 特定のヘッダー、フッター、ページ番号、および余白の設定を入力し、「OK」をクリックします。

PixelLive および PixelSafe ファイル

強力なファイル圧縮

Portfolio には組み込みの強力圧縮ファイル形式、PixelLive (VFZ) があります。このファイル形式は、画像が視覚的にロスレス圧縮になる圧縮形式です。

さまざまなファイルのサイズや画質に合わせて、6つの圧縮レベルを選択できます。PixelLive ファイルの場合は最も高い画質レベルでも、TIFF ファイルと比較して約 60% ファイルサイズが減少します。最も高い圧縮レベルでは、容易に電子メールに添付できる画質になります。



パスワード保護

パスワード保護の階層が PixelSafe (PFZ) ファイル形式に追加されます。

PixelSafe ファイルのパスワード認証はローカルに保存され、ユーザー名とパスワードを画像ファイルに埋め込みます。

PixelLive、PixelSafe、MrSID ファイルの作業

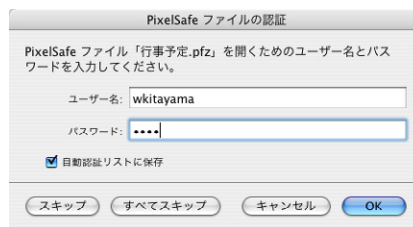
Portfolio では、PixelLive (VFZ)、PixelSafe (PFZ)、または MrSID (SID) ファイル形式で保存されたファイルをカタログ化できます。

PixelSafe は固有のパスワードで保護され、MrSID はパスワード保護が可能です。Portfolio は、こうしたファイルタイプを開くために必要なパスワード情報を記憶する機能を持っています。

PixelSafe ファイルまたはパスワードで保護されている MrSID ファイルをカタログ化するには

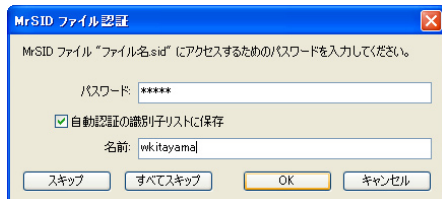
PFZ ファイルまたは SID ファイルをカタログ化しようとすると、Portfolio はユーザー名とパスワードを要求します。

1. 「追加」ボタンを使用するか、ファイルを Portfolio にドラッグすることにより、開いているカタログにファイルを追加します。
2. プロンプトが表示されたら、PFZ ファイルの場合は、適切なユーザー名とパスワードを入力します。



MrSID ファイルの場合は、パスワードのほか、ファイル名も入力します。ファイル名を入力すると、ファイルが識別子リストに保存されます。

3. Portfolio にこのパスワード情報を自動的に記憶させるには、「自動認証の識別子リストに保存」チェックボックスをオンにします。



チェックボックスをオンにすると、ユーザー名 / ファイル名は、「環境設定」ダイアログボックスの「認証」タブ上のリストに追加されます。

4. 「OK」をクリックして、ファイルをカタログ化します。



パスワードは Portfolio アプリケーションとともに保存され、カタログ内には保存されません。共有カタログについて、各ユーザーは適切な PixelSafe または MrSID パスワードを入力する必要があります。

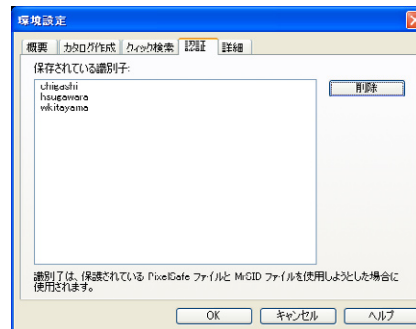
PixelSafe ファイルまたはパスワードで保護された MrSID ファイルがオートシンクまたは「自動カタログ化」でカタログ化された場合、初めてファイルを表示しようとするまで、パスワードは要求されません。



ネットワーク保護された PixelSafe ファイル (PADS) は、Portfolio でサポートされていません。

PixelSafe または保存された MrSID のパスワードを削除するには

1. Windows の場合は、「編集」から「環境設定」を選択します。
— または —
Mac の場合は、「Portfolio」から「環境設定」を選択します。
2. 「環境設定」ダイアログボックスで、「認証」タブを選択します。



3. 「ユーザー名」 / 「パスワードラベル」をクリックしてハイライト表示し、「削除」をクリックします。
4. 完了後、「OK」をクリックします。

QuarkXPress ファイルからのサムネールの抽出

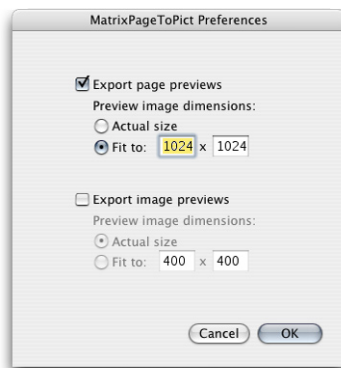
MatrixPage2Pict XTension を使うと、QuarkXPress ファイルからサムネールを抽出し、Portfolio カタログに表示することができます (QuarkXPress 日本語版ファイルには対応していません)。この XTension は QuarkXPress ファイルに PICT プレビューを埋め込み、Portfolio はそれをサムネールとして使用します。



現時点では、MatrixPage2Pict XTension は Mac OS X 用の QuarkXPress でのみ使用できます。

QuarkXPress のサムネールを抽出するには

1. Extensis の Web サイトから MatrixPage2Pict XTension をダウンロードするか、Portfolio インストールディスクの「Third Party Applications」フォルダから探します。
2. この XTension を、QuarkXPress アプリケーションフォルダ内の「XTension」フォルダにコピーします。
3. QuarkXPress を起動します。
4. 「ユーティリティ」>「MatrixPage2Pict」を選択します。
5. 「MatrixPage2Pict Preferences」ダイアログボックスで、「Export page previews」オプションをオンにし、任意の画像サイズを選択したら、「OK」をクリックします。



すでにカタログ化している QuarkXPress ファイルにサムネールを生成するには

1. Portfolio のカタログからアイテムを選択して、「アイテム」>「オリジナルファイルの操作」>「編集」を選択し、元の QuarkXPress ファイルを開きます。
2. QuarkXpress で「ファイル」>「保存」を選択します。
ファイルを保存すると、MatrixPage2Pict XTension により、PICT プレビューがファイルに自動的に埋め込まれます。
3. Portfolio のカタログからそのアイテムを選択して、「アイテム」>「サムネールの再作成」を選択します。

Portfolio が QuarkXPress ファイルからプレビュー画像を抽出し、新しいサムネールが作成されます。

フォルダ同期の使用

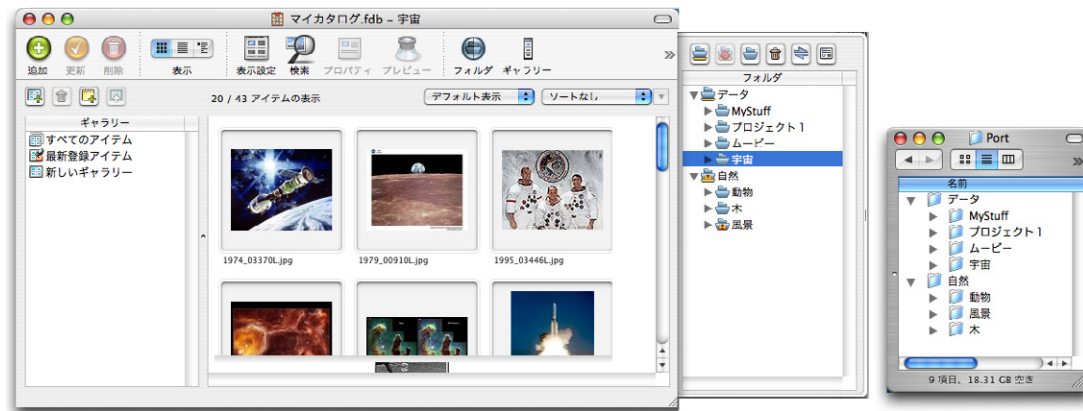
フォルダ同期はPortfolioの最も重要で強力な機能の1つです。コンピュータやネットワーク上の任意のフォルダの内容をPortfolioのカatalogと同期させたり、その逆を行える素晴らしい機能です。

フォルダ同期とは

フォルダ同期はコンピュータシステム上の特定のフォルダとPortfolio Catalogのアイテムの間にリンクを作成します。フォルダ同期の「フォルダパレット」にフォルダを追加すると、Portfolioからサムネイルをそのフォルダにドラッグするだけで、アイテムをそのフォルダに移動することができます。

逆に、コンピュータシステム上で（MacのFinderまたはWindowsエクスプローラを用いて）そのフォルダに移動したファイルは、自動的にPortfolioでCatalog化され、Portfolio Catalogの内容はディスク上のフォルダの内容と完全に一致します。

フォルダ同期はディスク上にあるフォルダとファイルを表示するだけではありません。フォルダ同期を使えばフォルダの作成、移動、削除を行うことができ、事実上Portfolioからディスクファイルの管理、およびCatalog化されたファイルを希望する場所に置くことが可能になります。



Portfolioのフォルダパレットはシステムまたはネットワーク上の選択された階層構造のフォルダを正確に反映しているので、Portfolioからファイル管理を行うことができます。

フォルダ同期の典型的な使用方法

- Portfolio カタログからサムネールをフォルダにドラッグして、Portfolio でディスク上のファイルを整理する。
- ハードディスク（またはネットワーク）から既存の階層構造のフォルダを Portfolio の「フォルダパレット」に追加し、「同期」ボタンを一度クリックするだけで、すべてのフォルダの内容をカタログ化する。
- Portfolio でネットワーク上の任意の数のフォルダを監視し、これらのフォルダにファイルが追加されたり、これらのフォルダのファイルが変更されたり削除されるたびに、視覚的に警告を行う。
- Portfolio を終了することなく、または Portfolio カタログを手動で更新することなく、カタログ化されたファイルをネットワーク上のフォルダから別のフォルダへと移動する。
- ワークグループの他のユーザーが、フォルダ同期が監視しているフォルダに対し、ファイルをドロップするだけで、カタログにアイテムを追加できるようにする。「同期」ボタンを一度クリックするだけで、それらのファイルをカタログに移動できます。

フォルダパレットの表示

フォルダ同期を使用するためには、フォルダパレットを表示する必要があります。まだ表示されていない場合は、「表示」から「フォルダ」を選択してください。

最初、フォルダパレットは空白です。Portfolio と同期させるハードディスクまたはコンピュータネットワーク上にある任意のフォルダは、追加された後にこのパレット内に表示されます。

新しい監視フォルダの追加

フォルダ同期の使用を開始するためには、システム上のどのフォルダを Portfolio に「監視」させるかを指定する必要があります。Portfolio に階層構造になっているフォルダを監視させるには、最上層のフォルダを Portfolio に指定します。

新しい監視フォルダをフォルダパレットに追加するには

1. フォルダパレットの 1 番上にある、「監視フォルダの追加」ボタン  をクリックします。
2. Portfolio と同期させたいシステム上のフォルダを選択します。

ダイアログボックスが開いて、フォルダを選択するように求められます。Portfolio に階層構造になっているフォルダをすべて監視させるには、階層構造の最上層のフォルダを選択します。Portfolio は自動的にサブフォルダを「見て」、それらもフォルダパレットに含めます。「選択」ボタン (Macintosh) または「OK」ボタン (Windows) をクリックして、フォルダを選択します。



また、ダイアログボックスで「新規フォルダ」ボタンをクリックして、システム上に新しいフォルダを作成し、それを Portfolio のフォルダパレットに加えることもできます。



共有カタログでは、フォルダ同期フォルダではなく、オートシンクフォルダを使用することをお勧めします。詳細は、この章の終わりにある「オートシンクフォルダ」を参照してください。

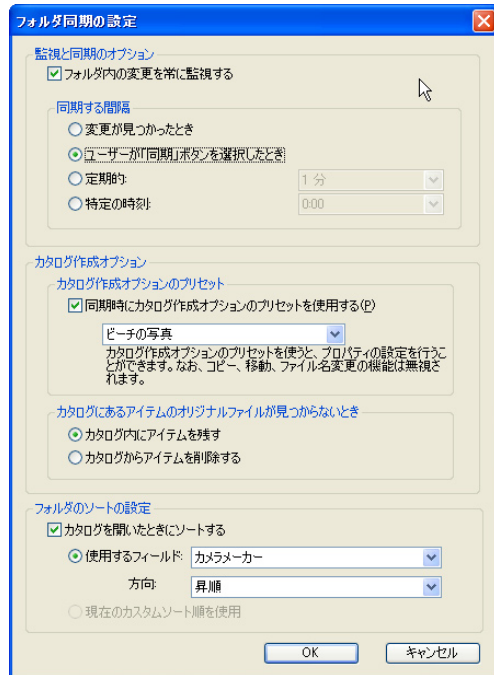
3. 「フォルダ同期の設定」ダイアログボックスで、Portfolio がフォルダを監視する方法と、新しいファイルが見つかったとき、またファイルが削除されたときの動作を指定します。

監視および同期オプション

「フォルダ内の変更をつねに監視する」オプションを使うと、「フォルダ同期」フォルダで変更をスキャンする時間を指定できます。変更が検出されたときには、フォルダ表示でフォルダ名がハイライト表示されます。

同期する間隔

このオプションを使うと、フォルダ同期（一番上の階層にあるフォルダ）にあるアイテムをカタログに追加する間隔、またはカタログから削除する間隔を設定できます。



同期時にカタログ作成オプションのプリセットを使用する

このオプションを選択すると、保存されたプリセットをカタログ化する時に使用できます。カタログ作成時のプリセットを作成して保存しておくと、そのプリセットがドロップダウンリストに含まれます。

コピー、移動、ファイル名の変更機能を含んだプリセットも選択できますが、同期時に使用する際にはプリセットのこうした機能は無視されます。つまり同期時には、カタログ作成プリセットのフィールド名、説明、キーワードなど

のプロパティ割り当て機能のみが使用されます。プロパティ割り当て機能を含んでいないプリセットは、ドロップダウンリスト内に表示されません。

カタログ作成オプションのプリセットの作成と保存に関する詳細は、本ユーザーガイドの「Portfolio の設定」を参照してください。

カタログにあるアイテムのオリジナルファイルが見つからないとき

このオプションを使うと、フォルダ同期時にオリジナルのファイルが見つからない場合、アイテムをそのままにしておくか、削除するかを指定できます。

4. 「OK」をクリックしてフォルダ同期を設定し、もう一度「OK」をクリックして「フォルダ同期」フォルダを作成します。

選択したフォルダはフォルダパレットのリストに表示されます。

監視フォルダは小さいバインダーアイコン  でフォルダパレットに表示されます。

すべてのサブフォルダは「サブフォルダ」アイコン  で表示されます。

5. 「同期」ボタン  をクリックして、新たに追加されたフォルダの内容を現在の Portfolio カタログと同期させます。

新しいフォルダがフォルダパレットに追加されたときは必ず、その名前は太字で表示され、そのフォルダがまだ Portfolio と同期されていないファイルを含んでいることを表します。

「同期」ボタン  をクリックすると、Portfolio は選択したフォルダの内容を調べて、フォルダ内のまだカタログ化されていないすべてのアイテムをカタログ化します。



フォルダパレットに空のフォルダを追加した場合は、太字で表示されません。そのフォルダには Portfolio と同期する必要のあるファイルがまだ含まれていないためです。

6. フォルダ同期ダイアログボックスに、Portfolio がカタログ化するファイルがリストで表示されます。カタログ化作業を開始するには「同期」ボタンをクリックしてください。

監視フォルダのフォルダ同期設定の編集

フォルダ同期監視フォルダの設定は、いつでも編集することができます。

1. 設定を編集する監視フォルダを選択します。階層の最上位を選択していることを確認してください。
2. フォルダパレットの「監視フォルダの設定」ボタン  をクリックします。
3. 「フォルダ同期の設定」ダイアログボックスで設定を編集し、「OK」をクリックします。

監視フォルダの削除

監視フォルダをフォルダパレットから削除すると、Portfolio はディスク上のそのフォルダの監視を停止し、それ以降フォルダをカタログの内容と同期させません。



監視フォルダを削除しても、そのフォルダはハードディスクまたはネットワークから削除されません。また、フォルダに含まれるどのファイルも削除しません。単にフォルダと Portfolio の「接続を切る」だけです。

フォルダパレットから監視フォルダを削除するには

1. フォルダパレット内で削除する監視フォルダを選択します。
サブフォルダではなく監視フォルダを選択したことを確認してください。
2. フォルダパレットの 1 番上にある「監視フォルダの削除」ボタン  をクリックします。



「フォルダの削除」ボタンではなく、必ずフォルダパレットの「監視フォルダの削除」ボタンを使ってください。

3. Portfolio は、フォルダパレットのリストから削除するフォルダをこれ以降は監視しない、という警告を表示します。「OK」をクリックします。
4. 監視フォルダはもうフォルダパレットのリストに表示されません。これは、Portfolio がもうその内容を監視していないことを示します。削除されたフォルダに保存されていたアイテムはカタログから削除されません。

フォルダパレットによるフォルダの内容の表示

監視フォルダを（ハードディスクまたはネットワークから）フォルダパレットに追加すれば、Portfolio を使ってそのフォルダ内にある任意のフォルダや監視フォルダ自体の内容をすばやく表示することができます。

フォルダおよびすべてのサブフォルダの内容を表示するには

1. フォルダパレット内のフォルダをクリックします。
2. 選択されたフォルダとそのすべてのサブフォルダ内のファイルが、現在の Portfolio ギャラリーに表示されます。



サブフォルダのアイテムを除いて、選択されたフォルダ内のファイルだけを表示するには、フォルダを Ctrl キーを押しながらクリックするか（Win）、または Option キーを押しながらクリックします（Mac）。



フォルダパレットでフォルダの名前が太字で表示されている場合は、最後に「同期」ボタンをクリックした後で、システム上の対応するフォルダにファイルが追加されたか、そのフォルダ内のファイルが削除または変更されたことを示しています。Portfolio カタログを更新してそれらの変更を反映させるには、そのフォルダをダブルクリックする前、またはその後で「同期」ボタンをクリックします。

1つのフォルダの内容だけを表示するには

1. Option キーを押しながら (Macintosh) または Ctrl キーを押しながら (Windows)、フォルダパレットでフォルダをクリックします。
2. 選択されたフォルダのファイルだけが現在の Portfolio ギャラリーに表示されます。

フォルダパレットによるファイルのコピー

フォルダパレット内のフォルダ間でファイルをコピーするには、Mac では Option キーを押しながら、Windows では Ctrl キーを押しながらファイルをドラッグします。これは、Finder または Windows エクスプローラでファイルをコピーするのと同様です。



フォルダパレット内のフォルダ間でファイルをコピーする場合には、そのファイルのコピーを作成しています。その結果として、オリジナルファイルのコピーが2つ、Portfolio カタログのレコードが2つできます。ファイルやレコードをコピーしたくない場合は、前のページで説明したようにコピーではなく、必ずファイルを移動してください。

フォルダパレットによるファイルの移動

Portfolio を使えばフォルダパレットに表示されている任意のフォルダへ、または任意のフォルダから、カタログ化されたファイルを簡単に移動したり、コピーしたりできます。言い換えると、ファイルを整理するときに、Macintosh の Finder や Windows エクスプローラに切り替えて、ファイルをフォルダからフォルダへ移動する必要はありません。Portfolio で行うことができます。

フォルダパレットを使ってアイテムをフォルダに移動するには

1. カタログ化された任意のアイテムのサムネールをフォルダパレットで表示されているフォルダにドラッグします。
2. Portfolio は自動的にファイルをコンピュータシステム上の対応するフォルダに移動し、ファイルの新しい場所を反映するように Portfolio カタログを更新します。

ファイルを1つのフォルダから別のフォルダに移動するには

1. フォルダパレットでフォルダをダブルクリックして、現在の Portfolio ギャラリーで、選択したフォルダ内のファイルを表示します。
2. カタログ化された任意のアイテムのサムネールをフォルダパレットで表示されている別のフォルダにドラッグします。
3. Portfolio は自動的にファイルをコンピュータシステム上の対応するフォルダに移動し、ファイルの新しい場所を反映するように Portfolio カタログを更新します。



ボリューム間でのファイルの移動は Macintosh の Finder または Windows エクスプローラと同様で、オリジナルを削除または移動することなく、ファイルを新しい場所にコピーします。

フォルダ同期による新しいフォルダの作成

フォルダ同期を使用すれば、Portfolio 内で新しいフォルダ、または既存のフォルダの新しいサブフォルダを作成して、これらのフォルダでディスク上の画像を分類したりカテゴリ化したりできます。これらのフォルダを設定するために、Macintosh の Finder や Windows エクスプローラに切り替える必要はありません。Portfolio のフォルダパレットから、ハードディスクまたはネットワーク上のフォルダの追加、削除、移動ができます。

新しい監視フォルダを作成するには

1. フォルダパレットで既存のフォルダが選択されていないことを確認してください。
2. フォルダパレットの1番上にある、「監視フォルダの追加」ボタン  をクリックします。
3. フォルダ選択ダイアログボックスで、新しいフォルダの場所を指定して、「新規」ボタン (Mac) または「新規フォルダ」ボタン (Windows) をクリックします。「OK」をクリックして選択内容を確定します。
4. 作成したフォルダは、フォルダパレットで新しい監視フォルダとして表示されます。

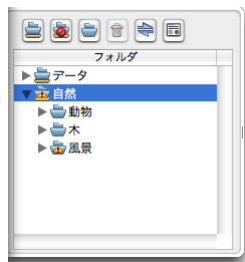
新しいサブフォルダを作成するには

1. フォルダパレットですでに表示されているフォルダの1つを選択します。
2. フォルダパレットの1番上にある、「新規サブフォルダ」ボタン  をクリックします。
3. 新しいフォルダが、選択されたフォルダのサブフォルダとして作成されます。

フォルダの同期

フォルダパレットでフォルダの名前が太字に変化した場合は、最後にそのフォルダを同期した後に、そのフォルダ内のファイルに何らかの変更が行われたことを示しています。行われた可能性のある「変更」には以下のものがあります。

- ・ カタログ化されたファイルが変更された。
- ・ Finder (Mac) またはエクスプローラ (Windows) を使用して、ファイルがそのフォルダから削除された。
- ・ 新しいファイルがそのフォルダに追加された。
- ・ 既存のファイル名が変更された。



これらの変化を反映するように Portfolio カタログを更新するには

1. 同期する必要があるフォルダを選択します。太字で名前が表示されているフォルダのみ同期が必要です。同期する必要がある複数のフォルダを選択するには、親フォルダを選択します。サブフォルダは自動的に同期に含まれます。
2. 「同期」ボタン  をクリックします。
3. フォルダ同期ダイアログボックスで行われた変更を確認します。

ダイアログボックスには、最後に同期された後にフォルダに加えられたすべての変更が一覧表示されます。削除されたファイルは赤い「×」、フォルダに追加されたファイルは緑の「+」の印付きで表示されます。変更された、または名前を変更されたファイルは、名前の横に黄色のチェックマーク付きで表示されます。



何らかの理由で、これらの変更を Portfolio に反映したくない場合は（たとえば、間違ったファイルが偶然にフォルダに置かれた場合など）、「キャンセル」をクリックすれば、Portfolio カタログは変更されません。

4. フォルダ同期ダイアログボックスで、「同期」ボタンをクリックします。

ボタンをクリックすれば、Portfolio はフォルダのすべての新しいファイルをカタログ化し、すべての変更された、以前にカタログ化されたファイルのアイテムを更新します。移動されたファイル、または消失したファイルは、ダイアログボックスの 1 番下の「消失ソースファイルのアイテム削除」チェックボックスがオンになっている場合にのみ削除されます。

5. フォルダパレットで選択されたフォルダは、内容が Portfolio カタログと同期されたので、もう太字では表示されていません。

フォルダ同期の使用に関する重要な注意事項

- 同期されたフォルダは少しの間「太字」のままである場合があります。これは、Portfolio が同期による変更を確認するためにフォルダを再スキャンするからです。



同期されるディレクトリに多くのフォルダやファイルがある場合は、この遅延時間は長くなる場合があります

- ファイルがフォルダから削除されていて、「フォルダ同期」ダイアログボックスの「消失ソースファイルのアイテム削除」チェックボックスをオンにせずに「同期」コマンドを使用した場合、フォルダは「非同期」として太字のまま残ります。これは、フォルダにはすでに存在しないファイルのアイテムを Portfolio がまだ含んでいるためです。完全にフォルダを同期するためには、「消失ソースファイルのアイテム削除」チェックボックスを有効にして、もう一度フォルダを同期してください。
- 「フォルダ同期」ダイアログボックスを表示するかどうかを指定するフォルダ同期の環境設定（「環境設定」ダイアログボックスの「カタログ作成」タブで指定）は、ローカルオプションであるため、公開されているカタログのオートシンクフォルダには適用されません。

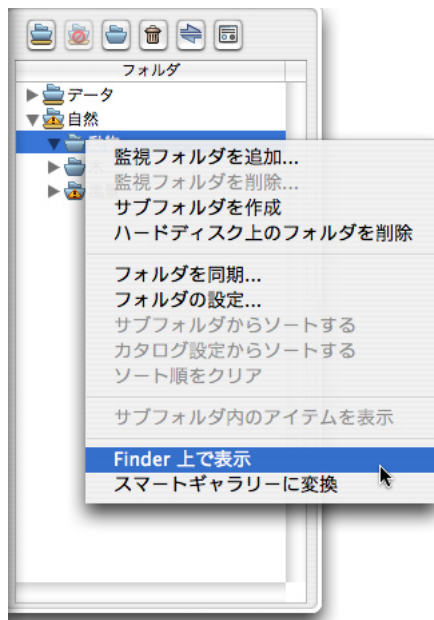
- Portfolio を使用せずに（Macintosh の Finder または Windows エクスプローラを用いて）ファイル名を変更した場合は、Portfolio は同期の際に、名前が変更されたファイルを「新規」ファイルとして扱います。名前を変更されたファイルを含むフォルダを同期する場合は、そのファイルのアイテムは、キーワード、説明および他のすべての保存されたデータとともに削除され、新しい名前のファイルに対応する新しいアイテムが作成されます。したがって、このような変更を行う場合は、Portfolio 内のファイル名を変更の機能を使用することを推奨します。
- 1 つのフォルダ同期のフォルダから別のフォルダ同期のフォルダに Portfolio を使用せずに（Macintosh の Finder または Windows エクスプローラを用いて）ファイルを移動した場合、Portfolio はファイルが移動されたと認識して、2 つのフォルダを太字表示にします。1 つはファイルが削除されたフォルダで、もう 1 つはファイルが追加されたフォルダです。Portfolio が適切にカタログを更新するためには、これらのフォルダ両方の親フォルダを同時に同期する必要があります。そうしない場合は、Portfolio はファイルの元の場所のアイテムを削除し、新しい場所のファイルのアイテムを新たに作成します。これによりカタログは最新状態を維持しますが、オリジナルアイテムに保存されていた情報を失う場合があります。Portfolio を用いて、1 つのフォルダ同期のフォルダから別のフォルダ同期のフォルダにファイルを移動する場合は、Portfolio は常にアイテムを適切に更新します。
- フォルダ同期のフォルダにネットワークアクセスできない場合は、フォルダパレット内のリストでそのフォルダは暗く表示されます。カタログの一部であるそのフォルダ内のアイテムのサムネールを見ることはできませんが、アイテムを開いたり変更したりすることはできません。
- 共有カタログでは、フォルダ同期フォルダではなく、オートシンクフォルダを使用することをお勧めします。詳細は、この章の終わりにある「オートシンクフォルダ」を参照してください。

Windows エクスプローラまたは Macintosh Finder への切り替え

Portfolio のフォルダパレットから Windows エクスプローラや Macintosh の Finder に簡単に切り替えて、ファイルがディスク上の実際のフォルダでどう表示されるかを確認することができます。

Windows: フォルダパレットで一覧表示されている任意のフォルダの名前を右クリックします。メニューから「エクスプローラで表示」を選択します。

Mac: フォルダパレットで一覧表示されている任意のフォルダの名前を、Ctrl キーを押しながらクリックします。メニューから「Finder 上で表示」を選択します。



オートシンクフォルダ

オートシンクフォルダは、Portfolio Server が自動的に同期するフォルダ同期フォルダです。オートシンクフォルダの利点は、すべての処理が Portfolio Server によって行われる点です。これにより、Portfolio Server がオートシンクフォルダを自動的に更新している間に、カタログで他の仕事を行うことができます。

オートシンクフォルダは、共有カタログでの使用に適しています。一方、フォルダ同期フォルダは、クライアントによって同期されるため、共有カタログでの使用には適していません。フォルダ同期フォルダは、Portfolio Server がフォルダのあるハードディスクに直接アクセスできない場合にのみ、共有カタログで使用するようにしてください。なおフォルダ同期フォルダを共有カタログに追加するには、管理者レベルのアクセス権が必要です。

オートシンクフォルダの作成と使用に関する詳細については、『Portfolio Server ユーザーガイド』を参照してください。

Portfolio によるファイルの整理

Portfolio の主な目的の1つは、ファイルのソート、整理、カテゴリライズ、および管理をサポートすることです。これにより、ファイルを失ったり、間違った場所に置いたりする問題を解消し、必要なときにファイルを探し出して配布するプロセスを合理化でき、より効率的に作業を行うことが可能になります。

この章では、最小の労力でファイルを整理する Portfolio の数多い機能の使用方法を取り上げます。これらの機能には以下のものがあります。

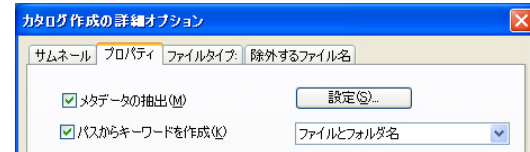
- キーワード
- カスタムフィールド
- ギャラリー
- カテゴリ
- 「プロパティ」ダイアログボックス
- 「フィールド値の編集」ウインドウ

キーワード

キーワードは、カタログ化されたファイルに割り当てることができる説明の単語またはフレーズで、ファイルをカテゴリ化したり分類したりするものです。たとえば、日没時の熱帯地方の海岸の画像があったとすると、砂浜、海岸、海、日没、熱帯、休暇、レクリエーション、アウトドアなどのキーワードをその画像に割り当てても構いません。これらの単語は、画像を他の関連する画像とグループ化したり、ファイルを検索したりするのを容易にします。Portfolio では、アイテムに割り当てることのできるキーワードの数に制限はありません。

キーワードの自動的な追加

Portfolio でキーワードをまだ1つも入力していなくても、カタログの画像はすでにいくつかのキーワードを持っている場合があります。これは、Portfolio がアイテムをカタログ化するときに、自動的にキーワードを追加する2つの機能を持っているからです。



「メタデータの抽出」

このオプションをオンにすると、Portfolio は特定の種類の文書に埋め込まれているキーワードと他のメタデータを抽出します。Adobe Photoshop や Illustrator などのグラフィックソフトウェアや、デジタルカメラはファイルにメタデータを自動的に埋め込みます。EXIF、IPTC、および XMP メタデータはすべて Portfolio によって読み込まれ、抽出されます。

「パスからキーワードを作成」

この「カタログ作成の詳細オプション」を使えば、Portfolio はファイルをカタログ化する際に、ファイルの名前とディスク上の場所に基づいて各ファイルにキーワードを追加します。



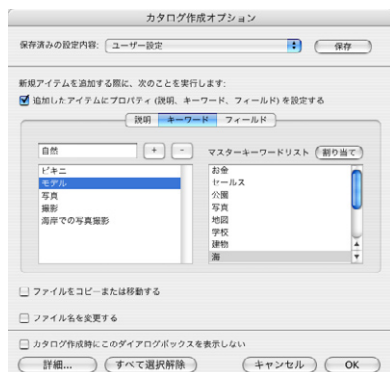
キーワードの抽出と作成に関する詳細については、このガイドの「Portfolio の設定」の章を参照してください。

キーワードを追加する 7 つの方法

Portfolio には、カタログのアイテムにキーワードを追加する便利な方法がいくつかあります。

方法 1: カタログ化の際にキーワードを追加

Portfolio の「カタログ作成オプション」を使用すれば、複数のアイテムに対してそれらがカタログ化されるときにキーワードを割り当てることができます。詳細については、「Portfolio の設定」の章の「プロパティの割り当て」を参照してください。

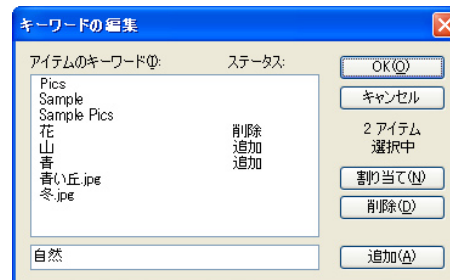


方法 2: 「キーワードの編集」コマンドの使用

この方法は、数多くのファイルに同じキーワードを追加する場合に便利です。

1. ギャラリーでキーワードを割り当てるアイテムを選択します。
2. 「アイテム」から「キーワードの編集」を選択するか、⌘ キーと Option キーを押しながら K キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーと Shift キーを押しながら K キーを押します (Windows)。

「キーワードの編集」ダイアログボックスが開きます。選択されたアイテムのうち少なくとも 1 つのアイテムにすでに割り当てられているキーワードがキーワードリストに表示されます。



3. テキストボックスにキーワードを入力して、「追加」をクリックします。

キーワードの「ステータス」が「追加」に変化し、そのキーワードがカタログに追加され、選択されたアイテムに割り当てられることを示します。

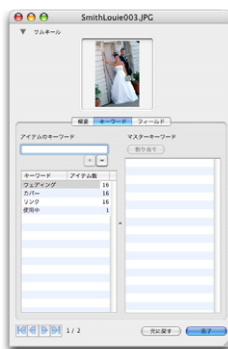


キーワードを追加した後で「割り当て」をクリックする必要はありません。「追加」は「割り当て」を意味します。つまり、「ステータス」フィールドが「追加」または「割り当て」になっているキーワードは、ダイアログボックスが閉じられるときにアクティブなギャラリーの選択されたすべてのアイテムに割り当てられます。「追加」はそのキーワードが単に新しいキーワードであることを示しているだけです。

4. キーワードの追加が完了したら、「OK」をクリックします。

方法 3:「プロパティ」ダイアログボックス

「プロパティ」ダイアログボックス(「アイテム」から「プロパティ」を選択)を使用して、各アイテムにキーワードを追加することができます。この方法は、各々のアイテムに複数のキーワードを割り当てる場合に特に便利です。詳細については、この章の「「プロパティ」ダイアログボックスの使用」のセクションを参照してください。

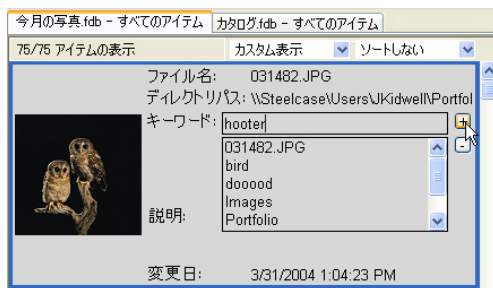


方法 4:「アイテム表示」の使用

「アイテム表示」を使用しているときにも、任意のアイテムのキーワードを編集することができます。

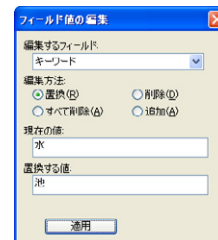
1. キーワード編集機能をアクティブにするには、アイテムの「キーワード」フィールドの任意の場所をクリックします。
2. キーワードを追加するには、テキスト入力フィールドにキーワードを入力して「+」ボタンをクリックします。

「アイテム表示」にある任意の編集可能なデータフィールドを同じ方法で編集できます。



方法 5:「フィールド値の編集」によるキーワード追加

「フィールド値の編集」コマンドを使えば、選択したすべてのアイテムに対するキーワードの追加、削除、または置換が容易になります。このコマンドの使用方法については、この章の「「フィールド値の編集」コマンドの使用」のセクションを参照してください。



方法 6: マスターキーワードパレットの使用

カタログの管理者がマスターキーワードのセットを作成した場合は、それらをマスターキーワードパレットで使用できます。「ウインドウ」から「マスターキーワードリストパレットを表示」を選択するか、Ctrl キーを押しながら K キー (Win)、または shift キーと command キーを押しながら K キー (Mac) を押してパレットを表示します。

マスターキーワードを設定するには、カタログに対する管理者アクセス権が必要です。マスターキーワードの作成の詳細については、「カタログの管理」の章を参照してください。

マスターキーワードパレットからキーワードを割り当てるには

1. キーワードを追加するアイテムを選択します。
2. アイテムに割り当てる単語をマスターキーワードパレットで選択します。
3. パレットの「割り当て」ボタンをクリックします。



マスターキーワードパレットからのキーワードのドラッグアンドドロップによっても、キーワードを割り当てることができます。

1. マスターキーワードパレットからキーワードをドラッグして、そのキーワードを割り当てるアイテムの任意のサムネールにドロップします。
2. 複数のアイテムにキーワードを割り当てる場合は、まずギャラリーでアイテムを選択して、選択された任意のアイテムの上にキーワードをドロップします。キーワードは選択されたすべてのアイテムに自動的に割り当てられます。

方法 7: テキストのドラッグアンドドロップ

Microsoft Word のようなドラッグアンドドロップに対応した任意のソフトウェアからテキストを選択して、Portfolio のサムネール上にドラッグして、そのテキスト中の単語をキーワードとして割り当てることができます。

キーボード入力を避ける 5 つの方法

キーワードで入力するのが退屈だと思った場合（ほとんどのユーザーがそうです!）、このセクションで参照しているいくつかのテクニックは、キーワードの手動による入力を最小限に抑えるために特にデザインされたものなので留意してください。

- カタログ化するときにファイル名とフォルダ名をキーワードに変換する。
- 「カタログ作成オプション」を使用して、カタログ化するときにキーワードを割り当てる。
- 既存のマスターキーワードリストをマスターキーワードパレットにインポートする。
- キーワードをサムネールにドラッグアンドドロップして割り当てる。
- 「フィールド値の編集」コマンドを用いて、キーワードを複数のアイテムに割り当てる。

キーワードの削除

不要なキーワードを削除するには 4 つの簡単な方法があります。

- 「フィールド値の編集」コマンドを用いて、選択された複数のアイテムからキーワードを削除する。この章の「「フィールド値の編集」コマンドの使用」のセクションを参照してください。
- 「プロパティ」ダイアログボックスのキーワードタブでキーワードを選択し、「削除」をクリックする。Shift キーを押しながらクリックして複数のキーワードを選択するか、⌘ キー (Mac) または Ctrl キー (Windows) を押しながらリスト上で連続していない複数のキーワードを選択して、複数のキーワードを同時に削除できます。
- 「キーワードの編集」ダイアログボックスでキーワードを選択し、「削除」をクリックする。
- Windows では、「アイテム表示」でキーワードを選択し、「-」ボタンをクリックして削除する。

キーワードの表示

選択されたアイテムに割り当てられたキーワードを以下の場所に表示することができます。

- キーワードが、サムネール表示、アイテム表示またはリスト表示（「表示」から「アイテム」を選択）の中に含まれている場合は、各表示の中。
- 「プロパティ」ダイアログボックス（「アイテム」から「プロパティ: キーワード」を選択）のキーワードタブの中。
- 「キーワードの編集」ダイアログボックス（「アイテム」から「キーワードの編集」を選択）の中。

キーワードが表示される場合、各キーワードの横に表示される数字は、カタログ内でそのキーワードが割り当てられたアイテムの数を表します。

アイテムのキーワード		マスターキーワード
キーワード	アイテム数	
ウェディング	16	
カバー	16	
リンク	16	
使用中	1	

キーワードリストに表示される数字は、カタログでの各単語の使用回数を表します。

カスタムフィールド

カスタムフィールドを使用すれば、カタログ化するアイテムに使用する任意の種類の情報（日付、数字、テキストブロック、または URL）を保存することができ、ファイルの整理、カテゴリ化、および検索をより柔軟に行うことができます。

カスタムフィールドは、厳密には「キーワード」や「説明」ではない情報によってファイルを整理する場合、完璧に整理します。たとえば、カタログ化されたファイルに関連する Web サイトの URL のフィールドを追加したり、デジタル写真のカタログに「写真家」のフィールドを追加したり、価格情報や品番を保存するフィールドを追加したりする場合があります。

Portfolio で作成できる 6 つのタイプのカスタムフィールド

- ・「日付/時刻」：日付/時刻などを入力します。たとえば、このフィールドタイプを、画像の発行日のためのカスタムフィールドを作成するために使用できます。
- ・「小数」：小数を含む数値を入力します。このフィールドタイプは、ストックされた画像価格のカスタムフィールドに役に立ちます。
- ・「数値」：普通の数値を入力します。このフィールドタイプはカタログのパーツ番号や、品番に最適です。ただし、それらの番号は数字のみに限ります。
- ・「テキスト」：1 行のテキストを入力します。写真家やアーティストの名前など、多くのカスタムフィールドに使用できます。
- ・「テキストブロック」：改行を含む、複数行のテキストを入力します。
- ・「URL」：このフィールドタイプは、Web や他の URL アドレスに使用します。ギャラリー表示で表示できるアクティブハイパーリンクを作成できます。



カスタムフィールドの作成は Portfolio の管理者機能です。カスタムフィールドを作成するには、カタログに対する管理者レベルのアクセスが必要です。詳細については、「カタログの管理」の章を参照してください。

カタログへのカスタムフィールドの追加

カスタムフィールドを追加するには

1. アクセスレベルを管理者モードに変更します。「カタログ」から「アクセスレベル」を選択し、「カタログのアクセス権」レベルを「管理者」に変更し、必要であればパスワードを入力して「OK」をクリックします。
2. 「カタログ」>「カスタムフィールド」を選択します。



3. 「カスタムフィールド」ダイアログボックスで、「新規」をクリックします。「カスタムフィールドの追加」ダイアログボックスが表示されます。



4. 「フィールド名」テキストボックスにフィールドの名前を入力します。

- 「フィールドタイプ」を選択します。フィールドタイプにより入力できる値が決まります（下の「カスタムフィールドタイプのガイド」を参照してください）。



フィールドタイプは一度定義されると変更することはできません。

- 選択したフィールドタイプの残りのオプションを適切に選択した後、「OK」をクリックして「カスタムフィールド」ダイアログボックスに戻ります。
- カスタムフィールドの追加が完了したら、「OK」をクリックします。

カスタムフィールドタイプのガイド

以下に、Portfolio で作成できる各カスタムフィールドタイプの属性について説明します。

「日付 / 時刻」

このフィールドタイプでは、アイテムの日付か時刻、またはその両方を入力できます。「日付 / 時刻」の「カスタムフィールドの追加」ダイアログボックスで「時刻の表示」オプションの選択を外せば、「時刻」の値を表示しないようにできます。「日付 / 時刻」フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。



「日付 / 時刻」フィールドを検索する場合は、かならず時刻の存在が仮定されます。つまり、もし（アイテムをカタログ化する際のソースファイルからの抽出により、またはフィールドに時刻を入力することにより）時刻の値がフィールドに入力されて、また「時刻の表示」をオフにすることによりそのフィールドが隠されている場合、検索が行われる場合には Portfolio は時刻を検索に含めます。たとえば:「5/20/02」で検索しても「5/20/02 3:00 pm」を含むアイテムは見つかりません。なぜなら、検索の要求は「5/20/02 12:00:00」と解釈されるからです。時刻が表示されていない場合でも、これは変わりません。

「小数」

このフィールドタイプでは、最大で小数点以下第 8 位までの精度を持つ数値を入力できます。「小数」フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。精度を設定するには、ドロップダウンメニューから選択します。

「数値」

普通の数値を入力します。「数値」フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。

「テキスト」

このフィールドタイプは 1 行のテキストのためにデザインされています。フィールドの最大の長さは、フィールドで入力できる文字数を「長さ」のテキストボックスに入力することで設定できます。「テキスト」フィールドの長さは 1 から 249 文字までで、複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。このタイプのフィールドは複数行のテキストを含むことはできません（複数行のテキストには「テキストブロック」を使用）。

「テキストブロック」

「テキストブロック」は 32K 以内の任意の長さのフィールドです。このフィールドタイプを使えば、アイテムに複数行のテキストを追加できます。改行やキャリッジリターンを含めることもできます。

「テキストブロック」内の単語はインデックス化されるので、これらの長いフィールドでも極めて速く検索することができます。「テキストブロック」フィールドはソートやフリーズでの検索はできません。

「URL」

このフィールドタイプを使えば、Web や他の URL アドレスを入力できます。URL のシンタックスが正確であれば、データはアクティブハイパーリンクになります。アクティブなリンクを作成するには、参照アドレスを URL 形式で、以下の語を含んだ形で入力します。http、ftp、telnet、gopher。ローカルファイルやアプリケーションでもかまいません。通常、URL データは以下のようなものです。

- <http://www.extensis.com>
- <ftp://ftp.extensis.com/pub/file1.zip>
- <http://www.extensis.com/buynow/cgi?sku=012345>
- <mailto:username@extensis.com>

データを追加するために「URL」を編集する場合（「アイテム」、「プロパティ」、「フィールド」タブ、「編集」ボタンの順に選択）、入力した「タイトル」はアイテム内で表示され、アクティブリンクになります（Portfolio は「タイトル」を「URL」フィールドにある実際の URL にリンクする）。「URL」にどのようなタイトルを付けてもかまいません。タイトルが実際の URL を参照する必要はありません。



「URL」フィールドにデータをインポートする場合（「ファイル」から「フィールド値のインポート」を選択）、Portfolio は「URL」フィールドを 2 つの値を持つフィールドとして扱います。最初の値はタイトルで、2 番目の値が URL アドレスです。URL を Portfolio にインポートする場合は、URL データはこの形式に従う必要があります。Portfolio は URL データをエクスポートする場合にも同じ形式を使います。



「URL」フィールドは定義済みリストとして設定できません。また、複数の値を持つことはできず、タイトルと「URL」フィールドが両方入力される必要があります。

「複数の値を持つリスト」

「複数の値を持つリスト」を使えば、複数のベンダー名や複数のアイテム価格など、複数の値を持つカスタムフィールドを設定できます（「URL」と「テキストブロック」を除く）。

「複数の値を持つカスタムフィールド」を設定するには、前に概要を説明したように「カスタムフィールド定義」ダイアログボックスでカスタムフィールドを設定する際、「複数の値」チェックボックスをオンにします。

「定義済みリスト」

「URL」と「テキストブロック」を除くすべてのカスタムフィールドで、ユーザーがカスタムフィールドに入力する際に選択肢から値を選べるように、定義済みの値のリストを設定できます。

たとえば、カタログの各アイテムの完了状態を追跡するために、「状態」という名前のカスタムフィールドを作成すると仮定します。このとき、4 つの値（未完成、進行中、最終段階、完成）を定義して、画像にこれらの値を割り当てることにしましょう。定義済みの値を設定するには以下のようにします。

1. カスタムフィールドを定義するときに、「定義済みリスト」チェックボックスをオンにします。
2. 「編集」（または「リストを編集」）ボタンをクリックします。
3. 「定義済みリストの編集」ダイアログボックスで、このフィールドで使用する各々の値を入力します。「追加」ボタンをクリックして、リストに各アイテムの値を挿入します。

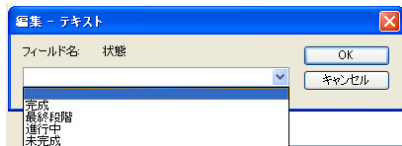


4. このフィールドでこれらの単語のみを使用する場合は、「リスト内の単語のみ入力可」チェックボックスをオンにします。

5. 「OK」をクリックして、フィールドの定義を完了します。

または、テキストファイルから定義済みリストに値をインポートすることもできます。テキストファイルで、各々の値は改行で区切られている必要があります。「カスタムリストの編集」ダイアログボックスで「インポート」ボタンをクリックし、テキストファイルを選択して、定義済みリストに値をインポートします。

ユーザーが任意の Portfolio 標準のフィールド編集機能（たとえば、「プロパティ」ダイアログボックスの「フィールド」タブ、「フィールド値の編集」ダイアログボックス、または「状態」フィールドが表示される「アイテム表示」）でこのフィールドを編集する場合、ドロップダウンメニューからあらかじめ定義された4つの選択肢が利用できます。



カスタムフィールドの編集と使用

カスタムフィールドが定義されると、この章の前の方で説明したキーワードの編集方法とほとんど同じ方法を用いて、カタログ内のこれらのカスタムフィールドを編集できます。

- ・「カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、フィールドの値を割り当て、カタログ化の際に値を追加する。
- ・「プロパティ」ダイアログボックスの「フィールド」タブを開いて、フィールドをダブルクリックしてその内容を編集する。
- ・カスタムフィールドが表示されるように、アイテム表示を設定（「表示」、「表示設定」、「アイテム」タブの順に選択）して、ギャラリーから直接フィールドを編集する。

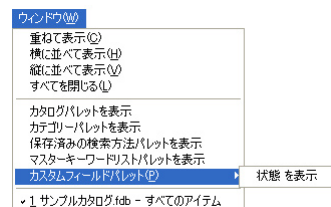
- ・「フィールド値の編集」コマンド（「アイテム」から「フィールド値の編集」を選択）を用いて、選択されたアイテムの任意のフィールドの内容を追加、削除、または置換する。

カスタムフィールドをパレットとして表示

カスタムフィールドをより使いやすくするために、Portfolio では定義済みリストで設定された値をパレットとして表示できます。これは、この章の前の方で説明したマスターキーワードパレットと同様のものです。これにより、2～3回のクリックで簡単にフィールドの値を割り当てることができます。個々のアイテムを開く必要もありません。

定義済みの値のリストを持ったカスタムフィールドを作成した場合、そのカスタムフィールドの名前を持った新しいパレットが自動的に「ウインドウ」メニューの「カスタムフィールドパレット」サブメニューの下に加えられます。

先ほどの例を使うと、4つの定義済みの値を持つ「状態」という名前のカスタムフィールドを作成すると、「状態を表示」コマンドが「ウインドウ」メニューの下に「カスタムフィールドパレット」サブメニューに追加されます。

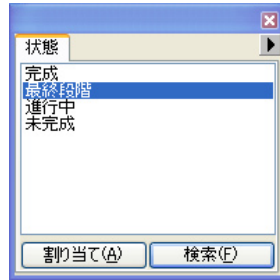


「状態を表示」コマンドを選択すると、「状態」という名前の新しいパレットが開きます。パレットには、そのカスタムフィールドで使用できる定義済みの値のリストが表示されています。

パレットを用いたカスタムフィールド値の割り当て

カスタムフィールドパレットは、前に説明したマスターキーワードパレットと全く同様に機能します。

1. フィールド値を入力するアイテムを選択します。
2. 選択したアイテムに割り当てるエントリをカスタムフィールドパレットで選択します。
3. パレットの「割り当て」ボタンをクリックします。



カスタムフィールドパレットからエントリをサムネールにドラッグアンドドロップして割り当てを行うこともできます。

1. カスタムフィールドパレットから値をドラッグして、その値をカスタムフィールドに割り当てるエントリの任意のサムネールにドロップします。
2. 複数のアイテムに値を割り当てる場合は、まずギャラリーでアイテムを選択して、選択された任意のアイテム上にカスタムフィールドパレットの値をドロップします。値は選択されたすべてのアイテムに自動的に割り当てられます。

仕事の状態を含むカスタムフィールドの例に戻ると、カタログ内の 10 アイテムに最終段階の状態を割り当てるには、ギャラリーでそれらのアイテムを選択し、状態カスタムフィールドパレット（上の図を参照）の「最終段階」という単語をクリックして、「割り当て」ボタンをクリックします。

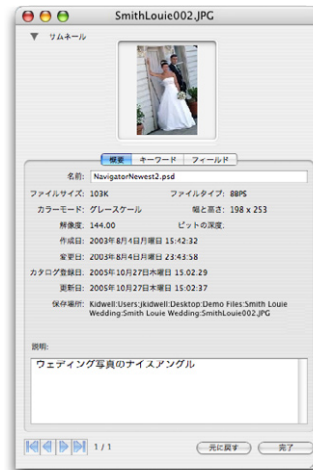
アイテム情報の編集と置換

Portfolio はキーワードや説明など、ファイルに関する多くの情報を保存しています。このセクションでは、アイテムごとに、またはバッチにより、それらの情報を編集する最良の方法を取り上げます。

「プロパティ」ダイアログボックスの使用

ファイルに関する情報をすばやく追加、編集する簡単な方法は、「ファイルの管理」の章の「ファイルに関する情報の取得」のセクションで説明した、「プロパティ」ダイアログボックスを使う方法です。

「プロパティ」ダイアログボックスのナビゲーションボタンとキーボードショートカットを使えば、カタログのアイテムからアイテムに容易に移動でき、各アイテムの説明の入力やカスタムフィールドデータの追加を行うことができます。



たとえば、カタログ内の 25 アイテムの「説明」フィールドに説明のテキストを追加する必要があると仮定します。「プロパティ」を用いてすばやく情報を追加するには以下のようにします。

1. 編集する 25 アイテムのサムネールを選択します。

ギャラリーで Shift キーを押しながらクリックすると、連続して表示されているサムネールを選択できます。ギャラリーで連続して表示されていない複数のアイテムを選択するには、⌘ キーを押しながらサムネールをクリックするか (Macintosh)、または Ctrl キーを押しながらサムネールをクリックします (Windows)。

2. 「プロパティ」ダイアログボックスを開きます。

「プロパティ」ダイアログボックスを開くには、ツールバーの「プロパティ」ボタンをクリックするか、⌘ キーを押しながら I キーを押すか (Mac)、または Alt キーを押しながら Enter キーを押します (Windows)。選択した最初の画像の情報が「プロパティ」ダイアログボックスに表示されます。

3. 「説明」フィールドの中をクリックして、説明を入力します。
4. 説明の入力が終わったら、⌘ キーを押しながら右矢印キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーを押しながら右矢印キーを押して (Windows)、次のアイテムに進みます。

「プロパティ」ダイアログボックスは選択された次のアイテムに移動するので、次のアイテムの説明の入力ができます。

5. 選択された 25 アイテムすべての「説明」フィールドの入力が終わるまで、ステップ 3 とステップ 4 を繰り返します。
この「プロパティ」ダイアログボックスで、アイテム間を移動するテクニックを使って、任意のカatalog化されたファイルのキーワードやカスタムフィールドデータを編集できます。

バッチによるアイテムの編集

前頁で説明した「プロパティ」ウインドウは、個別のファイルのフィールド値の編集 (たとえば、各ファイルに対する異なる説明の入力) に便利です。しかし、多くのアイテムに対して同じ情報の編集、追加、または削除が必要な場合がときにはあります。たとえば、次のような場合があるかもしれません。

- ・「日没」というキーワードを 70 の異なる画像に対し一度に割り当てる。
- ・現在のギャラリーの 150 アイテムすべてのカスタムフィールドに、ある写真家の名前を追加する。
- ・Portfolio カタログのすべてのアイテムの説明とキーワードを消去する。
- ・ある特定のキーワードを持つアイテムをすべて検索して、そのキーワードを別のキーワードで置換する。

こうした作業を行うには、下で説明する「フィールド値の編集」コマンドを使用するといいいでしょう。

「フィールド値の編集」コマンドの使用

「フィールド値の編集」は、キーワード、説明、任意のカスタムフィールドなどのすべての編集可能な Portfolio のフィールドの値を追加、削除、および編集する作業を高速化するために設計されています。

フィールド値を編集するには

1. 編集するアイテムのサムネールを選択します。

「フィールド値の編集」コマンドは選択したアイテムに対してのみ有効です。ギャラリー内の全アイテムの値を編集する場合は、「編集」から「すべて選択」を選んで、ギャラリーのすべてを選択します。

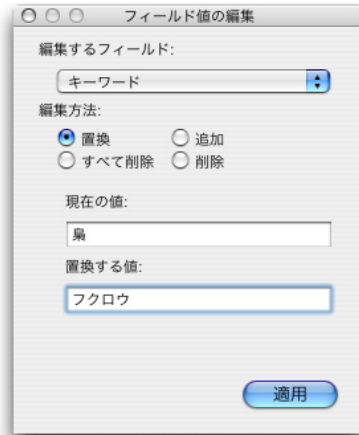
2. 「アイテム」から「フィールド値の編集」を選択して「フィールド値の編集」ダイアログボックスを開きます。

3. 「編集するフィールド」メニューから編集を行うフィールドを選択します。

メニューには、カスタムフィールドを含むすべての編集可能なフィールドが表示されます。

4. 「アクション」ラジオボタンからアクションを選択します。

編集するフィールドによって、データの「置換」、「削除」、「追加」を行うことができます。

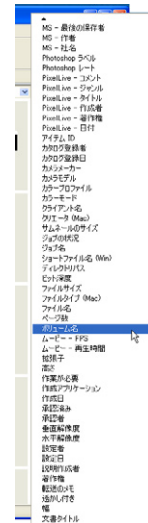


5. 追加、変更、または削除する値を「値」フィールドで指定します。「置換」の場合は、置き換えられる値と、置き換える値の両方を指定する必要があります。
6. 「適用」ボタンをクリックします。

アイテムのソート

作成した任意のカスタムフィールドを含むほとんどのフィールドを用いて、Portfolio カタログの内容をソートすることができます。ファイル名、ファイルサイズ、カラーモード、ファイルタイプ、または他の基準によってアイテムをソートすれば、収集されたファイルを見たり、整理したりするのが容易になります。

また、単にサムネールを自由にドラッグしても、カタログのアイテムをソートすることができます。多くのファイルを厳密な基準でソートするには、ドラッグによるソートは実用的ではありません。しかし、小さいギャラリー内でアイテムを好みの順番に並べ替える際には便利でしょう。



ギャラリーのソート

ファイルをソートするには、各ギャラリーの1番上（メインツールバーのすぐ下）のステータスバーの右上隅にある、「ソート」メニューを使います。デフォルトでは、このメニューには「ソートなし」と表示されています。現在のギャラリーで使用するソート基準をこのメニューから選択してください。デフォルトではギャラリー内のアイテムは、カタログ化された順番に並べられています。

「ソート」メニューを用いてギャラリーをソートした後も、メニューにはソート時に使われたフィールド名が表示されているので、アイテムの並び順の基準が一目で分かります。また、アイテムをドラッグして自由にアイテムの順序を変えると、「ソート」メニューには「カスタム」と表示されます。

ギャラリーをソートした順番の維持

ギャラリーを開いた時に、アイテムを自動的にソートすることができます。

1. 「ギャラリー」から「ギャラリーの設定」を選択します。
2. 「ギャラリーのソート」オプションをチェックします。
3. 「ソートフィールド」ドロップダウンボックスから、ソートに用いるフィールドを選択します。
4. 「方向」ドロップダウンボックスから、ソートの順番（昇順または降順）を選択します。
5. 「OK」をクリックして、ソートの設定を適用します。



ギャラリーが最初に開かれたとき、自動的にソートされます。ギャラリーを開いた後でソートの順番を変更した場合は、そのギャラリーはカタログが閉じられるまでその新しい順番を維持します。

カテゴリーの使用

Portfolio にはフォルダのような階層を使ってアイテムを視覚的に整理できる機能があります。これは、カテゴリーパレットからアクセスすることができます。

たとえば、以下のような場合にこの機能を使えます：

- 低解像度画像、高解像度画像、RGB バージョン、CMYK ファイルなど、仕事のファイルのすべてのバージョンを整理する。
- 文書ファイル、画像、フォントなど、印刷関連の仕事のすべての要素を整理する。
- 一般的なカテゴリー（たとえば動物）の中により範囲の狭いトピック（鳥）やサブトピック（水鳥）がある、入れ子構造のような階層的なキーワードの構造を使って画像コンテンツをカテゴライズする。

カテゴリーパレットは、カタログのアイテムにリンクされたフォルダの階層構造からなっています。このパレットのフォルダアイコンをダブルクリックすると、そのフォルダ内のすべてのカタログ化されたアイテムを表示できます。オプションで、フォルダ内のサブフォルダの中にあるアイテムも表示することができます。



カテゴリーパレットのオプションを使えば、手でフォルダ階層を作成することができます。そして、アイテムをカタログからカテゴリーパレットのフォルダにドラッグして、アイテムをフォルダにリンクできます。

また、フォルダをカテゴリーパレットから Macintosh の Finder または Windows エクスプローラにドラッグすれば、任意のローカルまたはネットワークボリューム上に、すべての仕事内容（フォルダ、サブフォルダ、およびカタログ化された内容）のコピーや、任意の数のフォルダやコンテンツのコピーを、1つの操作で簡単に作成することができます。

カテゴリーとフォルダ同期

カテゴリー機能は、Portfolio のフォルダ同期機能に似ています。カテゴリーもフォルダ同期もデジタルファイルを階層的なフォルダ構造に整理できます。しかし、両者はこの作業に対して非常に異なったアプローチを取っています。

カテゴリー機能はファイル整理のために、深い階層になったフォルダ構造を使っています。しかし、カテゴリーパレットで表示されるフォルダは仮想的なフォルダです。それらをコ

コンピュータ上のフォルダに基づいて作成することはできますが、それらはネットワークやハードドライブ上にある本物のフォルダではありません。それらは、Portfolio 環境の中で、心理的にファイルをグループ化したり整理したりする方法に過ぎません。コンピュータ上のフォルダとカテゴリパレット内の「フォルダ」には、実際のリンクは存在していません。カテゴリパレットのフォルダにアイテムをドラッグしても、ディスク上のオリジナルファイルには何も起こりません。オリジナルファイルは今まで存在した場所に存在します。

カテゴリパレットを使えば、パレット上で設定した階層を正確に反映した一連の全く新しいフォルダをディスク上に生成できます。しかし、システム上の既存のフォルダにファイルを移動することはできません。

一方、フォルダ同期を使えば、ディスク上の実際のフォルダでファイルを整理することができます。Portfolio のフォルダパレットでフォルダをダブルクリックすると、ディスク上のそのフォルダの実際の内容が表示されます。フォルダ同期では、Portfolio とハードドライブまたはネットワーク上のフォルダの間に、常に実際の接続があります。フォルダ同期を使って Portfolio でファイルを移動したりまとめたりするときは、ハードディスクやネットワーク上のオリジナルファイルをリアルタイムで移動させています。フォルダ同期は単なるカテゴリライズの機能ではなく、ファイル管理機能です。



カテゴリ機能は強力な管理機能ですが、ファイルを論理的にも物理的にも整理できるフォルダ同期の方が、ほとんどのユーザーにとって最も役に立ちます。

カテゴリの作成

カテゴリでの作業を始めるには、「ウインドウ」から「カテゴリパレットを表示」を選択して（前のページで示したように）カテゴリパレットを開きます。カテゴリを作成するには、カタログに対して管理者アクセスが必要です。

カテゴリパレットを使って新しいカテゴリを作成するには

1. カテゴリパレットで、「新規」ボタンをクリックするか、パレットのフライアウトメニューから「新規」を選択します。フォルダの名前を入力するよう要求されます。
2. フォルダ名を入力して「OK」をクリックします。
フォルダが、カテゴリパレットで選択されているレベル（現在選択されているフォルダの下レベル）に作成されます。
3. すべてのフォルダを作成し終わるまで、フォルダの作成を続けます（ステップ1と2）。
4. 必要に応じてフォルダを上下にドラッグして、望みのフォルダ構造にします。ドラッグすると、どこに移動されるかを表す黒いバーが表示されます。

カテゴリを削除するには

- ・ カテゴリパレットで、削除するカテゴリを選択して、パレットの1番下にある「削除」ボタンをクリックするか、「カテゴリの削除」をフライアウトメニューから選択します。

アイテムのカテゴリへの割り当て

カテゴリの作成が完了したら、それらを用いてカタログ化されたアイテムを分類できます。

カタログ化されたアイテムを既存のカテゴリにリンクするには

1. カテゴリパレットが開いていることを確認してください。
2. カテゴリライズするアイテムを選択して、カテゴリパレットの適切なカテゴリにそれらをドラッグアンドドロップします。ギャラリーの選択されたアイテムが、そのフォルダにリンクされます。

—または—

1. ギャラリーでアイテムを選択します。
2. カテゴリーパレットで、アイテムをリンクするカテゴリーを選択します。
3. カテゴリーパレットのフライアウトメニューから、「カテゴリーにアイテムを割り当て」を選択します。ギャラリーの選択されたアイテムが、そのカテゴリーの「フォルダ」にリンクされます。

特定のカテゴリーの中のカatalog化されたアイテムを表示するには

1. カテゴリーパレットで表示するカテゴリーフォルダをダブルクリックします。
2. 選択されたフォルダ内のアイテムがギャラリーに表示されます。カテゴリーとそのすべてのサブカテゴリーの中のアアイテムを表示する場合は、パレットのフライアウトメニューから「サブカテゴリーのアイテムを表示」を選択します。選択されたフォルダとすべてのサブフォルダ内のアイテムがギャラリーに表示されます。

カテゴリーからカatalog化されたアイテムを削除するには

1. カテゴリーから削除するアイテムを選択します。
2. カテゴリーパレットで「削除」ボタンをクリックするか、フライアウトメニューから「カテゴリーからアイテムの削除」を選択します。選択されたカatalogアイテムはカテゴリーフォルダから削除されますが、「ギャラリー」や「カatalog」からは削除されません。

ディスク上のフォルダの作成

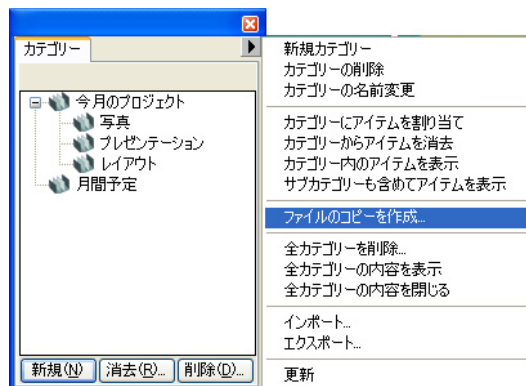
ファイルのカテゴリライズが完了したら、Portfolio は整理されたフォルダ構造をディスク上にコピーすることができます。この処理はオリジナルファイルを移動しないことに注意してください。この処理はカテゴリーパレットのフォルダ構造に基づいて、新しい場所にファイルのコピーを作成します。

カテゴリーに基づいたファイルとフォルダ構造を「カテゴリー」からディスク上に作成するには

1. カテゴリーパレットで、コピー元のカテゴリーの最上レベルのフォルダを選択します。
2. そのフォルダを Finder (Mac) またはエクスプローラ (Windows) にドラッグします。Mac では、すべてのアイテムに対して 1 つのフォルダを作成するか、またはフォルダ階層を維持するかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。

—または—

1. パレットのフライアウトメニューから「ファイルのコピーを作成」を選択し、アイテムを保存するフォルダを選択します。



2. 「フォルダの作成」をクリックして、すべてのアイテムを 1 つのフォルダに置くか、「すべてのフォルダの作成」をクリックしてフォルダ階層を維持します。

Portfolio は、カテゴリーパレットの各フォルダに対応する、新しい「本物の」フォルダをディスク上に作成し、各オリジナルファイルのコピーを適切なフォルダの中に置きます。

Portfolio によるファイルの検索

Portfolio の最も重要な機能の 1 つは、必要なときにデジタルファイルを検索し取り出すことができることです。画像のカテゴリ化、キーワード付け、およびカテゴリ化を行うのは、最終的に画像をできるだけ迅速に探し出して使用できるようにするためです。

この章では、超高速な検索によってファイルへのオンデマンドなアクセスを可能にする、Portfolio の強力な機能について取り上げます。

- ツールバーの「QuickFind」フィールドの使用
- 複数の条件を用いた高度な検索
- 複数の Portfolio カタログに対する検索



カテゴリ化されたファイルをすばやく検索する際に Portfolio を実行していない場合、または Adobe Photoshop や QuarkXPress などの他のソフトウェアで作業をしている場合は、次の章で説明するように Portfolio Express パレットを使用してください。Portfolio Express パレットを使用すると、最も速くファイルを取り出して他のソフトウェアで 사용할 수 있습니다。

QuickFind

Portfolio で最も簡単で使いやすい検索機能は、ツールバーの右側にある「QuickFind」ボックスです。「QuickFind」では、任意のフィールドの組み合わせに基づいて、現在のギャラリーの中からファイルを検索することができます。「QuickFind」ではボタンをクリックしたり、メニューをプルダウンしたり、「検索」ダイアログボックスを開いたりする必要はありません。「QuickFind」が、ファイルの検索を行う、最も速くて簡単な方法です。

QuickFind を行うには

1. 「QuickFind」ボックスの中をクリックします。
2. 単語またはフレーズをボックスに入力して、Return キーを押します。



「QuickFind」はデフォルトでは、ファイル名と説明フィールドを「を含む」で検索を行い、キーワードフィールドのような複数の値を持つフィールドは「で始まる」で検索を行います。

「QuickFind」で検索されるフィールドの変更については、この章の「「QuickFind」の設定」を参照してください。

3. 一致するアイテムが「検索結果」のギャラリーに表示されます。



「QuickFind」ボックスで入力したテキストは、Return キーを押して検索を行った後でも選択されたままになっています。別の「QuickFind」を行うには、検索に用いる別の単語やフレーズを入力して Return キーを押すだけです。

同じギャラリー内での複数検索

「QuickFind」は現在のギャラリーだけを検索するので、特定のアイテムを探し出すために検索内容をすばやく改良できます。たとえば、「bird」というキーワードを含むアイテムをすべて検索する場合は以下のように行います。

1. 「ギャラリー」パレットで「すべてのアイテム」のギャラリーを選択します。
2. 「QuickFind」フィールドに「bird」を入力し、キーボードで Enter キーを押します。検索結果を含む新しいギャラリーが表示されます。

- 次に、「bird」を含むアイテムでキーワードに「red」を持つものだけに検索結果を絞り込みます。「QuickFind」フィールドに「red」を入力し、Enter キーを押します。Portfolio は現在のギャラリー（つまり「bird」の「QuickFind」結果を含むギャラリー）だけを検索して、その中で見つかったアイテムを表示します。

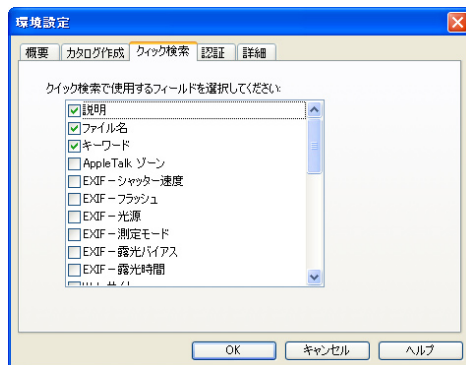
「QuickFind」の設定

「QuickFind の環境設定」を調整すれば、検索を行う際に「QuickFind」がどのフィールドを検索に含め（どのフィールドを無視するか）を正確に選択することができます。これが「QuickFind」の非常に強力な点であり、どのような複数フィールドの検索でも望むままに行えるように調整できます。

「QuickFind の環境設定」で選択した設定は、Portfolio Express パレットの「QuickFind」ボックスにも反映されます。

「QuickFind の環境設定」を変更するには

- カタログを開いた状態で、「編集」から「環境設定」(Win)、または「Portfolio」から「環境設定」(Mac) を選択します。
- 「QuickFind」タブを選択します。



- フィールドのリストの中で、「QuickFind」で検索に含めるフィールドをチェックします。

「QuickFind」で検索に含められるフィールドの横にはチェックマークが表示されます。デフォルトでは「QuickFind」はファイル名、説明、キーワードのフィールドを検索します。

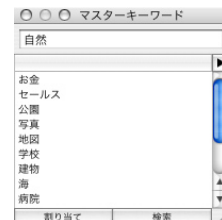
- 設定を確認して「OK」をクリックします。



「QuickFind の環境設定」はユーザーごと、またカタログごとに保存されます。言い換えると、各カタログは各々の「QuickFind の環境設定」を持っており、「QuickFind の環境設定」は各カタログに対して設定を行う必要があります。また、「QuickFind の環境設定」は各ユーザーのマシンに保存されるので、複数のユーザー間では共有されません。

パレットからの検索

マスターキーワードパレットやカスタムフィールドから作成した任意のパレットを使えば、どんなダイアログボックスを開く必要もなく、簡単に検索を行うことができます。



マスターキーワードパレットから検索を行うには、パレット上で検索するキーワードをダブルクリックします。選択されたキーワードを持つすべてのアイテムが検索結果ギャラリーに表示されます。



キーワードリストが大きい場合は、マスターキーワードパレットのテキスト入力フィールドに文字を入力すれば、その文字で始まるキーワードにカーソルが移動するので、キーワードリストの中をすばやく移動することができます。

「検索」(複雑な検索) コマンドの使用

多くの Portfolio ユーザーにとっては、「QuickFind」ボックスを使った簡単な複数フィールドの検索で十分満たされます。しかし、Portfolio の高度な検索エンジンを使えば、複数の検索条件を用いた複雑な検索を行うことも可能です。複雑な検索方法を保存すると、最小の労力で同じ検索を再び行うこともできます。保存した検索方法をギャラリーに適用して、開かれるたびに保存した検索を実行する「スマートギャラリー」を作成することもできます。

Portfolio の「検索」コマンドを使えば、特定の検索パラメータを用いて、任意のフィールドを任意の組み合わせで検索することができます。

「検索」ダイアログボックスにアクセスするには、以下の3つの方法があります。

- ツールバーの「検索」ボタン  をクリックする。
- 「カタログ」から「検索」を選択するか (Win)、または「編集」、「検索」、「検索」の順に選択する (Mac)。
- ⌘ キーを押しながら F キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーを押しながら F キーを押す (Win)。

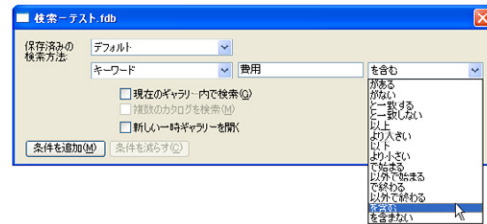
特定のアイテムの検索

1. 「検索」ダイアログボックスを開きます (前述の3つの方法のいずれかを使用)。
 2. 「保存した検索方法」を使用する場合は、「保存した検索方法」ドロップダウンメニューをクリックし、リストから選択します。検索パラメータには保存された設定が入力されます。「検索」をクリックして「保存した検索方法」を実行します。
- または —
2. 「フィールド」メニューから検索に使用するフィールドを選んで、検索に用いる条件を選択します。

検索に用いることのできるフィールドの説明については、次のページにある表を参照してください。

3. 真ん中のメニューから一致オプションを選択します。

検索を行うフィールドによって、8～14種類のオプションがあります。「と等しい」や「と一致する」を用いて正確な言葉を検索したり、「を含む」や「以外で終わる」を用いてもう少し緩やかな条件で検索したりできます。



特定の日付のファイルを検索する場合は、「を含む」を選択してください。「と一致する」は、日だけでなく、正確な時間まで一致する必要があるので選択しないでください。

4. 必要に応じて、他の検索オプションも選択します。

現在のギャラリー内で検索: このチェックボックスをオンにすると、Portfolio は現在のギャラリーにあるアイテムのみを検索し、カタログ内の他のすべてのアイテムは無視されます。これは、目標のファイルに焦点を合わせるために、段階的に条件を狭めて検索を行う場合に便利です。カタログ内で条件に一致するすべてのアイテムを検索する場合は、このオプションのチェックが外されていることを確認してください。

複数のカタログを検索: 複数のカタログを開いていない場合は、このオプションは選択できません。複数のカタログを開いている場合は、このオプションを選択し、開いているすべてのカタログでアイテムを検索できます。詳細については、この章の「複数のカタログを検索」を参照してください。

新しい一時ギャラリーに結果を表示: このオプションを選択すると、新しいギャラリーが作成され、検索結果をそのギャラリーに表示します。デフォルトでは、検索結果は「検索結果」ギャラリーに表示されます。

5. 「検索」をクリックして検索を開始します。

「検索条件」オプション

Portfolio は「パス」フィールドをインデックス化しないため、検索条件として「パス」フィールド名を用いると検索に時間がかかる場合があります。

フィールド名	検索条件
カメラのメーカー	画像を作成したカメラのメーカーを含むカスタムテキストフィールド
カメラのモデル	画像を作成したカメラのモデルを含むカスタムテキストフィールド
カタログ登録日	アイテムが最初に Portfolio にカタログ化された日付と時刻
カタログ登録者	アイテムを Portfolio にカタログ化したユーザー ID
最終変更日	アイテムが最後に変更された日付と時刻
最終変更者	アイテムを最後に変更したユーザー ID
カラーモード	カラーモード: 不明、白黒、グレースケール、RGB、CMYK、YUV、Lab、YCKK
著作権	著作権情報を含むカスタムテキストフィールド
著作権状況	著作権状況の情報をを含むカスタムテキストフィールド
作成日	オリジナルファイルが作成された日付
クリエータ (Mac)	アイテムの 4 文字のファイルクリエータ (Windows でカタログ化された場合は空白)
説明	アイテムのファイルの説明
説明作成者	説明を書いたユーザー ID を含むカスタムテキストフィールド
ディレクトリパス	アイテムのフルディレクトリパス (ファイル名は含まない)
ドキュメントのタイトル	ドキュメントのタイトルを含むカスタムテキストフィールド
拡張子	アイテムの 3 文字のファイル拡張子
ファイルサイズ	アイテムのファイルサイズ
ファイル名	アイテムの名前
ファイルタイプ (Mac)	アイテムの 4 文字のファイルタイプ (Windows でカタログ化された場合は空白)
高さ	アイテムの高さ、ピクセル数 (サムネールが抽出された場合は空白)
水平解像度	アイテムの水平解像度、dpi

「検索条件」オプション（続き）

「検索」コマンドにより、任意の方法またはカスタムフィールドで検索できます。

フィールド名	検索条件
キーワード	アイテムに割り当てられた任意のキーワード
修正日	オリジナルファイルが最後に修正された日付
ページ数	特定のページアイテム数
パス	アイテムのファイルパス（ロケーション）、ファイル名を含む
送付先	アイテムが送付されたユーザーの ID を含むカスタムテキストフィールド
ショートファイル名（Win）	16 ビットの DOS パスとファイル名
サムネールサイズ	アイテムのサムネールサイズ、ピクセル数 32（アイコン）、64、112、256（Portfolio の以前のバージョンから変換されたカタログでは空白）
垂直解像度	アイテムの垂直解像度、dpi
ボリューム	アイテムの存在する物理ドライブまたはディスク
透かし付き	指定された透かし付きのアイテム
透かしの URL	指定された透かしの URL 付きアイテム
Web サイト	Web アドレスを含む「URL の設定」フィールド
幅	アイテムの幅、ピクセル数（サムネールが抽出された場合は空白）
ゾーン（Mac）	アイテムファイルが存在する AppleTalk ゾーン（Windows でカタログ化された場合は空白）
カスタムフィールド	現在のカタログで作成されたすべてのカスタムフィールド
EXIF、IPTC、XMP フィールド	これらのための特別カスタムフィールドのいずれか



Portfolio は「パス」フィールドをインデックス化しないため、検索条件として「パス」フィールド名を用いると検索に時間がかかる場合があります。

複数の条件による検索（複雑な検索）

「検索」ダイアログボックスを使えば、複数の条件（ファイルタイプ、作成日、およびキーワードの一致）に基づいて、より複雑な検索を行うことができます。

複雑な検索を行うには

1. 「検索」ダイアログボックスで、「条件を追加」ボタン（Win）または「+」ボタン（Mac）をクリックして、追加の検索条件を含めるようにダイアログボックスを拡大します。

ダイアログボックスを拡大して、最大 5 行まで検索条件を指定することができます。



ダイアログボックスを拡大した後で、より簡単な検索をするために「条件を減らす」ボタン（Win）または「-」ボタン（Mac）をクリックして、ダイアログボックスを縮小することができます。

2. 特定のアイテムの検索手順 2、3、4 で説明したように、検索条件を設定します。
3. 検索を調整するために、各検索行の「および/または」のメニューを設定します。
4. 「検索」をクリックして検索を開始します。

「検索結果」のギャラリーに結果が表示されます。

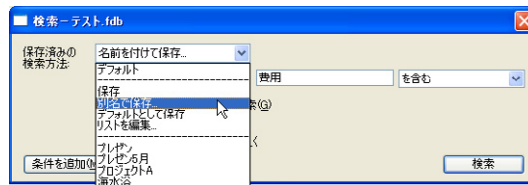
検索方法を保存

日常的にカタログから特定のタイプのアイテムを検索する必要がある場合は、それらのアイテムの検索方法に名前をつけて保存することができます。

保存済みの検索方法は、「検索」ダイアログボックスの「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューに表示されます。「保存済みの検索方法」を使用するときは、メニューから検索方法の名前を選択するか、「検索」パレットで保存した検索方法をダブルクリックするか、Windows ではツールバーにある「検索」ボタンのドロップダウンメニューから検索方法を選択します。

検索方法を保存するには

1. 「検索」ダイアログボックスで検索方法を設定します。
2. 「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから「別名で保存」を選択します。



3. 「検索方法を保存」ダイアログボックスで、新しい検索方法の名前を入力します。
4. 「OK」をクリックして「検索」ダイアログボックスに戻ります。Portfolio は作成した検索の定義をカタログに保存します。

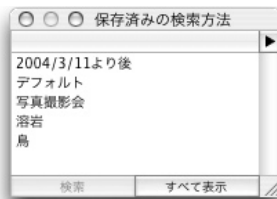
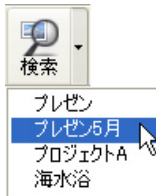
「保存した検索方法」を使用するには

「保存した検索方法」をアクティブにするには以下の方法があります。

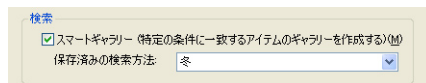
- ・「検索」ダイアログボックスの「保存した検索方法」ドロップダウンメニューから「保存済みの検索方法」を選択する。



- ・Windows の場合、ツールバーのドロップダウンメニューから「保存した検索方法」を選択する。
- ・「検索」パレットを開いて（「ウインドウ」から「検索方法を表示」を選択）、パレット上で「保存済みの検索方法」の名前をダブルクリックする。
- ・「検索」パレットで「保存した検索方法」を選択して「検索」ボタンをクリックするか、パレットのフライアウトメニューから「検索」を選択する。



- ・「保存した検索方法」をギャラリーに「付加」して（「ギャラリー」、「表示設定」、「スマートギャラリー」の順に選択）、そのギャラリーを開くと検索が自動的に実行されるように設定する。



保存した検索方法からスマートギャラリーを作成するには

スマートギャラリーとは、選択されるたびに保存した検索方法を自動的に実行するギャラリーのことです。

1. 選択したギャラリーを開きます。
2. 「ギャラリー」>「ギャラリーの設定」を選択します。
3. 「ギャラリーの設定」ダイアログボックスで、「スマートギャラリー」オプションを選択します。
4. ドロップダウンメニューから、保存した検索方法を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

「スマートギャラリー」を開くたびに「保存した検索方法」が実行され、ギャラリーに検索結果が表示されます。

「保存した検索方法」の属性を変更するには

1. 「カタログ」>「検索」を選択するか（Win）、または「編集」、「検索」、「検索」の順に選択して（Mac）、「検索」ダイアログボックスを開きます。
 2. 「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから、変更を加える検索方法を選択します。
 3. 検索方法の設定を変更します。
 4. 「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから、「保存」を選択します。これで保存済みの検索方法は更新されます。
- または—
1. 「検索」パレットで、変更したい「検索」を選択して、フライアウトメニューから「検索方法を変更」を選択します。
 2. 標準の「検索」ダイアログオプションを用いて検索条件を変更し、「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから、「保存」を選択します。

「保存した検索方法」の名前の変更、コピー、削除を行うには

1. 「検索」ダイアログボックスで、「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから「リストを編集」(Win)、または「検索方法のリストを編集」(Mac) を選択します。
2. 「検索方法のリストを編集」ダイアログボックスで、編集したい「保存済みの検索方法」を選択します。
3. 「検索方法の名前変更」、「検索方法のコピー」、または「検索方法の削除」の中から適切なボタンをクリックします。
4. 「OK」(Win) または「完了」(Mac) をクリックして「検索」ダイアログボックスに戻ります。

—または—

1. 「保存済みの検索方法」パレットから、名前の変更または削除したい検索方法を選択します。
2. フライアウトメニューから、「検索方法を削除」または「検索方法の名前変更」を選択します。

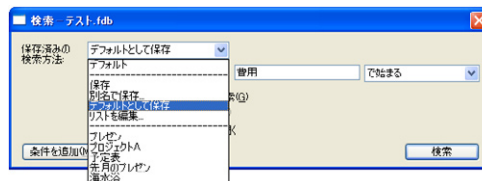


デフォルトの検索方法

「検索」ダイアログボックスを開くたびに（または「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから「デフォルト」を選択）、Portfolio は検索フィールドを「デフォルトの検索方法」で指定された属性で設定します。「デフォルトの検索方法」を編集して、最も頻繁に使うアイテムを「検索」コマンドにあらかじめ設定することができます。

「デフォルトの検索方法」を変更するには

1. 「検索」ダイアログボックスを開いて、デフォルトにした検索フィールドを設定します。
2. 「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから、「デフォルトとして保存」を選択します。



複数のカタログを検索

Portfolio の最も強力な検索機能の 1 つは、開いている複数のカタログを検索してアイテムを探し出すことができる機能です。



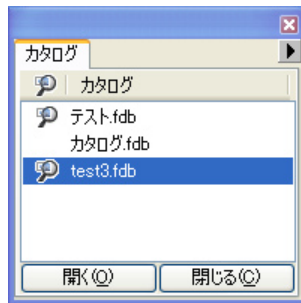
Portfolio では、開いているカタログでのみ検索を行うことができます。複数のカタログで検索を実行するには、対象となるカタログが開いていることを確認してください。

複数のカタログに対して検索するには

1. 検索に含めたいカタログをすべて開きます。開いているカタログは「カタログ」パレットに表示されます。

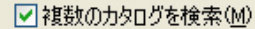
開かれているカタログをすべて検索する必要はありませんが、開かれていないカタログを検索することはできません。

2. 「カタログ」パレットで、検索対象に含めたいカタログを選択します。



カタログ名の左の虫眼鏡アイコンは、そのカタログが検索対象に含まれることを示しています。アイコンが表示されていない場合は、そのカタログは検索対象から除外されています。

3. 「検索」ダイアログボックスで、「複数のカタログを検索」チェックボックスを有効にします。



4. 「検索」ダイアログボックスで、(標準の単一カタログ検索の場合と同様の方法で) 検索パラメータを設定し、「検索」をクリックします。

5. 検索結果は、新しい「複数カタログの検索結果」ギャラリーに表示されます。

このギャラリーには複数のカタログからのアイテムが含まれるので、ギャラリーを設定したり、Web ページの作成、またはアイテムのディスクへの書き込みに使用したりすることはできません。

複数カタログの検索結果を保存

別のギャラリーから画像をドラッグして、複数カタログの検索結果を保存することができます。ギャラリーは特定のカタログと関連しているため、ギャラリーにファイルをドラッグする際、別のカタログにそのファイルがあった場合は、ファイルがそのギャラリーを持つカタログにコピーされます。

複数カタログの検索結果を保存するには (Win)

1. カatalogを選択して、複数カタログの検索結果を格納する新しいギャラリーを作成します。

2. 「複数カタログの検索結果」ギャラリーが最大化した場合、右上の端にある「元に戻す」ボタンをクリックしてギャラリーを表示します。



3. ファイルをクリックして、「複数カタログの検索結果」ギャラリーから新しいギャラリーにドラッグします。

複数カタログの検索結果を保存するには (Mac)

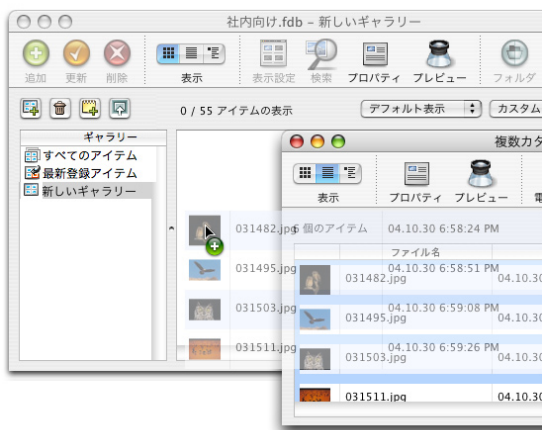
1. カタログを選択して、複数カタログの検索結果を格納する新しいギャラリーを作成します。



他のカタログにあるファイルは、新しいギャラリーとカタログにコピーされることに注意してください。

2. Mac OS X の Portfolio はギャラリーを別々のウィンドウで表示するため、容易にファイルのコピーができます。

ファイルをクリックして、「複数カタログの検索結果」ギャラリーから新しいギャラリー、または「ギャラリー」パネルにあるギャラリー名の上にドラッグします。



「仮レコードアイテム」の検索

作成したすべての仮レコードを簡単に見つけて、作成した仮レコードや更新または削除する必要のある仮レコードを管理することができます。

すべての「仮レコード」を検索するには

1. 「カタログ」、「その他の検索」、「仮レコードアイテム」の順に選択するか (Win)、または「編集」、「検索」、「仮レコードアイテム」を順に選択します (Mac)。

書類のテキストの検索

「書類内のテキスト検索」コマンドを使えば、カタログアイテムではなく、カタログ化された書類のテキストから英文の単語やフレーズを検索することができます。



Portfolio では、テキストファイルと PDF ファイルでの英数字のみ検索を行うことができます。また、上記の種類のファイルをカタログに追加する際には、「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスで、「書類内のテキストをインデックス化」オプションを選択していることを確認してください。

カタログ化された書類からテキストを検索するには

1. 「カタログ」、「その他の検索」、「書類のテキスト」の順に選択するか (Win)、または「編集」、「検索」、「書類のテキスト」を順に選択します (Mac)。
2. 検索する単語またはフレーズを「検索する単語」テキストボックスに入力します。



3. 「いずれか / すべて」のドロップダウンボックスから、検索するすべての単語が書類に含まれる必要がある場合は「すべて」を、検索する単語が1つでも含まれていればよい場合は「いずれか」を選択します。
4. ドロップダウンメニューから、一致オプションを選択します。これらのオプションは普通の「検索」コマンドの場合と同様です。
5. 検索対象を現在のギャラリーに限る場合、または複数のカタログを検索する場合は、適切なオプションを選択します。
6. 「検索」をクリックして検索を開始します。

消失ファイルの検索

「消失ファイルの検索」コマンドは、カタログの各アイテムについて、オリジナルファイルへの正しいパスが存在していることを検証するための特別な検索です。Portfolio がカタログの各アイテムに対応するファイルをディスク上で見つけられない場合は、消失したファイルを検索するか、カタログからアイテムを削除することができます。



「消失ファイルの検索」コマンドは、マウントされているボリューム内でのみ検索を行います。マウントされていないCD-ROMや接続されていないネットワーク上のボリュームでは検索を行いません。

消失ファイルを検索するには

1. 「カタログ」>「その他の検索」>「消失ファイル」を選択するか（Win）、「編集」>「検索」>「消失ファイル」を選択します（Mac）。あるいは、Ctrl キーを押しながら M キーを押すか（Win）、または command キーを押しながら M キーを押します（Mac）。
2. すべての消失アイテムが「消失ファイル」ダイアログボックスに表示されます。



3. ダイアログボックスで消失ファイルを選択します。
4. 「検索」をクリックして、そのファイルの新しい場所を指定します。指定した場所で消失ファイルが見つかった場合は、カタログ内のアイテムが自動的に更新されます。
—または—

「カタログから削除」をクリックして、Portfolio カタログから選択したアイテムを削除してください。

検索に関する注意事項

Portfolio の検索エンジンを使って作業するときは、以下の点に注意してください。

インデックス化

Portfolio は高速検索を行うためにすべてのフィールド内の英数字をインデックス化します。「テキストブロック」のカスタムフィールドを含めて、フィールドは単語レベルでインデックス化されます。これにより、これらのフィールドをフレーズではなく個々の単語により高速に検索することができます。ただし、パスフィールドは、インデックス化できません。

インデックス化されたフィールドを検索する場合は、検索修飾語のドロップダウンメニューから「と一致する」または「で始まる」を選択すると、可能な限り最も高速に検索を行うことができます。非常に大きいカタログを検索する場合、「を含む」や「で終わる」を用いた検索は遅くなる可能性があります。

「日付 / 時刻」フィールド

時刻が入力されていない場合や、フィールドの「時刻の表示」オプションが無効になっている場合でも、「日付 / 時刻」タイプのフィールドを検索するときは、必ず時刻が存在すると仮定されます。つまり、もし（アイテムをカタログ化する際のソースファイルからの抽出により、またはフィールドに時刻を入力することにより）時刻の値がフィールドに入力されており、「時刻の表示」オプションをオフにすることによってそのフィールドが隠されていても、検索が行われる場合には Portfolio は時刻を検索に含めます。

例を示します。「9/15/99」で検索しても「9/15/99 3:00 pm」を含むアイテムは見つかりません。なぜなら、検索の要求は「9/15/99 12:00:00 am.」と解釈されるからです。時刻が表示されていない場合でも、これは変わりません。



Portfolio は、日付をコンピュータの日付と時刻の設定に基づいて保存します。短い形式の日付が使用されている場合、Portfolio は西暦の最後の 2 桁のみを記録するため、検索結果が間違っている可能性があります。この問題の可能性をなくすために、オペレーティングシステムで長い形式の日付を使用します。

Portfolio によるファイルの配布

日々、作業しているデジタルファイルは、おそらく最終的にはどこかに配布されます。同僚に文書を電子メールで送ったり、画像を CD に書き込んだり、離れたファイルサーバーにファイルをアップロードしたり、またはそれらを Web サイトで発行したりする場合があります。

したがって、デジタルファイルを管理する上で重要な点は、それらのファイルを迅速かつ容易に他のユーザーに配布できるかということです。Portfolio には、ファイルを集めて他のユーザーに送付する作業を大幅に合理化できるいくつかの機能があります。この章では以下のことを取り上げます。

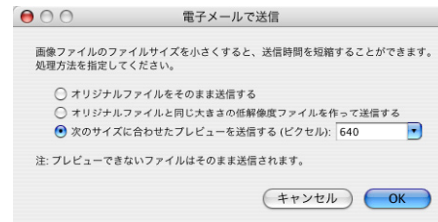
- Portfolio からの電子メールでのファイル送信
- アーカイブと発行のためのファイルの収集とディスクへの書き込み
- カタログファイルからの Web ページの作成
- ファイルのスライドショーによるプレゼンテーションの作成

ファイルの電子メールによる送信

Portfolio カタログの中から電子メールで画像、低解像度のプレビュー、および他のデジタルメディアファイルを他のユーザーに送ることができます。Portfolio は使用しているコンピュータの電子メールソフトウェアに直接接続します。これにより、手動で電子メールのソフトウェアを起動したり、画像の解像度を変更するために画像編集ソフトウェアを開いたりすることなく、画像を配布したり校正した画像を送付したりすることが容易にできます。

Portfolio からファイルを電子メールで送信するには

1. 現在のギャラリーから送信したいアイテムを選択します。
2. ツールバーの「電子メールで送信」ボタン  をクリックします。Portfolio は、ファイルの送信方法を指定するよう（オリジナルファイル、低解像度のプレビュー、または特定のピクセル幅のプレビュー）要求します。



3. オプションを選択して「OK」をクリックします。Portfolio はシステムのデフォルトの電子メールソフトウェアを起動して新規メッセージを作成し、プレビューのオプションが選択された場合はプレビューを生成し、選択されたファイルをメッセージに添付します。
4. 新規の電子メールは、電子メールソフトウェアで自動的に作成されます。電子メールの送付先アドレスを指定し、件名と本文を通常と同様に記入します。



Portfolio から電子メールに添付できるアイテムの数やサイズに制限はありませんが、使用している電子メールクライアントソフトウェア、ネットワーク電子メールサーバー、またはインターネットサービスプロバイダには添付ファイルのサイズ制限がある場合があります。添付ファイルが非常に大きくなる場合は、それらのファイルを Portfolio の「収集」コマンドで集めて、FTP を用いてインターネットで転送するほうが良いかもしれません。

ファイルのディスクへの書き込み

Portfolio には、CD または DVD をアプリケーションから直接焼き付ける機能があります。他の CD/DVD 作成ソリューションは必要ありません。



ディスクへの書き込み機能はオペレーティングシステムに依存しており、Windows 2000 では利用できません。Windows 2000 では、「収集」コマンドでファイルを集めてから、外部の CD/DVD 書き込みソフトウェアでディスクを作成してください。

ディスクへの書き込み機能を使えば、カタログにあるオリジナルファイルのアーカイブの作成や、クライアントのためのプレビュー画像のディスクの制作、またはオリジナルファイルのコピーの発行でさえ行うことが可能です。

ディスク上のファイルを新しい Portfolio カタログに自動的に追加することができます。他の人がカタログを開いて見ることができるように、Portfolio の簡易な読み取り専用バージョンである Portfolio ブラウザを自動的に付加することが可能です。これによりファイルの共有が簡単になります。



非商用での利用に限り、Extensis Portfolio ブラウザ (バージョン 8) を自由にコピーして配布することができます。Extensis Portfolio ブラウザが商用製品の一部として配布される場合は、エンドユーザーライセンス契約の第 2.9 項で定められた複数配布の権利を認めてもらうために、Extensis カスタマーサービスに連絡して Portfolio ブラウザライセンス契約を結ぶ必要があります。

前バージョンの Portfolio と同様、Portfolio を使用して、後でディスクに書き込むためのファイルを集めることができます。詳細については、この章の後ろにある「ファイルの収集」の項を参照してください。

ディスクへの書き込みを開始するには

1. 必要であれば、外部 CD または DVD 書き込み用の機器がコンピュータに接続されていることを確認します。
2. ドライブに空のディスクを挿入します。
3. 「ギャラリー」パレットでディスクに書き込むアイテムのギャラリーを開きます。そのギャラリーのすべてのアイテムがディスクの作成に使用されます。



Portfolio では、同じカタログにあるファイルの書き込みをサポートしています。このオプションは、複数のカタログのアイテムを含むギャラリーでは使用できません。

4. 「ギャラリー」から「CD-R に書き込む」を選択します。

— または —

ツールバーから「CD-R に書き込む」ボタン  をクリックします。

5. 「CD-R に書き込む」ダイアログボックスで、以下の手順のいずれかを行います。オリジナルファイルまたはプレビューファイルのディスクへの発行、あるいはオリジナルファイルのディスクへのアーカイブ。

オリジナルファイルまたはプレビューファイルのディスクへの発行

Portfolio を使ってファイルをディスクに発行し、簡単に他の人とファイルを共有できます。ディスクにはフルサイズのオリジナルファイル、または自動的にサイズ変更された小さいプレビューファイルを書き込むことができます。

ファイルをディスクに発行するには

1. 前述した、ディスクへの書き込みを開始するための手順に従います。
2. 「CD-R に書き込む」ダイアログボックスで、ディスクのボリューム名を入力します。これは、ディスクをドライブに挿入したときに、Windows エクスプローラまたは Macintosh の Finder で表示される名前です。



3. 次の3つのファイルオプションから1つを選択します。

- ・オリジナルファイルのコピーオリジナルのフルサイズのファイルを書き込みます。
- ・オリジナルのファイルと同じ大きさの JPEG ファイル
- ・次の大きさの JPEG ファイルファイルのサイズを変更して、指定されたピクセル幅にするには、このオプションを選択します。



「このカタログ内のアイテムを CD-R 上のファイルに置き換える」オプションを使用しないでください。このオプションは、アーカイブディスクを作成するときのみ使用します。



低解像度 JPEG を選択して、Portfolio が特定のファイルのプレビューを作成できない場合、そのファイルのオリジナルを代わりに含めるか、そのファイルをスキップするかを選択することができます。

4. これらのファイルを書き込むフォルダ名を入力します。

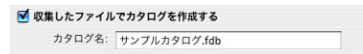
5. 必要であれば、「フォルダ階層を維持してファイルを整理する」オプションをチェックしてください。このオプションを使えば、オリジナルファイルのサブフォルダと同じ階層のサブフォルダがディスク上に作成されます。



ディスクへ書き込むファイルに同じファイル名のものがある可能性がある場合は、ファイル名の重複を避けるためにこのオプションを有効にすることを推奨します。

ディスクに書き込まれるファイルの Portfolio カタログを作成することができます。新しいカタログのアイテムはファイルの新しいコピーにリンクされます。新しく作成されたカタログはオリジナルカタログのコピーで、すべてのカスタムフィールド、データ、および保存済みのビューを保持しています。簡易な読み取り専用バージョンである Portfolio ブラウザを自動的に付加することも可能です。新しいカタログにはサムネール画像や保存済みのビューなど、ユーザーが書き込まれたファイルを見るために基本的に必要なものが含まれています。

6. 必要であれば、カタログを含めるオプションをチェックして、そのカタログ名を入力します。



7. Portfolio ブラウザアプリケーションをディスクに含めるには、そのオプションをチェックします。Mac 上では、Macintosh ブラウザアプリケーションと Windows ブラウザの両方を含めることができます。

8. ダイアログボックスの1番下にある「推定サイズ」フィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ（メガバイト）をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください。

9. 「書き込み」をクリックして、ディスクを作成します。



ディスクに十分な空き容量がない場合には、書き込みの処理は完了できません。必要なディスク容量を減らすには、以下の方法があります。ギャラリーからファイルを削除する、オリジナルファイルの代わりにサイズ変更された JPEG を書き込む、または Portfolio ブラウザと関連するカタログを含まないように選択する

オリジナルファイルのディスクへのアーカイブ

オリジナルファイルのアーカイブディスクを作成する場合があります。あるいは、アーカイブディスクを作成する場合は、オリジナルファイルはディスクにコピーされ、カタログはアーカイブディスクを参照するようにアップデートされます。カタログにはサムネールとプレビュー画像が含まれますが、オリジナルファイルを開こうとすると、Portfolio はアーカイブディスクを挿入するように要求します。

ファイルをディスクにアーカイブするには

1. 前述した、ディスクへの書き込みを開始するための手順に従います。
2. 「CD-R に書き込む」ダイアログボックスで、ディスクのボリューム名を入力します。これはアーカイブディスクの名前で、ディスクをドライブに挿入したときに、Windows エクスプローラまたは Macintosh の Finder で表示される名前です。

多くのアーカイブディスクを作成するときは、たとえば ARCHIVE001、ARCHIVE002、といったような論理的なボリューム命名規則を使うのが良いでしょう。これにより、ディスクの整理を効率的に行うことができ、アーカイブディスクをすぐに見つけることができます。



ボリューム名の長さは最大 16 文字に制限されています。

3. Mac の場合、「オリジナルファイル（このカタログ内のアイテムをディスク上のファイルに置き換える）」を選択します。

Windows では、「オリジナルファイルのコピー」を選択して、「このカタログ内のアイテムを CD-R 上のファイルに置き換える」オプションをチェックします。

4. ディスク上でオリジナルファイルを整理するためのフォルダ名を入力します。
5. 必要であれば、「フォルダ階層を維持してファイルの整理」オプションをチェックしてください。このオプションを使えば、オリジナルファイルのサブフォルダと同じ場所のサブフォルダがディスク上に作成されます。

アーカイブディスクを作成すると、ソースカタログはオリジナルファイルの新しい場所を参照するように更新されます。また、アーカイブに書き込まれたファイルだけを含む新しいカタログをディスク上に作成することもできます。これは必要ではありませんが、特定のアーカイブディスク上にあるファイルのカタログだけを見たい場合に便利です。

6. 必要であれば、カタログを含めるオプションをチェックして、そのカタログ名を入力します。



アーカイブのボリューム名と同じような名前をつけると便利です。

7. Portfolio ブラウザアプリケーションをディスクに含めるには、適切なオプションをチェックします。

Mac 上では、Macintosh ブラウザアプリケーションと Windows ブラウザの両方を含めることができます。

8. ウィンドウの 1 番下にある「推定サイズ」フィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ（メガバイト）をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください。
9. 「書き込み」をクリックしてアーカイブディスクを作成します。書き込み処理が完了すると書き込みセッションは閉じられるので、ディスクにそれ以上ファイルを書き込むことはできません。



ディスクに十分な空き容量がない場合には、書き込みの処理は完了できません。必要なディスク容量を減らすには、以下の方法があります。ギャラリーからファイルを削除する、または Portfolio ブラウザに関連するカタログを含めないように選択する。

アーカイブディスクに書き込みを行った後、オリジナルファイルはまだシステム上に残っていますが、カタログはすでにアーカイブディスクを参照しています。必要であれば、Finder (Mac) またはエクスプローラ (Win) を用いてシステム上のオリジナルファイルを削除してもかまいません。

ファイルの収集

Portfolio を使用していると、カタログ化されたファイルをコンピュータやネットワーク上のさまざまな場所からコピーして1か所に集めるのが便利だと思う場合が多くあるかもしれません。「CD-R に書き込む」コマンドと同様に、「収集」コマンドはファイルをコピーして収集します。それらのファイルを含む新しいカタログの作成や、簡易な読み取り専用バージョンである Portfolio ブラウザのコピーを作成することもできます。

「収集」機能を使用するのは次のような場合が考えられます。

- ・ ネットワーク上に分散しているファイルを1つの場所にコピーする。
- ・ ファイルを選択してネットワーク上の新しいフォルダにコピーし、他の人がそれらのファイルにアクセスして使用できるようにする。
- ・ オリジナルのカタログを変更することなく、選択したファイルだけを含む新しいカタログを作成して、関連するファイルと共にこのカタログを他のユーザーに送付する。
- ・ ファイルを1か所に集め、Portfolio のファイルと他の必要な内容をすべて含んだ CD または DVD を作成する。これは「CD-R に書き込む」コマンドを使うよりも「収集」コマンドを使う方が便利な点です。
- ・ 配布とレビューのために低解像度の JPEG 画像を集める。

ギャラリーに集めるためのファイルの整理

Portfolio の「収集」機能は、ギャラリーのすべてのファイルに対して作用します。したがって、「収集」機能を使うための最初の操作は、現在のギャラリーが収集したいファイルだけを含むように設定することです。これは以下のように行います。

- ・ 含めたいファイルだけを表示するように、検索を行います。

- ・ 新しいギャラリーを作成して、必要なアイテムだけを新しいギャラリーにドラッグします。また一時ギャラリーを使うと、収集するファイルを簡単に集めておくことができます。

もとのフォルダ階層でのファイルの整理

ファイルを収集する際に、オリジナルファイルの「フォルダ階層を維持してファイルを整理する」オプションを選択することができます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。つまり、オリジナルファイルがディスク上にどのように置かれているかに関係なく、すべてのファイルを1つのフォルダに収集します。

「収集」ダイアログボックスでこのオプションをオンにすると、ファイルのコピー時に、オリジナルファイルが整理されているフォルダの階層構造と同じ収集されたファイルのフォルダ階層構造を再構成します。この階層は必ず、選択したファイルをすべて含む最上層（親）のフォルダから始まります。

カタログの作成

「収集」ダイアログボックスで「収集したファイルでカタログを作成する」オプションをオンにすると、Portfolio は収集するファイルを含む新しいカタログを自動的に作成します。新しいカタログのアイテムはオリジナルではなく、新たにコピーされたファイルにリンクされます。

「収集」コマンドで新しく作成されたカタログはオリジナルカタログのコピーで、すべてのカスタムフィールド、データ、および保存済みのビューを保持しています。これにより、希望の外観とスタイルでカタログを配布することができます。



新しいカタログを収集されたファイルと同じフォルダに保存するのは推奨できません。コレクションのユーザーがカタログファイルを見つけて開くのが困難になるからです。カタログをコピー先のルートレベルに保存し、ファイルを「images」と名付けたサブフォルダに分けて収集するのが良いでしょう。

ボリューム名の設定 (Windows のみ)

Windows で CD を作成する場合は、新しいカタログ内のパスがハードドライブやネットワーク上のファイルではなく、作成した CD 上のファイルを参照するように、ボリュームの名前を正しく設定することが重要です。このフィールドには作成する予定の CD ボリュームの名前を入力します。新しいカタログは、収集されたファイルの最終的なパスにこのボリューム名を含みます。

Portfolio ブラウザの付加

Portfolio ブラウザは無料の Portfolio の読み取り専用バージョンです。Browser アプリケーションを使えば、Portfolio カタログを開いたり、サムネールやプレビューを見たり、キーワードや他の条件で検索を行ったりすることができます。ただし、カタログにアイテムを加えたり、カタログのアイテムを編集したり削除したりすることはできません。また、ネットワーク環境で Portfolio Server によって公開されているカタログに接続することもできません。「収集」機能により Portfolio ブラウザのコピーを作成して、コレクションに自動的に付加することができます。



非商用での利用に限り、Extensis Portfolio ブラウザ (バージョン 7) を自由にコピーして配布することができます。Extensis Portfolio ブラウザが商用製品のの一部として配布される場合は、エンドユーザーライセンス契約の第 2.9 項で定められた複数配布の権利を認めてもらうために、Extensis カスタマーサービスに連絡して Portfolio ブラウザライセンス契約を結ぶ必要があります。

「収集」コマンドでファイルを収集するには

1. コレクションに含めるすべてのファイルが現在のギャラリーに含まれていることを確認します。
2. ツールバーの「収集」ボタンをクリックします。
— または —
「ギャラリー」から「収集」を選択します。

3. オリジナルファイル、低解像度の JPEG、または特定のピクセル幅の低解像度 JPEG ファイルの中から、収集するファイルの種類を選択します。



低解像度 JPEG を選択して、Portfolio が特定のファイルのプレビューを作成できない場合、そのファイルのオリジナルを代わりに含めるか、そのファイルをスキップするかを選択することができます。

4. コレクションの保存先を選択してください。



「フォルダ」ボタンをクリックする (Macintosh) か、または「参照」ボタンをクリック (Windows) して、新しいコレクションがコピーされるフォルダを選択します。「フォルダの選択」または「フォルダの参照」ダイアログボックスで、既存のフォルダの選択または新しいフォルダの作成ができます。



Mac の場合: 収集したファイルを CD-R に書き込む場合、カタログ機能を付加して正常に動作させるには、CD をドライブに挿入してマウントされたボリュームを収集先に指定してください。

5. 収集したファイルをフォルダ階層にコピーする場合は、「フォルダ階層を維持してファイルの整理」オプションをチェックしてください。

収集されたファイルを単一のフォルダに収集する場合は、このオプションのチェックを外したままにします。

6. コレクションのために新しいカタログを作成する場合は、「カタログを作成」オプションをチェックします。

収集するファイルの新しいカタログが不要な場合は、このオプションのチェックを外したままにします。このオプションをオンにする場合は、新しいカタログの名前と保存場所を指定します。



「カタログを作成」コマンドは、他のユーザーがカタログにログインしている場合は動作しません。これはカタログのクローンを作成している間に、カタログに対する変更が行われないようにするためです。アーカイブカタログの作成をする場合、他の Portfolio（または Portfolio Express パレット）がカタログを開いていないことを確認してください。

- Windows の場合：コレクションを CD-R に書き込む場合、「このボリューム名を新しいカタログで使用する」をオンにして、最終的に CD に付ける名前を入力します。これにより、アーカイブカタログのパスが正常に動作します。
- 無料の Portfolio ブラウザのコピーを作成してコレクションに付加する場合は、「ブラウザを含める」チェックボックスをオンにします。このオプションは、コレクションの新しいカタログの作成を選択した場合のみ利用可能です。
Mac では Portfolio ブラウザの Macintosh バージョンと Windows バージョンの両方を付加するよう選択できます。
- ウインドウの 1 番下にある「推定サイズ」フィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ（メガバイト）をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください。



それ自身のフォルダに収集される、無料の Portfolio ブラウザの付加

ファイルをルートフォルダに収集する。サブフォルダを好きなだけ含められる

アーカイブカタログファイルはそのアイテムのファイルと別の場所に置き、アクセスしやすくする

10. 「収集」をクリックします。Portfolio は現在のギャラリーのすべてのアイテムをコピーし、指定されたオプションに応じてカタログとブラウザを作成します。

「収集」コマンドとディスクへの書き込み

「収集」機能は、CD または DVD に書き込むファイルを収集するのに完璧な機能です。Portfolio からのファイルだけでなく他のファイルも含めたい場合は、「収集」コマンドは必要とされるほとんどの作業（ファイルの保存先ディスクへのコピー、ファイルの新しいカタログの作成、Portfolio ブラウザのコピーの生成）を行うことが可能です。

「収集」機能を用いた後、収集されたファイルをディスクに書き込むためには、外部のディスク書き込みソフトウェアを使用する必要があります。

「収集」を用いた CD の設定方法

「収集」機能を用いて、カタログと Portfolio ブラウザとともに CD または DVD に書き込む画像を収集する場合、収集したファイルを好きなように整理できますが、以下に示すような構成を強く推奨します。

Windows マシンでディスクに書き込みを行う場合は、「収集」ダイアログボックスで指定したボリューム名と同じボリューム名を必ず CD 制作ソフトウェアで使用してください。

Portfolio での Web デザイナー

Portfolio は、2つの異なったレベルの Web デザイナーをサポートします。基本的なレベルのサポートには「Web ページ作成」アシスタントがあります。この機能により、Web ページをゼロから作ったり、HTML コードを直接書くことなく、Portfolio カタログから極めて簡単に Web ページを作成することができます。「Web ページ作成」アシスタントを用いて生成される Web ページは静的なものです。それをエクスポートした時点での Portfolio の内容は、静止した「スナップ写真」のようなものです。

より高度なレベルには、Portfolio NetPublish があります。この強力な機能を使えば、Portfolio カタログの Web への発行をダイナミックに行うことができます。Portfolio NetPublish で制作した Web ページでは、Web ユーザーがリアルタイムでカタログ内のファイルに対する追加や変更を Web 上で見ることができます。Portfolio NetPublish アシスタントは、自動的に Portfolio クライアントとともにインストールされます。NetPublish の機能を試してみるには、NetPublish Server もインストールする必要があります。複数のユーザーが NetPublish ページに接続できるようにするには、NetPublish Server のライセンスを別途購入する必要があります。シリアル番号なしで NetPublish の機能を試す場合は、1 サーバー当たり 1 時間に 1 ユーザーの接続が可能です。システム要件とインストールに関する詳細については、『NetPublish ユーザーガイド』を参照してください。

Web ページの作成

「Web ページの作成」を使用すると、洗練された Web ページを作成することができます。直感的に操作できる「Web ページ作成」アシスタントは、プロフェッショナルな出来映えの Web ページを作成する各操作をサポートします。

サイトを作成するには、選択するサイトテンプレートにより、最大 5 つの簡単な操作があります。サイトの各ページを設定するために、以下の操作をアシスタントが順を追ってガイドします。

Web ページを作成するための操作

カタログ選択 エクスポートするカタログ名と画像数を一覧表示します。

開始 Web サイトのレイアウトを選択します。

サイト サイトのすべてのページに適用されるグローバル設定をここで設定します。サイトに「ようこそページ」を加えることもできます。

ギャラリー Web ページでの画像の表示方法を設定します。

詳細 通常 1 つの高解像度画像と他の詳細情報が表示される詳細情報ページを設定します。

エクスポート エクスポートする場所の設定と、テンプレートに加えられた変更の将来の再利用のための保存を行います。

Portfolio ギャラリーの選択された画像の Web ページを作成するには

1. Web ページに含める画像のサムネールを選択します。

「Web ページの作成」コマンドは選択されたアイテムのみに作用します。ギャラリーで表示されているすべての画像を含めるときは、「編集」から「すべて選択」を選択します。

2. 「アイテム」から「Web ページの作成」を選択します。

「Web ページ作成」アシスタントが表示されます。アシスタントが処理の各操作を案内します。以下では、各操作に関する詳細について説明します。



HTML コードによる Web ページ作成と同様、Web を見る人が使用するブラウザの種類とバージョンにより Web ページの見え方は異なります。作成されたページにアクセスするユーザーが使用すると想定されるすべてのブラウザで生成されたページをテストすることを推奨します。

「カタログ選択」の操作

「カタログ選択」の操作では、エクスポートを選択したカタログ名と画像数が一覧表示されます。「次へ」を選択して、アシスタントの次の操作へ移動します。



「開始」操作

「開始」操作では8つのプロフェッショナルなデザインのテンプレートから選択することができます。これらのテンプレートをコピーして、特別なニーズに合わせて設定することもできます。

操作の1番上のアシスタントパスにより、現在、エクスポート処理のどこまで進んでいるのかが分かります。各サイトのアイコンをクリックすると、そのテンプレートの詳細な説明が表示されます。

各テンプレートは特定のページレイアウトとデザイン情報を持っており、アシスタントは各テンプレートで設定可能なオプションとページのみを表示します。



「開始」ステップ以降、どの時点でも「Web ページのエクスポート」をクリックすることができます。この場合、以降のステップではデフォルトの設定が使用されます。

あらかじめデザインされたテンプレートを使用するには

1. テンプレートのアイコンをクリックしてハイライトさせます。
2. 「Web ページのエクスポート」(または「エクスポート」)をクリックして、すべてデフォルトでサイトを設定します。
—または—
2. 「次へ」をクリックして、テンプレートのページを設定します。

テンプレートへのカスタム変更を保存するには、この操作でテンプレートをコピーし、「エクスポート」操作で「コピーを保存」(または「名前を付けて保存」) ボタンを使います。または、アシスタントの各操作で「ソースの表示」ボタンを使い、ソースコードを表示、編集します。

テンプレートへの変更を直接デフォルトのテンプレートに保存することはできません。これにより、常にデフォルトのテンプレートにアクセスすることができます。



テンプレートをコピーするには

1. テンプレートのアイコンを右クリックするか (Win)、または Ctrl キーを押しながらクリック (Mac) して、メニューから「複製」を選択します。
2. ダイアログボックスで新しいテンプレートの名前を入力して、「OK」をクリックします。
3. 新しいテンプレートのアイコンをクリックしてハイライトさせます。
4. 「次へ」をクリックして、新しいテンプレートを使ったページの設定を始めます。



「Web ページの作成」アシスタントの「ページ作成」(エクスポート) ステップでも、テンプレートを保存することができます。テンプレートを変更した場合には、今後そのテンプレートを使用できるように、保存しておくことをお勧めいたします。

使用しないテンプレートが多くある場合は、それらを表示しないように非表示にすることができます。非表示にされたテンプレートは削除されたのではなく、いつでもまた表示することができます。

テンプレートを非表示にするには

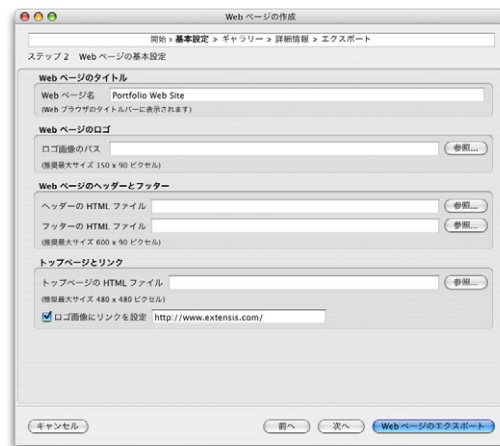
- ・ サイトのアイコンを右クリックするか (Win)、または Ctrl キーを押しながらクリックして (Mac)、メニューから「非表示」を選択します。

テンプレートを再表示するには

1. 任意のサイトのアイコンを右クリックするか (Win)、または Ctrl キーを押しながらクリックします (Mac)。
2. 「再表示」から以下のいずれかを選択します。
 - ・ 「すべてを表示」(または「すべて」) を選択して、すべての隠されたテンプレートを表示します。
 - ・ または -
 - ・ 再表示する特定のテンプレート名を選択します。

「基本設定」操作

「基本設定」操作ではグローバルサイトオプションを指定します。これらはサイトのすべてのページに表示されるアイテムです。



Web ページのタイトル

「Web ページのタイトル」ボックスには、サイトを見るときにブラウザのタイトルバーに表示されるテキストを入力します。

Web ページのロゴ

すべてのページに表示されるカスタムグラフィックを選択できます。これは、会社のロゴや、表示される画像の説明となるグラフィックに使用できます。

JPG、GIF、PNG のファイルが使用できます。画像の推奨できる最大サイズは 150 × 90 ピクセルです。

デフォルトのロゴの画像を変更するには、「参照」ボタンをクリックして、使用する画像を指定します。



画像のファイル、HTML、および他のファイルはコンピュータ上のどこにあっててもかまいません。サイトをエクスポートするときにアシスタントが自動的にすべてのファイルを集めます。

Web ページのヘッダーとフッター

「Web ページのヘッダーとフッター」はテキストまたは HTML を含みます。Web サイトのナビゲーションボタン、または選択したものを何でもここに含めて、現在使用中の他のサイトと一致する外観を作成できます。

推奨できるヘッダーとフッターの最大の大きさは、600 × 90 ピクセルです。

「ヘッダー」または「フッター」ファイルを変更するには、「参照」ボタンをクリックします。選択したファイルが自動的にコピーされて、ファイル名が `header.html` または `footer.html` に変更されます。



アシスタントでは特に表示されていませんが、新しいヘッダー、フッターまたはロゴを指定しないかぎり、デフォルトテンプレートを使用する場合はヘッダー、フッター、Web ページのロゴは必ず含まれます。

「トップページとリンク」

「トップページ」はサイトのユーザーに最初に表示されるページです。サイトの移動方法の説明や、他の重要な情報を置くことができます。

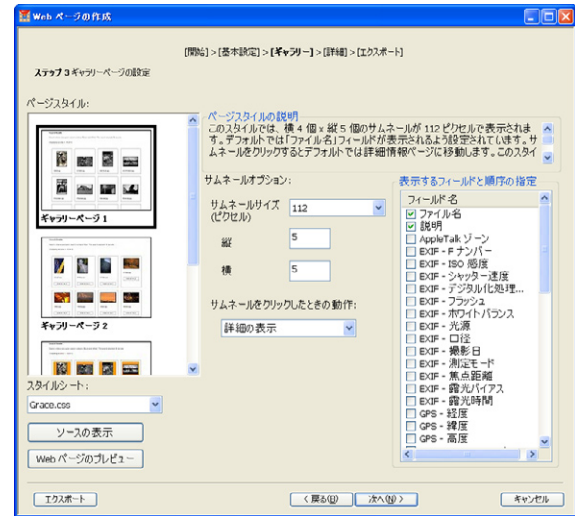
「トップページ」の推奨できる最大サイズは 480 × 480 ピクセルで、テキストまたは HTML を含みます。

「ロゴ画像にリンクを設定」

このオプションをチェックすると、すべてのページに指定したホームページへのリンクが設定されます。ほとんどのテンプレートでは、ロゴのグラフィックがリンクになっており、このテキストボックスに入力された URL を使用します。

「ギャラリー」操作

「ギャラリー」操作では、アイテムのサムネールを表示する Web ページを設定します。この操作ではページデザイン、サムネールのサイズ、表示されるデータフィールドの情報などを指定します。



「ページスタイル」

最初の操作はギャラリーの「ページスタイル」の選択です。「ページスタイル」は、ページの一般的な機能と、ページの「外観」を定義します。「ページスタイル」は何のアイテムがどこに表示されるかを決定します。「ページスタイル」を選択しない場合は、デフォルトのページスタイルが選択されます。

「ページスタイル」を選択するには

- ・「ページスタイル」のアイコンをクリックしてハイライトさせます。

「スタイルシート」

選択したサイトによって、複数の「スタイルシート」が選択できる場合があります。「スタイルシート」はサイトの配色と、通常はでき上がったページの背景色、各アイテムのテキストの色をコントロールします。

「サムネールオプション」

「サムネールオプション」を使えば、表示される画像のサイズ、縦横のレイアウト、および画像をクリックした際の動作を設定できます。

「サムネールサイズ」は、カタログのサムネールのサイズに直接影響されます。「オリジナルサイズ」を選択すると、カタログのサムネールのサイズが使用されます。



カタログのサムネールのサイズより大きいサイズを選択すると、サムネールの表示品質が低下する可能性は高くなります。したがって、もしカタログでサムネールが112ピクセルで作成されている場合は、112より大きいサイズを入力するべきではありません。新しい設定を選択した場合は、必ずページをプレビューして確認してください。

ドロップダウンメニューから、サムネールがクリックされた場合の動作を選択します。「詳細の表示」を選択すると「詳細情報ページ」が表示されます。他のオプションはオプションの内容通りです。

表示フィールド

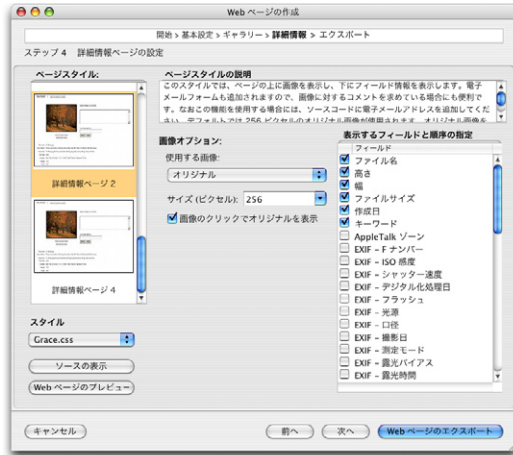
「ページスタイル」によっては、多くのデータフィールドを表示することができます。ページに含めるデータフィールドをチェックして、フィールドをクリック、およびドラッグし、適切な表示順序に並べ替えます。



表示するフィールドの順序を選択するときは、ページのユーザーに対する表示方法によりフィールドをグループ化するのが最良の方法です。フィールドはそのデータタイプに応じて、テキストボックス、プルダウンメニュー、またはハイパーリンクとして表示されます。デフォルトのテンプレート設定は通常、テキストボックス、プルダウン、およびハイパーリンクの順にフィールドをグループ化しています。

「詳細情報」操作

詳細情報ページは通常、他のページで表示されるサムネールより大きいサイズで高品質の画像が1つ表示されます。この操作では、「詳細情報ページ」オプションを選択します。



「ページスタイル」と「スタイルシート」

「ページスタイル」と「スタイルシート」オプションは前ページと同様の動作をします。「ページスタイル」をクリックしてハイライトさせ、「スタイルシート」をドロップダウンリストから選択します。

「画像オプション」

表示される画像、画像のサイズ、画像がクリックされた場合の動作を選択することができます。

画像の「使用する画像」では、Web ブラウザ上でどの画像を表示するかを指定します。以下から1つを選択してください。

- ・「オリジナル」はオリジナル画像を表示します。この設定を使用する場合は、必ず具体的な画像のサイズを次のフィールドで設定してください。
- ・「プレビュー」はカタログからの画面プレビューを使用します。カタログが画面プレビューを含んでいない場合は、オリジナル画像が使用されます。
- ・「サムネール」はカタログのデフォルトサムネールを使用します。

「オリジナル」以外でサイズを設定した場合は、Portfolio が画像を選択されたサイズに変更します。



画像サイズと「使用する画像」の両方に「オリジナル」を選択した場合、Web ブラウザで表示できないファイル (TIF、PSD など) は詳細画像を表示できません。この問題を解決するには、「オリジナルサイズ」以外の画像サイズを選択してください。これにより、Portfolio が自動的に新しい画像を作成します。

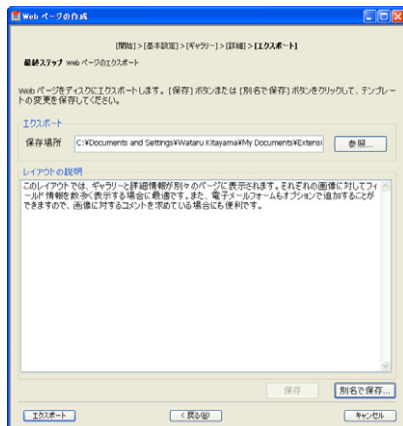
ユーザーがオリジナルファイルを開くことのできるリンクまたはボタンを追加するには、「画像のクリックでオリジナルを表示」オプションをチェックします。

表示フィールド

「ページスタイル」によっては、多くのデータフィールドを表示することができます。ページに含めるデータフィールドをチェックして、フィールドをクリック、およびドラッグし、適切な表示順序に並べ替えます。

「エクスポート」操作

「エクスポート」操作では、サイトをエクスポートする場所とテンプレートのコピーを保存する場所を指定します。



テンプレート設定のコピーの保存

すべての選択をした後、同じ設定をまた使用するために選択内容を保存する場合があるかもしれません。選択内容を保存するには、レイアウトの説明を入力して「コピーを保存」(または「名前を付けて保存」) ボタンをクリックします。次回「Web ページ作成」アシスタントを使用するときに、保存されたテンプレートが他のデフォルトテンプレートとともに一覧表示されます。

サイトのエクスポート

1. 「保存場所」ボックスにディレクトリを入力します。
—または—
「参照」ボタンをクリックして、保存するディレクトリに移動します。
2. 「Web ページのエクスポート」(または「Web ページ」) をクリックします。



選択したアイテムの数によっては、サイトのエクスポートには非常に長い時間がかかる場合があります。

ソースコードの編集

「ソースの表示」ボタンをクリックして、選択されたページのソースコードを簡単なテキストエディタで表示します。この機能はあらかじめ定義されたコードを少し調整する場合に便利です。

エディタでは以下のことができます。

- ページのソースコードを直接編集する。
- デフォルトの Web ブラウザで加えた変更をプレビューする。
- 現在のソースコードをファイルにエクスポートする。
- ファイルを読み込み、現在のソースコードをインポートしたファイルで置換する。
- 編集されたソースファイルを「保存」または「別名で保存」(または「名前を付けて保存」) する。



コピーしたテンプレートまたはカスタマイズ可能なテンプレートで作業している場合は、「保存」しか選択できません。あらかじめ設計されたテンプレートで作業している場合は、「別名で保存」(または「名前を付けて保存」) を選択して新しいファイルを作成してください。



ソースファイルを編集する場合、ページの機能が損なわれて、できあがったサイトが正常に動作しない可能性があります。ソースファイルを編集する際には注意してください。

ソースを表示する前にすべてのページ設定の選択を完了することを推奨します。これによって、アシスタントにより設定されるパラメータをより良く理解することができ、ページの機能を損なう可能性が少なくなります。

「閉じる」ボタンをクリックすると、アシスタントに戻ります。

スライドショー

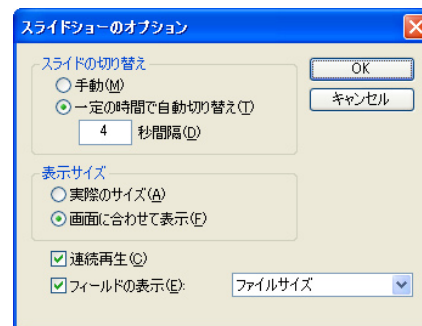
Portfolio のスライドショー機能を使えば、カタログの画像 (サムネイルではない) から自動的に実行されるスライドショーを作成できます。スライドショーは、指定した間隔、または手動で画像を進めます。スライドショーを他の人に配布するために、スタンドアロンの QuickTime ムービーに保存することさえ可能です。

Portfolio はアクティブなギャラリーのファイルをスライドショーに使用します。スクリーンは空白になり、現在のギャラリービューの背景色の上で画像が表示されます。画像を実際のサイズで表示するか、ディスプレイを最大限に利用するサイズに変更するかを選択できます (もしアイテムがスクリーンで表示するには大きすぎる場合は、自動的に縮小されます)。

スライドショーで使用するアイテムを指定するとき、画面プレビューが存在する場合は、画面プレビューが表示されます。画面プレビューが見つからず、ソースファイルも見つからない場合は、アイテムのサムネイルが表示されます。

スライドショーのオプションを設定するには

1. 「表示」から「スライドショーのオプション」を選択します。
2. 「スライドショーのオプション」ダイアログボックスの「スライドの切り替え」セクションで、「手動」または「一定の時間で自動切り替え」を選択します。手動のスライドショーでは、矢印キー、または画面上のビデオのようなスライドショーコントロールを使って画像を切り替えます。一定時間で自動的に切り替わるスライドショーでは、スライドは自動的に進みます。時間間隔を最大 99 秒まで設定できます。



3. 表示サイズを選択します。「実際のサイズ」は、画像をソースファイルの画像の実際のサイズで表示します。「画面に合わせて表示」では、画像をディスプレイの画面サイズに合わせて拡大します。いずれの場合も、画像が大きすぎる場合は、画面に合わせて縮小されます。
4. スライドショーの他のオプションを設定します。
スライドショーを連続再生する場合は、「連続再生」チェックボックスをオンにします。スライドショーで画像とともにフィールド (たとえば、ファイル名、またはカスタムフィールドに保存されたキャプション) を表示する場合は、「フィールドの表示」チェックボックスをオンにして、ドロップダウンメニューからフィールドを選択します。スライドショーを実行すると、画面の 1 番下、画像の下に (現在のギャラリーで使用されているフォントで) フィールドテキストが表示されます。
5. すべてのオプションの設定が完了したら、「OK」をクリックします。これでスライドショーを実行する準備が整いました。

スライドショーを実行するには

1. スライドショーで使用するアイテムをすべて含むギャラリーを作成します。
2. ギャラリー内のアイテムをクリックし、表示したい順番にドラッグして並べ替えます。



スライドショーは、画像、ムービー、およびサウンドを含むことができます。Portfolio でプレビューできるものはすべてスライドショーで表示できます。

3. 「表示」から「スライドショー」を選択するか、⌘ キーと Shift キーを押しながら S キーを押すか (Mac)、または Ctrl キーを押しながら : キーを押します (Windows)。
4. 手動で操作するスライドショーでは、コントローラーの矢印を使って、次または前のアイテムに移ります。または、キーボードの左右の矢印キーを使って、スライドショーの中で前後のアイテムに移動できます。Home または End キーを使えば、スライドショーの最初または最後に移動できます。



時間で自動的に切り替わるスライドショーは自動的に開始します。しかし、ミニコントローラーの一時停止ボタンを使えば、プレゼンテーションの停止や開始、再開を行うことができます。

もしスライドショーが「連続再生」でなければ、最後のアイテムが表示されると終了します。

5. スライドショーを中断してギャラリーに戻るには、コントローラーの「停止」ボタンを押すか、キーボードの Esc キーを押します。



時間で切り替えのスライドショーの場合、指定された時間間隔がたってから画像の読み込みが始まり、大きい画像の場合は読み込みに最大 2 ～ 3 秒かかるということに注意してください。

スライドショー中の編集

手動のコントローラーを使用すれば、スライドショーの間に以下のさまざまなファイル操作を行うことができます。



Portfolio カタログからアイテムを削除する。



オリジナルファイルを削除する。



オリジナルファイルをコピーする。



オリジナルファイルを移動する。



オリジナルファイルの名前を変更する。

これらのコントロールを使えば、スライドショーで多くの画像をフルスクリーンでプレビューしながら、同時にそれらの画像を整理することができます。

スライドショーの自動開始

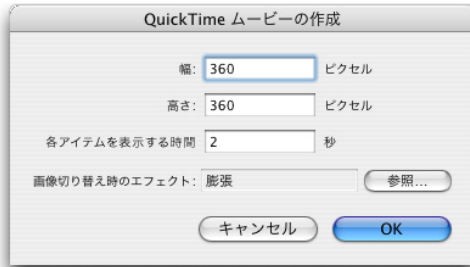
また、カタログが開かれたときにスライドショーを自動的に実行させることができます。これを設定するには、「カタログ」から「カタログ管理」を選択して、「起動時の動作」タブを開きます (この操作を行うためには、カタログに対して管理者アクセス権を持っている必要があります)。パネルの「起動時の動作」セクションで、「スライドショーを開始する」チェックボックスを有効にします。

スライドショーの QuickTime ムービーへの保存

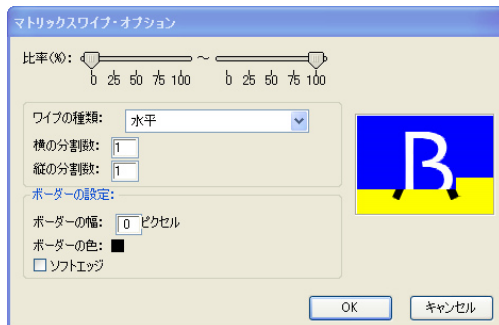
「QuickTime ムービーを作成」オプションはカタログのアイテムをエクスポートして、QuickTime ムービーのフォーマットで保存します。スライドショーをエクスポートする場合は、ムービーのトランジションを指定できます。

スライドショーを QuickTime ムービーとしてエクスポートするには

1. QuickTime ムービーを使ったスライドショーとしてエクスポートするギャラリーを開きます。
2. 「アイテム」から「QuickTime ムービーの作成」を選択します。



3. ムービーのサイズを設定し（ピクセル数で）、各スライドのタイミングを設定し、「画像切り替え時のエフェクト」をドロップダウンボックスから選択します。
4. 「編集」ボタン (Win) または「参照」ボタン (Mac) をクリックして、画像を切り替えるときのエフェクトを設定します。各エフェクトに特有のオプションがあります。画像を切り替えるときのエフェクトのオプションを設定して、「OK」をクリックします。



5. 「OK」をクリックして、QuickTime ムービーの設定を完了します。
6. ムービーファイルの名前と保存場所を選択します。
7. 「保存」をクリックします。



スライドショーをエクスポートするときに、オリジナル画像（アイテムのソースファイル）が見つからない場合は、カタログのサムネイルが代わりにエクスポートされます。QuickTime ムービーファイル(.mov)をエクスポートした場合は、エクスポートされたファイルは空になります。

Portfolio Express パレットの使用

Portfolio Express パレットはフローティングパレットで、いつでもすべてのアプリケーションからグローバルキーボードショートカットにより、Portfolio カタログの内容を簡単に利用できるようにします。カタログ化したすべてのファイルを検索したり、コピーしたり、開いて使用することができます。Portfolio を起動して開く必要もありません。パレットは、カタログ中の各アイテムのサムネールをファイル名とともに表示します。

Portfolio Express パレットには以下のような使い方があります。

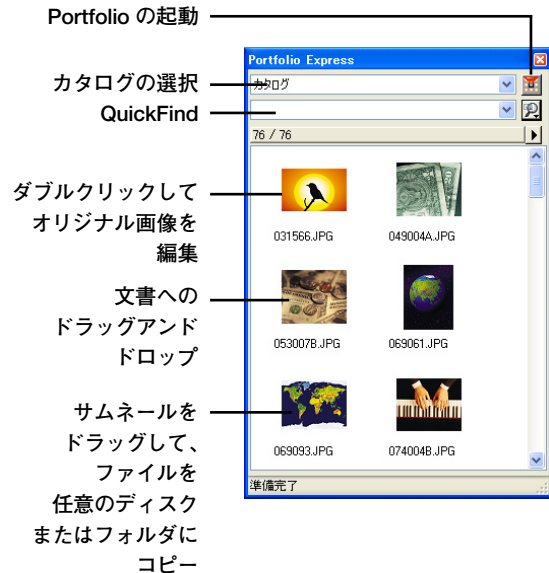
- パレットを使って画像をすばやく探し出し、見つけた画像をダブルクリックして、Adobe Photoshop や指定した他の画像編集ソフトウェアでその画像を開くことができます。
- パレットを開いて、Microsoft Word や Adobe InDesign のようなドラッグアンドドロップに対応したアプリケーションに画像をドラッグすることができます。
- 電子メールを作成しているときに、ファイルとパレットをつかみメッセージにドラッグすることにより、そのファイルを添付することができます。
- パレットからロゴ、クリップアート、または他の画像を選択して、PowerPoint のスライドや Word の文書に直接ドラッグできます。
- Portfolio Express ホットキーを押して、パレット上の画像を選択し、「Finder で表示」コマンドまたは「エクスプローラで表示」コマンドを選択するだけで、ディスク上にある画像を今までにはない速さで見つけ出すことができます。

Portfolio Express パレットは、システムのどの場所からでも、画像にすばやく、簡単にアクセスできるよう設計されています。Portfolio Express パレットでは、Portfolio へ新しいアイテムをカタログ化したり、既存の Portfolio レコードを編集したり、キーワードを追加したり、他のファイル管理のタスクを実行したりすることはできません。

Portfolio Express パレットは、カタログ化されたアイテムを選択して使用することを容易にします。Portfolio カタログを編集したり、他のファイル管理を行うには、メインの Portfolio アプリケーション（パレットから起動できる）を使用してください。

Portfolio Express パレットは完全にバックグラウンドで実行されるので、Macintosh Dock や Windows のツールバーにアイコンは表示されません。

Portfolio Express パレット



Portfolio Express の設定

Portfolio Express パレットは Portfolio とは異なる、独立したアプリケーションです。デフォルトでは、Portfolio Express パレットはメインの Portfolio アプリケーションと同じフォルダにインストールされます。

Portfolio Express をインストール後、最初に起動するには

Macintosh: Portfolio Express を起動するには、Portfolio Express のアイコンをダブルクリックします。Macintosh の場合、デフォルトのインストールでは Portfolio Express は自動的に起動しません。

Windows: Portfolio Express パレットは起動時のアプリケーションとしてインストールされるので、バックグラウンドですでに実行されています。デフォルトのホットキーを押す (Ctrl キーと Shift キーを押しながら P キーを押す) か、システムトレイの Portfolio Express のアイコン  をダブルクリックすると、パレットが表示されます。

Portfolio Express のアプリケーションがバックグラウンドで実行されていない場合は、「スタート」、「すべてのプログラム」、「Extensis」、「Portfolio」、「Portfolio Express」の順に選択します。

Portfolio Express パレットの起動時アプリケーションとしての設定

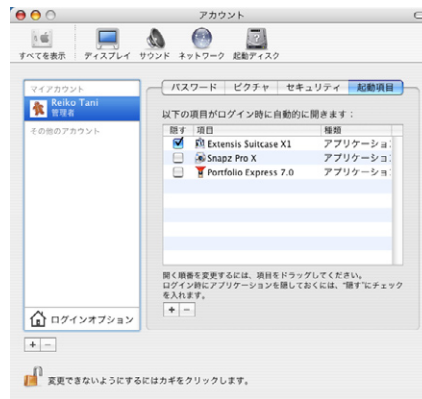
Portfolio Express を自動的に起動してバックグラウンドで実行するようにしておけば、Portfolio Express パレットのホットキーを押すだけで必要なときに画像にアクセスすることができます。

Macintosh では、Portfolio Express パレットは、マシンを立ち上げたときに自動的に起動するように環境設定されています。

Macintosh で Portfolio Express を自動的に起動するには

1. 「システム環境設定」ダイアログボックスを開きます。
2. 「アカウント」ウィンドウを開きます。

3. 「起動項目」タブをクリックし、「+」ボタンをクリックします。
4. 「追加」ダイアログボックスで、Portfolio のディレクトリに移動します。Portfolio Express のアイコンをクリックしてハイライトさせ、「追加」をクリックします。



次回コンピュータを起動したときに、Portfolio Express は自動的に実行されます。

Windows で Portfolio Express を自動的に起動するには

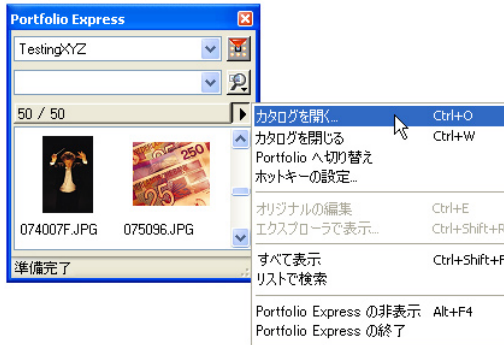
1. Windows エクスプローラーで、¥¥Documents and Settings ¥¥All Users¥ スタート メニュー ¥¥プログラム ¥¥スタートアップに移動します。
2. 新しいエクスプローラーのウィンドウを開いて、Portfolio をインストールしたディレクトリに移動します。これは通常次のディレクトリです。
¥¥Program Files¥Extensis¥Portfolio¥
3. Portfolio のフォルダから、Portfolio Express のアイコンを Alt キーを押しながらクリックして「起動時の動作」メニューにドラッグします。

Portfolio Express のショートカットが作成されます。次回コンピュータを再起動したときに、Portfolio Express は自動的に実行されます。

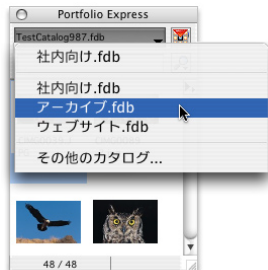
Portfolio Express パレットでカタログを開く

Portfolio Express パレットを最初に起動するときにはパレットは空で、カタログメニューには「開いているカタログがありません」というメッセージが表示されます。

カタログを開くには、パレットの右側にある矢印から「カタログを開く」メニューを選択します。



最近使ったカタログを開くには、パレットのカタログメニューから選択します。Portfolio Express パレットは最近開いたカタログをいくつか記憶しています。開きたいカタログが最近使用されたカタログのメニューにないときは、「カタログを開く」メニューを選択し、任意の Portfolio カタログを選択し、パレットからそのカタログにアクセスできるようにします。



パレットを使って一度開かれたカタログには、パレットの一番上にあるカタログメニューから切り替えることができます（開いているカタログは常にメニューの一番上に表示されます）。



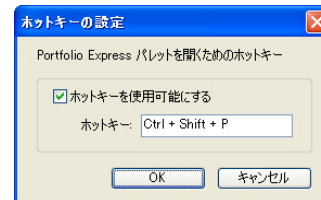
Portfolio Express パレットを使って Portfolio カタログを開く方法は、メインの Portfolio アプリケーションでカタログを開く方法と全く同じです。カタログがパスワードで保護されている場合は、パレットからカタログを開くために適切なパスワードを入力するように要求されます。

Portfolio Express ホットキー

Portfolio Express をバックグラウンドで実行していれば、Portfolio Express パレットのホットキーを押すだけで、カタログ化された画像にアクセスすることができます。

Portfolio Express パレットのホットキーを設定するには

1. パレットの右側のフライアウトメニューから「ホットキーの設定」コマンドを選択します。
2. Windows では、「ホットキーを使用可能にする」チェックボックスがオンになっていることを確認してください。それから、ホットキーのフィールドをクリックして、ホットキーとして使いたいキーの組み合わせを押してください。Macintosh では、ダイアログボックスが開いたら、使いたいキーの組み合わせを押すだけです。



3. 「OK」をクリックして、新しいホットキーをアクティブにします。ホットキーを使えば Portfolio Express パレットの表示 / 非表示を切り替えることができます。

非表示と終了

ホットキーまたは Windows システムトレイのパレットアイコンのダブルクリックでパレットを利用するためには、Portfolio Express アプリケーションがバックグラウンドで実行されている必要があります。したがって、パレットを閉じるときには、アプリケーション自体を終了せずにパレットを非表示にすることを推奨します。

パレットを非表示にするには

以下の方法で、(Portfolio Express アプリケーションを終了せずに) パレットを非表示にすることができます。

- ・パレットのタイトルバーのクローズボックスをクリックします。
- ・パレットの矢印メニューから「Portfolio Express の非表示」を選択します。

パレットアプリケーションを終了するには

Portfolio Express がバックグラウンドで実行されないように、完全に終了したい場合があるかもしれません（完全に終了した場合、ホットキーを用いてパレットにアクセスするにはアプリケーションを再起動する必要があります）。以下の方法でアプリケーションを終了することができます。

- ・パレットの矢印メニューから「Portfolio Express の終了」を選択します。
- ・Macintosh では、Portfolio Express に切り替えて、「ファイル」から「終了」を選択します。
- ・Windows では、システムトレイの Portfolio Express アイコンを右クリックして、メニューから「Portfolio Express を終了」を選択します。

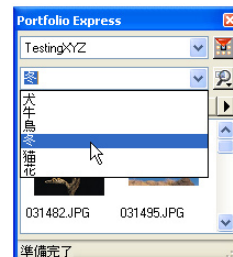
Portfolio Express パレットでのファイルの検索

パレットでカタログを開けば、パレットの上方、カタログのドロップダウンメニューのすぐ下にある「QuickFind」ボックスで任意のアイテムを検索することができます。

Portfolio Express パレットの「QuickFind」ボックスは、メインの Portfolio アプリケーションの「QuickFind」ボックスと全く同様に使用できます。任意のフィールドの組み合わせに基づいてファイルを検索することができます。「QuickFind」で使われるフィールドの組み合わせは、Portfolio の「QuickFind の環境設定」で設定します。

パレットからの「QuickFind」の実行

パレットから「QuickFind」を行うには、「QuickFind」ボックスをクリックして単語またはフレーズを入力し、Return キーを押します。マッチするアイテムがパレットに表示されます。



また、最近使った「QuickFind」をドロップダウンメニューから選択し、虫眼鏡アイコンをクリックすることでその検索を実行することができます。

パレットからの全アイテムの検索

カタログにあるすべてのアイテムを表示するには、「QuickFind」フィールドの右にある「虫眼鏡」アイコンをクリックしたまま、メニューから「すべてを表示」を選択します。

Portfolio Express パレットからのファイルへのアクセス（および使用）

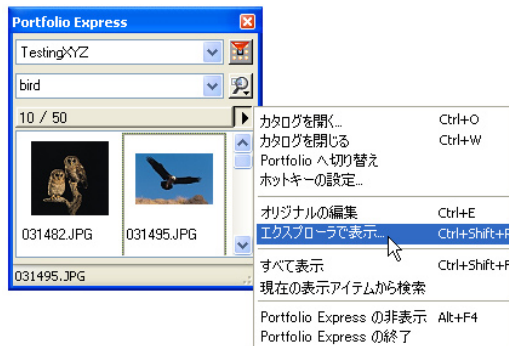
Portfolio Express パレットを使ってカタログ化されたアイテムに直接アクセスするには、以下の方法が使えます。

- サムネールをダブルクリックして、オリジナルのファイルを編集する。サムネールを選択して、フライアウトメニューから「オリジナルの編集」コマンドを選択することもできます。
- サムネールを Adobe Photoshop、Illustrator、FreeHand のような編集ソフトウェアのエイリアス（またはショートカット）の上にドラッグして、それらのソフトウェアで画像を開く。
- サムネールを（Microsoft Word や Adobe InDesign のような）ドラッグアンドドロップに対応したアプリケーションの文書にドラッグして、それらの文書に画像をコピーする。
- サムネールを右クリックするか（Win）、または Ctrl キーを押しながらクリック（Mac）して、メニューから「オリジナルの表示」を選択する。
- サムネールを選択して、フライアウトメニューから「エクスプローラで表示」（Win）または「Finder で表示」（Mac）を選択する。

- パレットの右上隅にある「Portfolio」ボタンをクリックするか、フライアウトメニューから「Portfolio へ切り替え」コマンドを選択して、Portfolio で現在開かれているカタログを開く。
- サムネールをパレットから電子メールのメッセージにドラッグすることにより、オリジナル ファイルのコピーをそのメッセージに添付する。
- Macintosh で、サムネールを QuarkXPress の文書にドラッグして、XPress レイアウトに画像を配置する。サムネールをピクチャボックスにドロップすると、選択された画像が既存のピクチャボックスに配置されます。それ以外の場合は、Portfolio Express がその画像のための新しいピクチャボックスを作成します。



Macintosh の場合、サムネールを Portfolio Express パレット（または Portfolio 自体）から QuarkXPress にドラッグするには、QX-Drag&Drop が必要です。この XTension を Portfolio の CD から Quark の XTension フォルダにコピーしてください。



カタログ管理

Portfolio は、複数のユーザーからなるワークグループがネットワーク上でカタログを共有して使用できるよう、特別に設計されています。

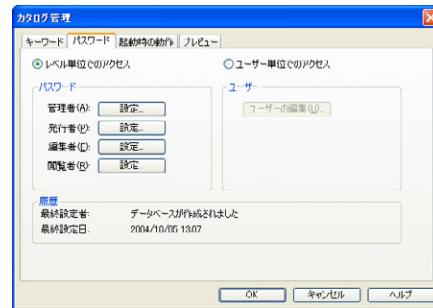
そのようなネットワーク環境では、どのユーザーがカタログにアクセスできるかということだけではなく、そのユーザーがどのレベルのアクセスを持つかということをコントロールできることが重要です。

例を示します。あるワークグループで、1人のユーザーが Portfolio カタログの設定を行い、他の誰かがすでに設定されたカタログに新しいアイテムを追加する作業をする場合があります。しかも、他のユーザーはカタログ化されたアイテムを使うことだけが必要な場合もあります。各ユーザーには、カタログに対して異なるレベルのアクセスが必要です。Portfolio では、以下で説明するようにそのようなアクセスレベルを設定することが可能です。

この章では、アクセスレベルだけでなく、Portfolio カタログの維持方法、および複数ユーザー環境でのカタログ機能の使用方法についても説明します。また、カタログ管理者にのみ許可されている機能ですが、使いやすくて役に立つカタログのシステムを設定するには重要な Portfolio の特定の機能についても取り上げます。

カタログのアクセスレベル

Portfolio カタログはセキュリティを守るためにパスワードを保護することが可能です。パスワードがカタログ管理者によって設定されている場合は、ユーザーはカタログを開くたびにパスワードを入力するよう要求されます。



カタログの管理者として、各ユーザーに異なったレベルのアクセスを割り当てることもできます。これにより、Portfolio でユーザーがどの機能を使用できるかをコントロールします。

4つのアクセスのレベル

管理者：管理者モードはすべての機能に対する完全なアクセスを持ちます。管理者は他のユーザーへのパスワードの割り当て、カスタムフィールドの作成、および他のユーザーにはできないカタログと起動時オプションのコントロールを行うことができます。カタログが管理者モードで開かれている場合は、他のユーザーはそのカタログを使用することはできません。新しいカタログを作成するときには、作成者はそのカタログに対して自動的に管理者モードになっています。

発行者: 発行者はカタログに対し、アイテムの追加、削除、エクスポートおよび編集を行うことができます。しかし、発行者は新しいカスタムフィールドの作成、マスターキーワードリストの作成、またはパスワードの変更などの管理者機能にはアクセスできません。

編集者: 編集者モードのときは、カタログ化されたアイテムの検索、プレビュー、およびアイテムに関する情報のアクセスおよび編集が可能です。しかし、カタログへのアイテムの追加、ファイル名の変更、またはアイテムの Web や QuickTime ムービーへのエクスポートを行うことはできません。

閲覧者: 閲覧者はアイテムの表示、検索、プレビュー、およびコピーを行うことができます。しかし、カタログに対するいかなる変更も行うことはできません。閲覧（参照）専用のモードです。

Portfolio では各アクセスレベルに対して別のパスワードを設定できます。または、どのユーザーがカタログに対してどのレベルのアクセスを持つかということをより詳細にコントロールするために、各ユーザーに対してアクセスのレベルとパスワードを割り当てることもできます（これはこの章で説明するように、「ユーザー単位でアクセス」と呼ばれる）。パスワードがアクセスレベル単位で割り当てられても、ユーザー単位で割り当てられても、アクセスレベルの機能は変わりません。

Portfolio のアクセスレベルは継承されます。つまり、管理者レベルは（他のすべての権限に加えて）他のすべてのレベルの権限を持ち、発行者レベルは編集者と閲覧者レベルの権限を持ちます。以下のレベルに関しても同様です。

管理者モードについて

最も高いアクセスレベルである管理者は、カスタムフィールドの作成やマスターキーワードリストの編集を含むすべての

カタログ機能に対するアクセスを持っています。他のユーザーは管理者が作成したカスタムフィールドでのデータ入力や、マスターキーワードリストからアイテムへのキーワードの適用を行うことができます。

管理者はすべてのアクセスレベルに対するパスワードの設定を行う必要があります。そして、管理者はパスワードの変更を行うことができる唯一のアクセスレベルです。カタログを作成するときは、作成者がそのカタログの設定に必要なすべての機能にアクセスできるように、作成者には自動的に管理者レベルのアクセスが与えられます。



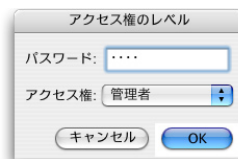
重要: 管理者が共有されたカタログを使用しているときには、他のユーザーはそのカタログにアクセスできません。管理者モードでカタログが開かれる場合は、各時点においてカタログにアクセスできるのは 1 人だけです。管理者モードでログインできない場合は、Portfolio（または Portfolio Express パレット）の別のコピーがすでに同じカタログを開いていると考えられます。

カタログを管理者モードで開く

カスタムフィールドの作成、マスターキーワードリストの作成、パスワードの設定、または「カタログ管理」ダイアログボックスの他の機能を使用する場合は、管理者モードでカタログを開く必要があります。

アクセス権のレベルを管理者モードに変更するには

1. 「カタログ」から「アクセス権のレベル」を選択するか、command キーを押しながら J キーを押すか（Mac）、または Ctrl キーを押しながら J キーを押します（Windows）。
2. 「アクセス権」ドロップダウンメニューから「管理者」を選択して、正しいパスワードを入力します（パスワードが設定されている場合）。
3. 「OK」をクリックします。



現在のアクセスレベルの変更に関する詳細については、このガイドの「Portfolio の設定」の章を参照してください。

カタログのパスワード保護

任意のカタログに対してパスワード保護を追加することが可能です。Portfolio Server を使用すれば、複数のユーザーがネットワーク上で1つのPortfolioカタログを同時に使用することができます。このような環境では、パスワードで保護することを強く推奨します。ただし、自身のコンピュータ上のカタログの唯一のユーザーである場合はパスワードを保護する必要はありません。

カタログに対するパスワード保護の最初のステップは、Portfolio での2つのアクセス方法、つまり「レベル単位でのアクセス」または「ユーザー単位でのアクセス」、のどちらを使うかを決定することです。

レベル単位でアクセス:「レベル単位でのアクセス」を用いれば、すべてのユーザーが4つのいずれかのレベル（閲覧者、編集者、発行者、管理者）で、レベル単位で共有された1つのパスワードを用いて、カタログを開くことができます。言い換えると、カタログのユーザー数にかかわらず、標準の各アクセスレベルに対して1つずつ、計4つのパスワードを設定するだけです。同じアクセスレベルでログインしているすべてのユーザー（たとえば、すべての「発行者」）は、同じパスワードを共有します。この方法は以前のバージョンのPortfolio で利用できた標準的なアクセス方法です。

ユーザー単位でアクセス:「ユーザー単位でのアクセス」を用いれば、各ユーザーに対して異なるアクセスレベルとパスワードを割り当てることができます。

アクセスレベルの方式を選択するには

1. カatalogを管理者モードで開き（前のページを参照）、「カタログ」から「設定」を選択します。
2. 「パスワード」タブで、「レベル単位でのアクセス」または「ユーザー単位でのアクセス」のいずれかのラジオボタンを選択します。
3. 選択したアクセス方法を使ってパスワードを設定することができます。

パスワードの設定（レベル単位でのアクセス）

「パスワードの設定」ダイアログボックスで4つの各レベルに対して「表示設定」ボタンをクリックして、各レベルのパスワードを設定します。各パスワードを入力して確認した後、「OK」をクリックします。



パスワードの長さは4文字から12文字の間でなければなりません。

パスワードの設定（ユーザー単位でのアクセス）

「ユーザー単位でのアクセス」の場合は、カタログにアクセスする各ユーザーに対してパスワードを設定する必要があります。

ユーザー単位のアクセスパスワードを設定するには

1. 「カタログ管理」ダイアログボックスの「パスワード」タブで「ユーザー単位でのアクセス」のラジオボタンがオンになっていることを確認します。
2. 「ユーザーの編集」ボタンをクリックします。

3. 「ユーザーアクセス」ダイアログボックスで、「新規」ボタンをクリックし、ユーザーに対しユーザー名、パスワード、およびアクセスレベルを割り当て、「OK」をクリックします。

4. 必要に応じて、カタログにアクセスする各ユーザーに対して上の操作を繰り返します。
5. ユーザーの追加を完了したら、「OK」をクリックして「カタログ管理」ダイアログボックスに戻ります。



パスワードの変更を反映するためには、カタログを閉じて、再び開く必要があります。

各ユーザーまたはパスワード、あるいはその両方を変更するには

1. 「カタログ管理」ダイアログボックスで、「ユーザーの編集」ボタンをクリックします。「ユーザーとグループ」ダイアログボックスが表示されます。
2. 編集したいユーザーを選択し、変更の内容に応じて、「編集」または「削除」をクリックします。



どのアクセスレベルに対してであっても、1度カタログがパスワード保護されると、カタログが開かれるときには必ずパスワードが要求されます。ユーザーは「アクセスレベル」ポップアップメニューからアクセスレベルを選択し、正しいパスワードを入力後、「OK」をクリックしてカタログを開くことができます。



閲覧者のパスワードだけを設定した場合でも、編集者、発行者または管理者としてログインするユーザーがそのカタログにアクセスするためには、その閲覧者のパスワードが必要になります。ただし、管理者のパスワードだけを設定した場合は、他のアクセスレベルでカタログにアクセスするためにパスワードを入力する必要はありません。

ユーザーリストのインポートとエクスポート

複数の Portfolio カタログに対してアクセスする複数のユーザーがいる場合は、1つのカタログでユーザーリストを作成し、エクスポートを行い、それを他のカタログで使うことができます。これにより、各カタログに対して手動でユーザー名とパスワードを入力する必要がなくなります。

ユーザーアクセスのリストをエクスポートするには

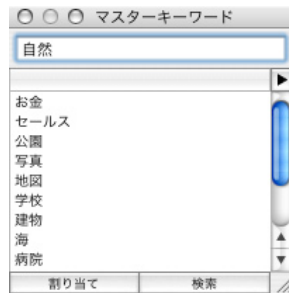
1. この章の前のほうで説明したように、カタログを管理者モードで開きます。
2. 「カタログ」から「設定」を選択して「カタログ管理」ダイアログボックスを開きます。
3. 「パスワード」タブをクリックします。
4. 「ユーザー単位でアクセス」オプションを選択し、「ユーザーの編集」ボタンをクリックします。
5. 「エクスポート」をクリックします。
6. ユーザーのリストから作成されるテキストファイルの名前と保存場所を入力します。
7. 「保存」をクリックします。

ユーザーリストをインポートするには

1. この章の前のほうで説明したように、カタログを管理者モードで開きます。
2. 「カタログ」から「設定」を選択して「カタログ管理」ダイアログボックスを開きます。
3. 「パスワード」タブをクリックします。
4. 「ユーザー単位でアクセス」オプションを選択し、「ユーザーの編集」ボタンをクリックします。
5. 「インポート」をクリックします。
6. ユーザーリストを含むテキストファイルを指定して開きます。

マスターキーワードリストの作成

カタログに対するマスターキーワードリストを作成することにより、カタログ内のアイテム間で、またはさまざまなカタログ間で一貫したキーワードを維持することができます。マスターキーワードリストを使用すれば、カタログ内でリストにあるキーワードだけが使用されるようにすることができます。



カタログ管理者としてマスターキーワードのリストを設定するのが、キーワードの一貫性を確実に保つ最良の方法です。

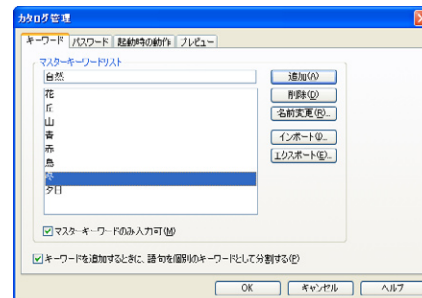
マスターキーワードリストを設定すると、そのリストは自動的に Portfolio のさまざまな場所に表示されます。

- マスターキーワードパレット上（「ウインドウ」から「マスターキーワードリストパレットを表示」を選択すると表示される）
- 「アイテムのプロパティ」ウインドウのキーワードパネル内
- 「カタログ作成オプション」ウインドウのキーワードパネル内

マスターキーワードは手動で入力、または既存のテキストファイルからインポートすることができます。

マスターキーワードリストへキーワードを追加するには

1. 「カタログ」から「設定」を選択するか、command キーと option キーを押しながら J キーを押すか（Mac）、または Ctrl キーと Shift キーを押しながら J キーを押します（Windows）。
2. 「キーワード」タブをクリックして、選択します。
3. ダイアログボックスの 1 番上にあるテキストボックスに新しいキーワードを入力し、「追加」をクリックします。すでにリストにある単語を入力した場合は「追加」ボタンは暗くなっています。
4. マスターキーワードの追加が完了したら、「OK」をクリックして変更を保存し、ダイアログボックスを閉じます。



マスターキーワードを名前変更または削除するには

1. 「カタログ管理」ダイアログボックスの「キーワード」パネルでキーワードを選択して、「名前変更」または「削除」をクリックします。
「名前変更」を選択した場合は、キーワードの新しい名前を入力します。
2. マスターキーワードの変更または削除が完了したら、「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、変更を保存します。



マスターキーワードリストからキーワードを削除しても、そのキーワードを割り当てられたアイテムからは削除されません。すでにアイテムに適用されているキーワードを変更（たとえば、すべての「高速」を「急速」に変更）するときは、「アイテム」から「フィールド値の編集」を選択してキーワードを変更します。

キーワードのエクスポートとインポート

あるカタログからマスターキーワードリストをエクスポートし、他のカタログでそのリストをインポートすることができます。これは複数のカタログ間でキーワードを共有する場合に便利です。また任意のカタログから標準のキーワードをエクスポートし、他のカタログのマスターキーワードリストにインポートし、そのキーワードリストに名前変更、追加、削除を行って、適当なマスターキーワードリストを作成するという場合もあります。

Portfolio は各キーワードが改行文字で区切られたファイルにキーワードをエクスポートします。したがって、任意の適当な形式のテキストファイルからマスターキーワードのリストをインポートすることもできます。

マスターキーワードリストをエクスポートするには

1. 「カタログ」から「設定」を選択するか、command キーと option キーを押しながら J キーを押すか（Mac）、または Ctrl キーと Shift キーを押しながら J キーを押します（Windows）。
2. 「キーワード」タブをクリックして、選択します。
3. 「エクスポート」をクリックします。
4. エクスポートするファイルの名前と保存場所を指定して、「保存」をクリックします。

任意のキーワードリストをマスターキーワードリストにインポートするには

1. 「カタログ」から「設定」を選択するか、command キーと option キーを押しながら J キーを押すか（Mac）、または Ctrl キーと Shift キーを押しながら J キーを押します（Windows）。
2. 「キーワード」タブをクリックして、選択します。
3. 「キーワード」タブで「インポート」ボタンをクリックして、インポートしたいキーワードを含むファイルを指定します。キーワードリストは各キーワードエントリが改行文字で区切られたプレーンテキストファイルに限ります。
4. 「開く」をクリックします。キーワードがマスターキーワードリストに追加されます。

カスタムフィールドの追加

Portfolio ではカタログ内のアイテムに関連したテキスト、日付、URL、または他の種類の情報を保存するためのカスタムフィールドを数に制限なく作成することができます。カスタムフィールドの作成と使用については、このガイドの「Portfolio によるファイルの整理」の章で詳細に説明しています。

カタログの起動時オプションの設定

カタログ管理者は、カタログが開かれる際のさまざまなアクションについてもコントロールすることができます。

これらのオプションは「カタログ管理」ダイアログボックスの「起動時の動作」パネルで利用できます。



検索ウィンドウを開く：Portfolio の起動時に「検索」ウィンドウを自動的に開きたい場合、このオプションをオンにします。これにより、複雑な検索を即座に始めることができます。このオプションは通常、Portfolio で最初に行う操作が「検索」ウィンドウから検索条件を操作するような場合に便利です。

マスターキーワードパレットを開く：起動時にマスターキーワードパレットを開きます。これにより、ユーザーが手動でマスターキーワードパレットを開く手間が省けます。

スライドショーを開始する：Portfolio を起動すると、フルスクリーンのスライドショーを開始し、カタログ内の全アイテムをスライドショーで表示します（指定されたスライドショーのオプションを使用します）。このオプションは、Portfolio を使用してプレゼンテーションをする場合や、カタログを開いたらすぐにプレゼンテーションを開始するように設定する場合に便利です。スライドショー機能の使用に関する詳細については、「ファイルの配布」の章を参照してください。

スプラッシュスクリーンを表示する：独自のスプラッシュスクリーンを Portfolio カタログに追加して、カタログが開かれるたびにそのスプラッシュスクリーンを（4 秒間）表示することができます。Portfolio を起動すると、標準の Portfolio スプラッシュスクリーンの直後に、カスタムのスプラッシュスクリーンが表示されます。

カスタムのスプラッシュスクリーンを追加するには

1. 「カタログ管理」の「起動時の動作」タブで、「スプラッシュスクリーンを表示する」オプションをオンにし、「開く」(Win) または「ファイルを選択」(Mac) をクリックします。
2. スプラッシュスクリーンとして使用する JPEG 画像のある場所へ移動し、「開く」をクリックします。
3. 選択された画像がダイアログボックスの「スプラッシュスクリーンの設定」セクションに表示されます。この画像が次回カタログが開かれたときにスプラッシュスクリーンとして使用されます。

カスタムのスプラッシュスクリーンを削除するには

1. 「カタログ管理」ダイアログボックスの「起動時の動作」タブで「クリア」ボタンをクリックします。



大きいスプラッシュスクリーンはカタログのサイズを増大させ、インポートに時間がかかる可能性があります。スプラッシュスクリーンを必要以上に大きくしないことを推奨します。

The screenshot shows a window titled "フィールド値のインポート" (Import Field Values). It contains two columns of field names: "インポートするファイルのフィールド" (Fields of file to import) and "Portfolio カタログのフィールド" (Portfolio Catalog Fields).

インポートするファイルのフィールド	Portfolio カタログのフィールド
アイテムID	X 追加し付き
カタログ登録日	X 追加しの URL
カタログ登録者	X アイテム ID
カメラモデル	X カatalog登録者
カメラメーカー	X 説定書
キーワード	X カメラメーカー
キーワード	X カメラモデル
クリエイター (Mac)	X 著作権者
サムネイルのサイズ	X 説明作成者
ショートファイル名 (Win)	X 文書タイトル
ディレクトリパス	X ディレクトリパス
パス	X パス
ファイル拡張子	X ファイル拡張子
ファイルタイプ (Mac)	X * X フィールドをスキップ(S)
ファイル名	X -> 読み込み(A)
ページ数	X = キーワード(K)
ボリューム番号	
ルーティング番号	X EXIF-ISO 感度
作成日	X EXIF-デジタル処理日
撮影日時	X EXIF-露光バリエーション

At the bottom, there is a checkbox labeled "置換する(但し、テキスト [数値の値] のフィールドが対象)" (Replace (but, text [numeric value] fields are targets)). Below it is a label "セットの保存:" followed by a dropdown menu showing "なし" (None), and two buttons: "インポート" (Import) and "キャンセル" (Cancel).

「フィールド値のインポート」ダイアログボックスで、「インポートファイルのフィールド」の見出しの付いた左側の列にテキストファイルからのフィールドヘッダーが表示されます。

4. テキストファイルの各フィールドヘッダーを、右側の列に一覧表示されている Portfolio カタログの適切なフィールド名に一致させます。ファイルのフィールドと Portfolio のフィールドを上下に動かして、フィールドの相対的な位置の順序を合わせます。

左右の列の間をクリックして、「インポート」メニューをアクティブにします。これにより、各フィールドに対して適切なインポート演算子（キー、インポート、またはスキップ）を選択することができます。演算子の機能は以下のとおりです。

キー (=) はキーの関係を定義します。Portfolio カタログの対応するフィールドの値と一致する値が、インポートされるデータの選択されたフィールドで検索されます。インポートで、指定できるキーの関係は 1 つだけです。

読み込み (-->) は、テキストファイルのフィールドが矢印の右側にあるカタログのフィールドにインポートされることを示します。

スキップ (x) は、テキストファイルのフィールドがカタログにはインポートされないことを示します。

5. インポートフィールドの設定が完了したら、将来使用するためにその設定を保存できます。設定を保存するには、「保存済みセット」のドロップダウンメニューから「別名で保存」を選択します。
6. データベースをインポートする準備ができたなら、「インポート」をクリックします。

Portfolio はテキストファイルの 2 番目のアイテムの各フィールドの値を（1 番目のアイテムはフィールドヘッダーなので、2 番目のアイテムが実際のデータを持つ最初のアイテム）、インポートの最初で指定された対応する Portfolio の各フィールドタイプの値と比較して、適切なデータタイプであるかどうかをチェックします。値が適切なデータタイプでない場合

は警告が表示され、インポートをキャンセルすることができます。

すべてのタイプが一致すれば、Portfolio はデータをインポートします。インポートの処理中、対応する Portfolio のフィールドタイプに一致しないフィールドのデータはスキップされます。

複数の値を入力できるフィールドのデータも置換する

「フィールド値のインポート」ダイアログボックスで、このチェックボックスがオンになっている場合は、複数の値を持つフィールドにインポートされた値は、Portfolio のアイテムの値を上書きします。このチェックボックスがオフになっている場合は、インポートされた値は Portfolio のアイテムリストの末尾に追加されます。

テキストファイルのインポートに関する技術的な注意事項

インポートされるファイルはフィールドがタブで区切られ、アイテムがキャリッジリターンで区切られたテキストファイルなので、インポートするデータのフィールド内にこれらの文字が含まれていないことを確認してください。もし、それらの文字がフィールド内に含まれていると、インポートは予期しない結果となります。

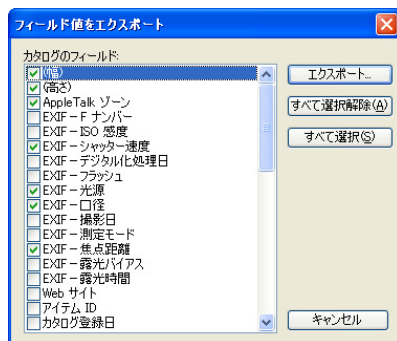
Portfolio は ASCII 標準に従っており、ASCII 11 を垂直タブとして認識します。この文字はフィールド内での改行を表すために使用します（たとえば、「説明」フィールドのようなテキストブロックで使用）。Portfolio はまた、ASCII 29 をグループ分離文字として認識します。この文字は複数の値を持つフィールド（たとえば、「キーワード」フィールド）内で、値を区切るために使用します。複数行または複数の値を持つデータを他のデータベースからエクスポートする場合は、必ずこれらの文字を使用してください。複数の値または複数行をもつフィールドをサポートしているデータベースには、これらの標準をサポートしているものもあります（たとえば、FileMaker Pro™など）。

データのテキストファイルへのエクスポート

Portfolio カタログのデータを、エクスポートするフィールドとスキップするフィールドを指定して、テキストファイルにエクスポートすることができます。アクティブなギャラリーで選択されているアイテムのデータのみがエクスポートされます。

カタログのフィールドをテキストとしてエクスポートするには

1. ギャラリーでテキストデータのエクスポートを行うアイテムを選択します。



2. 「ファイル」から「フィールド値のエクスポート」を選択します。
3. 「カタログのフィールド」リストの左端の列をクリックして、各フィールドのエクスポートを有効にするか無効にするかを設定します。チェックされているフィールドがエクスポートされます。
4. 「エクスポート」をクリックします。
5. エクスポートするファイルの名前を入力して保存場所を指定し、「OK」をクリックします。

Portfolio は選択された各アイテムの情報を含み、タブで区切られたテキストファイルをエクスポートします。このファイルは、アイテム内の各フィールドがタブで区切られ、各アイテムが改行で区切られたテキストファイルです。

テキストファイルのエクスポートに関する技術的な注意事項

エクスポートされるファイルはフィールドがタブで区切られ、アイテムがキャリッジリターンで区切られたテキストファイルなので、もしこれらの文字がフィールド内にあるとファイルを適切にフォーマットできません。したがって、Portfolio ではこれらの文字をフィールド内で使用することはできません。

Portfolio は ASCII 標準に従っており、ASCII 11 を垂直タブとして使用します。この文字はフィールド内での改行を表すために使用します（たとえば、「説明」フィールドのようなテキストブロックで使用）。Portfolio はまた、ASCII 29 をグループ分離文字として使用します。この文字は複数の値を持つフィールド（たとえば、「キーワード」フィールド）内で、値を区切るために使用します。複数の値または複数行をもつフィールドをサポートしているデータベースには、これらの標準をサポートしているものもあります（たとえば、FileMaker Pro など）。

保存済みのビューとフレームのインポートとエクスポート

Portfolio のインポートとエクスポートの機能を使って、保存済みのビューとサムネールのフレームをカタログからカタログへと転送することができます。



Portfolio アプリケーションフォルダの「保存済みのビュー」ディレクトリと「フレーム」ディレクトリにそれぞれ置かれた、保存済みのビューとフレームのファイルは、新しいカタログを作成する際に、自動的に新しいカタログに含まれます。

保存済みのビューをエクスポートするには

1. 「保存済みのビュー」のドロップダウンメニュー（各ギャラリーの右上隅にある）から「リストを編集」を選択します。

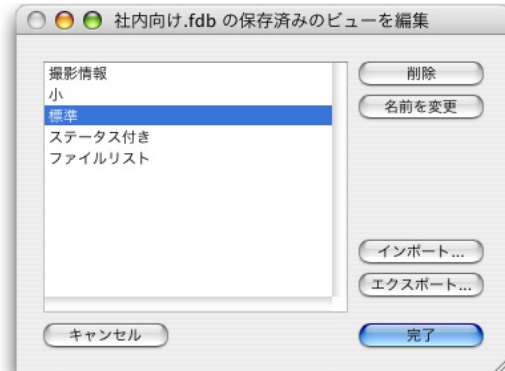


2. 「保存済みのビュー」ウィンドウから、エクスポートを行うビューを選択します。
3. 「エクスポート」ボタンをクリックします。
4. エクスポートされたビューの名前と保存場所を指定します。拡張子が .pvw のファイルとして保存されます。「保存」をクリックします。

Portfolio アプリケーションフォルダの「保存済みのビュー」フォルダに保存されたビューは、すべての新しいカタログに自動的に含まれます。

保存済みのビューをインポートするには

1. 「保存済みのビュー」のドロップダウンメニュー（各ギャラリーの右上隅にある）から「リストの編集」を選択します。
2. 「保存済みのビュー」ウィンドウで、「インポート」ボタンをクリックします。



3. 「保存済みのビュー」フォルダ（Portfolio アプリケーションフォルダにある）またはビューファイルをエクスポートした別の場所の、保存済みのビューのファイルを選択します。
4. 「完了」をクリックします。

サムネールのフレームのインポート

他のソフトウェアで作成され、PICT、TIFF、または BMP ファイルで保存されたフレームは、Portfolio にインポートして、サムネール表示およびアイテム表示の両方でサムネールのフレームとして使用することができます。フレームの使用とインポートに関する詳細については、「Portfolio カatalogのカスタマイズ」の章を参照してください。

Portfolio アプリケーションフォルダの「フレーム」フォルダに保存されたフレームは、すべての新しいカタログに自動的に含まれます。

カタログの維持

このセクションでは、カタログを良い状態に保つために行わなければならないいくつかの作業を取り上げます。

損傷したカタログのリカバリー

Portfolio カatalogを開くことができず、カタログの損傷が疑われる場合は、「リカバリー（または修復）」コマンドでカタログを修復できる場合があります。

また、特定のフィールドでソートや検索を行うときにクラッシュする場合も、「リカバリー」コマンドを実行します。

カタログ(C)	ギャラリー(G)	アイテム(I)	ウィンドウ(W)
アイテムを追加(A)...			
検索(E)...		Ctrl+F	
その他の検索(Q)...			
すべて表示			
カタログ作成オプション(O)...		Ctrl+Shift+D	
カタログ作成の詳細オプション(O)...			
自動カタログ化(L)...		Ctrl+B	
メタデータ設定(M)			
アクセス権のレベル(E)...		Ctrl+J	
設定(S)...		Ctrl+Shift+J	
カスタムフィールド...			
プロパティ(P)...			
起動時にへも表示(H)...			
起動時に開く(O)			
カタログのリカバリー(R)			
フォルダ同期を行う(U)			
NetPublish...			

カタログを修復するには

1. 修復するカタログを閉じます。開いているカタログに対して「リカバリー」コマンドを実行することはできません。
2. 「カタログ」から「カタログのリカバリー（または修復）」を選択します。ディレクトリダイアログボックスが表示されます。
3. 修復するカタログを指定して、「開く」をクリックします。再びディレクトリダイアログボックスが表示されます。
4. 修復されたカタログの新しい名前を入力し、保存場所を選択して、「保存」をクリックします。Portfolio がカタログをチェックし、損傷の修復を試みている間、進行状況ウィンドウが表示されます。
5. 完了状況レポートが表示されたら、「OK」をクリックします。修復されたカタログを開いて、すべてのアイテムが損なわれていないことを確認します。

Portfolio のネットワーク上での使用

1つのPortfolioカタログは複数のハードディスク、ネットワークサーバー、CD、DVD、またはリムーバブルディスク上にあるソースファイルへの参照を含むことができます。これはこれらのメディアがマウントされているかどうかには関係ありません。

ソースファイルがフロッピーディスク、CD、またはDVDなどのリムーバブルメディアに保存されている場合は、Portfolio はディスク名を表示してディスクを要求します。Portfolio はまた、移動したり、名前が変更されたソースファイルを要求します。

Portfolio Server によるカタログの共有

複数のユーザーがカタログに対して同時にアクセスするには、Portfolio Server を購入して、インストールする必要があります。サーバーソフトウェアは、Windows XP Pro または 2000、Mac OS サーバーマシン上でのカタログに対する接続を管理します。

Portfolio Server はカタログを開き、クライアントのためにネットワークを監視します。標準のPortfolioアプリケーションソフトウェア（クライアント）を使用しているエンドユーザーは、「サーバー接続」コマンドを用いてサーバーにアクセスします。サーバーに接続すると、ユーザーはカタログを選択して開くことができます。サーバーソフトウェアはカタログへのすべてのアクセスをコントロールします。



同時に接続可能なユーザーの数はマルチユーザーライセンス契約により設定されます。この上限に達した場合は、Portfolio Server はそれ以上の接続要求を拒否します。

Portfolio SQL Connect

Portfolio SQL Connect ソフトウェアを使用すれば、カタログを SQL サーバー上に置き、Portfolio クライアントからカタログにアクセスできます。これにより、カタログの管理に Portfolio を使用するすべての長所を利用しながら、データを SQL サーバー上に置くことができます。Portfolio SQL Connect ソフトウェアは別売のソフトウェアです。

ネットワークセキュリティの保護

サイトライセンス契約で指定された数の Portfolio を使用することができます。

ネットワーク上で Portfolio を実行するとき、アプリケーションはネットワークをチェックして、ネットワーク上で実行されている同じシリアル番号を持った Portfolio の数を調べます。サイトライセンス契約で指定された数以上の重複したシリアル番号を発見した場合は、警告ボックスが表示されます。「OK」をクリックして、警告ボックスを閉じます。この場合、他のユーザーが Portfolio を終了するまで、Portfolio を起動することはできません。



Portfolio のサイトライセンスを購入していない場合は、ネットワーク上で使用できる Portfolio の数は 1 つのシリアル番号に対して 1 つだけです。

公開されたカタログの管理

カタログ管理は単一ユーザーの機能です。つまり、管理者モードで開かれているカタログを他のユーザーが開くことはできません。

Portfolio Server 上では、カタログは他のユーザーと同時に共有されていますが、これは、カタログを管理者モードで使用する間は他のユーザーがそのカタログにアクセスできないことを意味します。カタログを管理者として開くと、他のすべてのユーザーはロックアウトされます。

他のユーザーがカタログを開いているときに、管理者モードに切り替えると、他のユーザーは即座にログオフされます。これを避けるには、「サーバーの設定」ダイアログボックスのオプションを使って、他のユーザーに（カタログを閉じて）自分自身でログオフするまでの時間を与えるか、彼らがログオフされるまでに一定の時間を与えるかのいずれかを行います。

不注意からユーザーがログオフされるのを避けるために、公開されたカタログは、たとえ「環境設定」ダイアログボックスで「デフォルトのアクセスモード」を管理者に設定していたとしても、管理者モードで開くことはできません。この場合、カタログはデフォルトで、発行者モードで開かれます。カタログを開いた後、ユーザーに警告して管理者モードに切り替えることができます（「カタログ」から「アクセスレベル」を選択）。

カタログを管理者モードで開いている間は、カタログがたとえ公開状態にあったとしても、そのカタログは他のユーザーの「サーバーへの接続」ダイアログボックスには表示されません。そのカタログを他のユーザーに公開するには、そのカタログを閉じるか、または違うアクセスモード（発行者、編集者、閲覧者）に切り替えます。

Portfolio Server 上でのカタログの設定に関する詳細については、『Portfolio Server ユーザーガイド』を参照してください。

索引

C

CD への書き込み 106
custom sort order 44

E

EXIF メタデータ 27
Express パレット 123
 カタログを開く 125
 設定 124
 ファイルの検索 126
 ファイルへのアクセス 127
 ホットキー 125
Express パレットの非表示 126
Extensis 社の連絡先 ii

G

gallery
 scratchpad 45

I

IPTC メタデータ 27

J

Java による自動化 38

M

MrSID 68, 69

P

PFZ 27, 68

PixellLive 27, 68
PixelSafe 27, 68
Portfolio カタログのカスタマイズ 35-54
Portfolio について 1
Portfolio によるファイルの管理 55-70
Portfolio のインストール 2
Portfolio の設定 13
Portfolio 7 の新機能 5
Portfolio Server 140
Portfolio SQL Connect 141

Q

QuickFind 36, 93
 カスタマイズ 94
QuickTime
 スライドショーの保存 120

S

scratchpad gallery
 saving 45
SID 68
sort order
 custom 44

T

TIFF メタデータ 27

U

URL
 カスタムフィールドタイプ 85

V

VFZ 27, 68
Visual Basic による自動化 38
Visual C++ による自動化 38

W

Web デザイナー 112
Web ページの作成 112
Web ページのヘッダーとフッター 115
Web ページのロゴ 114

X

XMP メタデータ 27

あ

アイテムの追加 18
アイテムのプロパティ 57, 87
 ファイル情報の編集 57
アイテム表示 49
アクセスレベル 15, 129
 変更 17
アシスタント
 Web ページの作成 112
新しいテンプレートの作成 114
あらかじめデザインされたテンプレート 113

い

一時ギャラリー 45, 95
印刷 66
 オプション 66

コンタクトシート 67
 単一画像 67
 インスタントカタログ作成 18

う

ウィザード
 Web ページ作成 112

え

「エクスポート」操作 118
 閲覧者
 アクセスレベル 130
 閲覧者のパスワード 16

お

オートシンク 78
 オリジナル
 消失ファイルの検索 65
 編集 58
 オリジナルファイルのディスクへの
 アーカイブ 107
 オリジナルファイルの編集 58

か

「開始」操作 113
 カスタムのソート順 44
 カスタムフィールド 83-87
 タイプ 83
 パレット 86
 カスタムフィールド値
 カタログ作成中の割り当て 23
 カスタムフィールドパレット 38
 画像
 新しいファイル形式へのバッチ変換
 59
 回転 60

画像の回転 60
 画像のバッチ変換 59
 カタログ
 アイテムの追加 18
 カスタマイズ 35-54
 管理 129
 旧バージョンからの変換 15
 継続的な更新 63
 公開された 141
 作成 13, 14
 開いたままにする設定 42
 開く 13, 15
 ファイルの削除 61
 プロパティ 41
 カタログ化されたファイルの他のプロ
 グラムへのドラッグ 62
 カタログからのファイルの削除 61
 カタログ作成
 インスタント 18
 オプション 20
 自動追加 39
 デスクトップからの 14
 ドラッグアンドドロップ 19
 ファイルの移動およびコピー 23
 ファイル名を変更 24
 フォルダ同期 19
 カタログ作成オプション 20-32
 「カタログ作成オプション」ウインド
 ウを隠す 25
 詳細 26
 保存 21
 カタログ作成の詳細オプション 26
 「カタログ選択」ダイアログボックス
 13
 カタログのアクセスレベル 16
 カタログの作成 13
 「カタログのフィールド」リスト 28
 カタログパレット 15, 37

カテゴリ 90
 アイテムの割り当て 91
 削除 91
 作成 91
 フォルダ同期 90
 カテゴリの作成 91
 画面プレビュー 13, 32, 136
 カタログ化されたファイル 33
 仮レコード
 検索 102
 追加 20
 環境設定 33
 一般 33
 画像単位 34
 起動時に「カタログ選択」ダイアロ
 グボックスを表示 34
 詳細 34
 ソートする言語 34
 複数ページアイコンの表示 34
 ムービーとサウンドの自動再生 34
 ユーザー名 34
 監視フォルダ
 削除 74
 追加 72
 管理
 カタログ 129
 管理者のパスワード 16

き

キーワード 79-82
 エクスポートとインポート 134
 カタログ作成中の追加 22
 削除 82
 追加 80-81
 テキストのドラッグアンドドロップ
 82
 パスから作成 79
 パスからのキーワードの作成 30

マスターキーワードの定義 37
キーワードの抽出 79
技術サポート 3
起動時オプション 135
起動時にカタログを開く 41
起動時の環境設定で「カタログ選択」
ダイアログボックスを表示 34
「基本設定」操作 114
ギャラリー 42-45
 アイテムの削除 43
 アイテムの追加 43
 一時 45, 95
 コピーする 45
 最新登録アイテム 43
 削除する 45
 自動的にソートする 44
 新規作成 43
 スマートギャラリー 46, 99
 ソート 89
 名前の変更 45
 起動時に開くように設定する 44
「ギャラリー」操作 115

け

検索 94
 条件 96
 書類内のテキスト 102
 複数のカタログ 101
 保存 98
「検索」コマンド 95
検索方法を保存 98

こ

公開されたカタログ 141
 開く 18
コンタクトシート 67

さ

最新登録アイテム 43
サムネール
 回転 60
 カタログ作成中のオプション 26
 再作成 64
 抽出と生成 26
 ビデオ 27
サムネールの再作成 64
サムネールのフレーム
 インポート 139
サムネール表示 48

し

システムの必要条件 2
自動再生の環境設定 34
自動追加 39
「詳細情報」操作 117
詳細設定 34
消失ファイルの検索 65
小数
 カスタムフィールドタイプ 84
書類のテキスト
 検索 102
新機能 5

す

数値
 カスタムフィールドタイプ 84
スクリプト 38
スタイルシート 116, 117
ステータスバー 36
スプラッシュスクリーン 135
スマートギャラリー
 作成 46, 99
スライドショー 119, 135

寸法の表示 34

せ

セキュリティ 16
説明
 カタログ作成中 22

そ

ソート 89
ソート順
 カスタム 44
ソートする言語の環境設定 34
ソフトウェアの必要条件 2
損傷したカタログ 140
損傷したカタログのリカバリー 140

た

ダブルクリックの環境設定 34

つ

ツールバー 36

て

定義済みリスト 85
ディスクへの書き込み 106
データのインポート 136
データのエクスポート 136
テキスト
 カスタムフィールドタイプ 84
テキストブロック
 カスタムフィールドタイプ 84
デフォルトのアクセスモード 17, 33
デフォルトの検索方法 100
デモモード 3
テンプレートのコピー 114

テンプレートの再表示 114
テンプレートの非表示 114

と

同期

フォルダ同期 76

登録とパーソナライズ 3

ドキュメントテキストのインデックス
化 30

トップページ 115

ね

ネットワーク

Portfolio の使用 140

ネットワークセキュリティ 141

は

パーソナライズ 3

はじめに 7

パスワード 16

パスワードの設定 131

パスワード保護 131

発行者

アクセスレベル 130

発行者のパスワード 16

パッチによるアイテムの編集 88

パッチ変換 59

ひ

日付 / 時刻

カスタムフィールドタイプ 84

必要条件

システムおよびソフトウェア 2

ビューの保存 53

表示 48-52

アイテム 49

カスタマイズ 49

ギャラリーへの適用 53

サムネール 48

保存されたビューの名前変更 54

リスト 48

ふ

ファイル

移動、コピー、削除 58

更新 63

名前の変更 60

ファイルタイプ

カタログ作成時のタイプの除外 31

ファイルに関する情報の取得 57

ファイルの検索 93

ファイルの更新 63

ドラッグアンドドロップによる 64

ファイルの収集 109

ファイルのディスクへの発行 106

ファイルの電子メールによる送信 105

ファイル名を変更 60

「フィールド値の編集」コマンド 88

フィールド値をインポート 136

フォルダ同期 19, 71-78

新しい同期フォルダの作成 75

自動カタログ化 39

同期 76

フォルダパレット 36, 72

ファイルの移動 75

ファイルのコピー 75

ファイルの表示 74

複数検索

QuickFind による 93

複数の値を入力できるフィールドの
データ 137

複数の値を持つリスト 85

複数ページアイコン表示の環境設定 34

プリント、印刷 を参照

プレビュー 55

オーディオ / ビデオ 56

「プレビュー」ウィンドウ 56

「プロパティ」ダイアログボックス 87

プロパティの設定

カタログ作成中 22

へ

ページスタイル 115, 117

編集者

アクセスレベル 130

編集者のパスワード 16

ほ

保存済みの検索方法パレット 38

保存済みのビュー

インポートとエクスポート 139

ホットキー

Express パレット 125

ま

マスターキーワード

定義 38

マスターキーワードパレット 37, 81,
94, 135

マスターキーワードリスト 133

め

メタデータ

新しいメタデータフィールドの追加
28

埋め込み 29

カタログ作成中の抽出 27

カタログフィールドのマッピング 28

抽出 29

メタデータ設定 28

メタデータリスト 28

ゆ

ユーザーガイドの概要 11

ユーザー単位でのアクセス 131

ユーザー名の環境設定 34

ユーザーリスト

 インポートとエクスポート 132

り

リスト表示 48

れ

レコード

 新規ファイルへリンク 61

レベル単位でのアクセス 131

連絡先 ii

ろ

ロゴ画像 115

